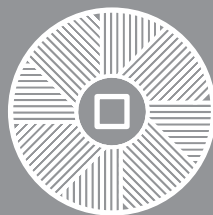


ISSN0913-8838

製粉 振興

2023
No.627
11



一般財団法人

製粉振興会

巻頭言

| | |
|-------------|---|
| 2023年を振り返って | 3 |
|-------------|---|

解説

| | |
|-----------------------------|---|
| 令和5年10月期の輸入小麦の政府売渡価格の改定について | 5 |
|-----------------------------|---|

農林水産省 農産局 農産政策部
貿易業務課 麦類需給第一係長 大塚将史

| | |
|---|----|
| 特定技能制度における 飲食料品製造業分野の外国人材の受入れ ～特定技能2号対象分野の追加について～ | 10 |
|---|----|

農林水産省 大臣官房 新事業・食品産業部
食品製造課 専門官(雇用・労働) 猪狩宗徳

| | |
|--|----|
| 「物流の2024年問題」と物流革新に向けた 「政策パッケージ」について | 19 |
|--|----|

農林水産省 大臣官房 新事業・食品産業部
食品流通課長 藏谷恵大

随想

| | |
|----|----|
| 蕎麦 | 25 |
|----|----|

お茶の水女子大学名誉教授 畑江敬子

小麦粉のある風景

| | |
|--------------|----|
| 揚げ物に合う調味料は何？ | 27 |
|--------------|----|

食文家 ひらのあさか

粉界展望

| | |
|---------|----|
| 世界の粉界展望 | 35 |
|---------|----|

| | |
|----------|----|
| ● 業界ニュース | 29 |
| ● 資料 | 49 |
| ● 年間目次 | 57 |
| ● 編集後記 | 59 |

2023年を振り返って

2023年も残すところ1か月余りとなったが、積極的にグローバル化が推進されてきたこれまでとは異なり、本年はブロック化や対立へ大きく振れた年ではなかっただろうか。ウクライナ紛争は終息の兆しが見えず、新たにイスラエル・ハマス紛争が勃発するなど、争いにより多くの人命が危機に晒されており、一方で、政治的な意図を背景とした輸出入規制や、今後発展が期待されるグローバルサウスを巡って民主主義国家と権威主義国家の両陣営間で激しい綱引きが展開されるなど、ブロック化・対立に関しては枚挙にいとまがない。

中でも穀物供給に大きな影響のあるウクライナ紛争は、2022年2月のロシアによるウクライナ侵攻から約1年9カ月が経過しており、穀物だけでなくエネルギー関連・肥料などについて世界的な供給不足・インフレを引き起こす要因となっている。現在もウクライナ各地で軍事衝突が継続しており、また7月に穀物輸出合意からロシアが離脱したことにより、穀物主要生産国であるウクライナからの輸出量が紛争前のレベルに達しない状況が続いている。こうした状況は、アフリカなど貧困に苦しむ国々に深刻な食料危機をもたらしており、更に近年は、地球温暖化による異常気象が毎年のように世界の穀物生産に大きな影響を与えていることも併せ考えると、世界で必要な穀物供給量の確保のためにも早期に以前の姿を取り戻すべく、関係各国が知恵を絞る必要があると考える。

一方、グローバルな動きを取り戻しつつあるものもある。2019年12月に中国武漢市で1例目の感染者が報告されてから短期間で世界に広がった新型コロナウイルス感染症については、世界的な感染者数の減少により各国の行動制限はほぼなくなり、それに伴い人流も急速に回復している。我が国においても、5月8日から感染症法上5類の位置づけとなり、外出自粛を求められることがなく、幅広い医療機関で受診可能となるなど季節性インフルエンザ同様の扱いとなった。国連によると、2023年の国際観光客数は新型コロナウイルス感染症拡大前の2019年比9割程度まで回復すると予測されている。我が国では中国からの観光客は本格的には回復していないものの、月別で見ると2019年の8割を超えるところまで戻ってきている。大きく変化した生活様式が以前のような形に戻ることは想定しづらいが、新たな生活様式の下、世界が活力を取り戻し、食に関連する業界が盛り上がることを期待する。

グローバル化であらゆるものが世界規模で繋がった現在、世界的なブロック化・対立や新型コロナウイルスなどの感染症は、サプライチェーンの様々な部分にボトルネックを発生させる。新型コロナウイルス感染症は落ち着きを見せているものの、今後も様々な出来事が長期に亘り世界を大混乱に陥れる可能性があり、我々もこれまでの常識を見直す必要に迫られている。今後、世の中が落ち着きを取り戻すことを期待しつつ、改めてこの1年を振り返り、製粉業界に関連する出来事について整理してみたい。

まず、世界はグローバルに人命に関わる危機を経験し、人命維持のため最も重要な食料安全保障についての議論が盛んに行われている。現に、国・エリアによっては実際に食料安全保障が脅かされており、ユニセフなど国連専門機関が7月に共同で発表した「世界の食料安全保障と栄養の現状」によると、世界で7億~8億人が飢餓に直面し、新型コロナウイルス感染症流行前の2019年と比較して1億2千万人増加している状

況にある。2015年の国連サミットで採択されたSDGsの2030年までに「飢餓をゼロに」という目標達成のために、全世界が重要性を認識し努力を惜しまないことが必要だろう。

我が国でも、食料安全保障を巡る議論が活発に行われており、最も注目されるのは、「不測時における食料安全保障」から「不測時に限らない平時からの食料安全保障」の実現を目指して議論されている食料・農業・農村基本法改正である。穀物などの輸入依存度の高い我が国においては、輸入品の価格高騰・サプライチェーンなどのリスク、国内産では労働力・後継者不足や肥料・飼料の高騰などのリスクが考えられる。農政の憲法と言われる食料・農業・農村基本法の改正に関連して、様々な面からの検討会・プロジェクトチームが立ち上がっているが、主要食糧である小麦についても8割が輸入であり、備蓄政策や国内生産力強化など安定供給を目指した議論が進むことを期待している。

2点目として、2023年4月期の輸入小麦の政府売渡価格については、2022年10月期に続き特例措置が講じられ、上昇幅が一部抑制されたが、2023年10月期はルール通りの改定により5期振りの引下げとなった。輸入小麦に関しては、供給面では国家貿易により安定的に調達できており、価格面でも、2007年に導入された透明性の高い相場連動制が小麦・小麦粉関連業界で広く認知されてきた。この相場連動制の適切な運用がサプライチェーンの各段階における円滑な価格転嫁に結びついており、小麦・小麦粉関連業界の中長期的な経営展開に寄与している。小麦・小麦粉関連業界は裾野が広く、どのような環境下においても安定した製品供給が求められる。国家貿易や相場連動制などの関連制度は、これまで長期にわたって安定供給を支える役割を果たしており、今後も安定した制度の運用が求められる。

3点目は国内産小麦についてである。令和6年産小麦の入札については、第1回目が本年9月13日、第2回目9月27日に行われ、北海道産はるきらりは10月20日に再入札が行われた。入札の結果としては、上場数量248千トンに対し225千トンが落札され、落札残数量は23千トンとなった。落札価格については、全銘柄平均の落札加重平均価格は基準価格比97.9%となり、主要銘柄では北海道産「きたほなみ」は98.6%、「ゆめちから」は98.7%とやや値を下げ、「春よ恋」は90.0%と下限に張り付く結果となった。今回の入札結果の特徴は、販売予定数量が968千トンで、購入希望数量を95千トン上回るミスマッチの状況にあり、また令和5年産小麦の全国的な豊作基調にもかかわらず、ユーザーの国内産小麦志向の高まりなども受けて、基準価格に近い落札加重平均価格となったことであろう。しかし、その内容については一律ではなく、上限に張り付く銘柄もあれば、下限に張り付く銘柄もあり、更に上場25銘柄中14銘柄に落札残が出るといった、銘柄ごとにより評価の分かれる入札結果であった。政府が発表した「食料安定供給・農林水産業基盤強化に向けた緊急対応パッケージ」にもあるように、食料安全保障の強化という面からも国内産小麦の安定生産は非常に重要であることは間違いない。今後も生産者と実需者が意見交換を重ねミスマッチの縮小を図りながら、中長期的な視野を持って国内産小麦の生産及び需要を拡大していくことが肝要である。

新型コロナウイルス感染症が落ち着きをみせ、ようやく経済回復への光が見え始めたところであるが、来年は所謂「物流の2024年問題」が控えている。中長期的な課題となるが、経済の血液と言われる物流を停滞させることがないように、業界を超えて協力し知恵を出しあい、来年末には「今年が良い年であった」と振り返ることができることを祈念したい。

令和5年10月期の輸入小麦の政府売渡価格の改定について

大塚 将史

1 はじめに

農林水産省は、令和5年9月12日に、「主要食糧の需給及び価格の安定に関する法律（平成6年法律第113号）第42条第2項」に基づき売り渡す輸入小麦について、令和5年10月期の政府売渡価格は、5銘柄加重平均（税込価格）で68,240円/トン、対前期比で11.1%の引下げとすることを決定しました（図1。プレスリリース資料等については農林水産省HPを参照。

URL：<https://www.maff.go.jp/j/press/nousan/boeki/230912.html>



以下、今回の輸入小麦の政府売渡価格の改定について説明させていただきます。

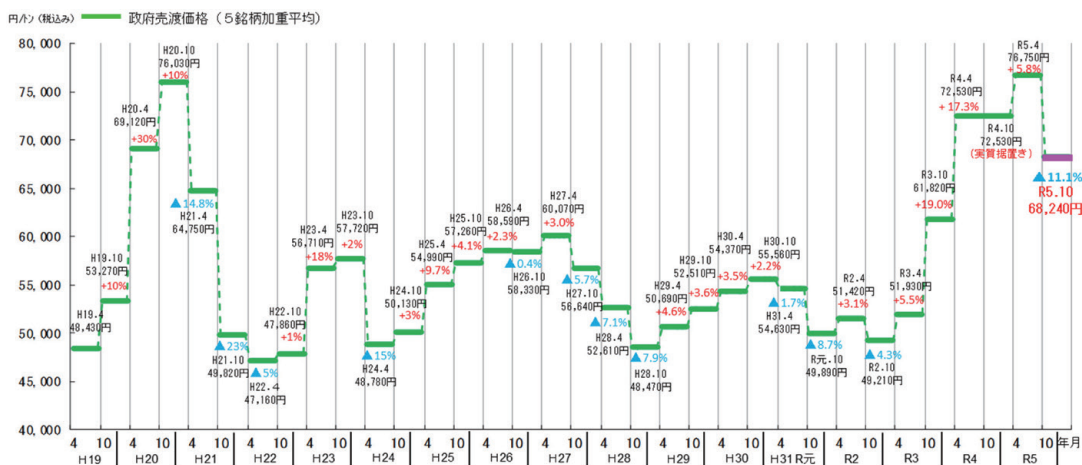
2 価格改定の基本的な考え方

輸入小麦の政府売渡価格は、国際相場の変動の影響を緩和するため、年2回（4月及び10月）の改定としており、過去6か月間の買付価格の平均値に、マークアップ（政府管理経費及び国内産小麦の生産振興対策費に充当）と港湾諸経費を上乗せして算定しています（図2）。

3 令和5年10月期の政府売渡価格

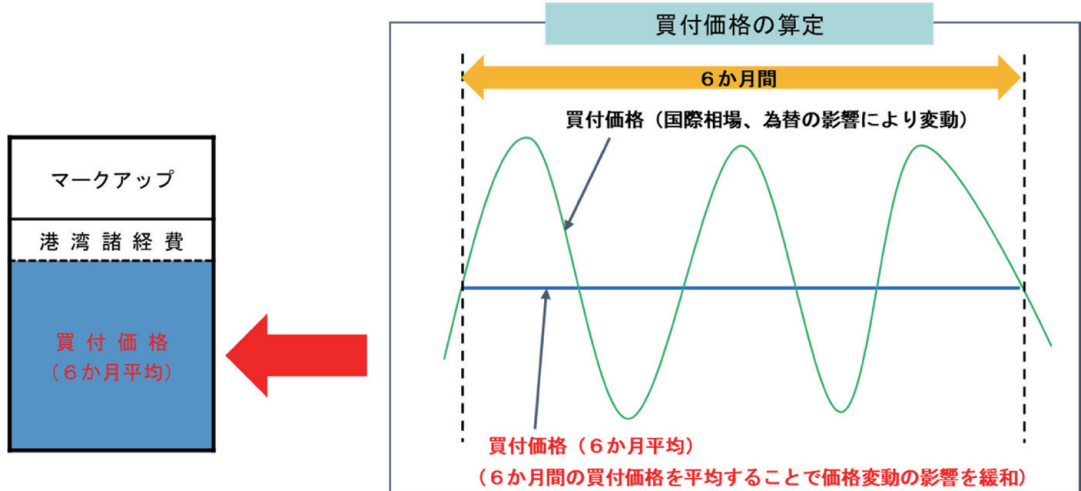
過去2回（令和4年10月期及び令和5年4月期）の価格改定においては、ウクライナ情勢による買付価格の高騰を抑えるべく、令和4年10月期においては緊急措置により実質据置き、令和5

図1 輸入小麦の政府売渡価格の推移



注：平成25年10月期以前は、消費税5%込みの価格であり、平成26年4月期以降は、消費税8%込みの価格である。

図2 政府売渡価格の構成



年4月期においては激変緩和措置として上昇幅の抑制を行ってきたところですが、最近の買付価格は、ウクライナ情勢前の水準に落ち着きつつあることから、令和5年10月期の政府売渡価格は、従前のルール通り、直近6か月間の平均買付価格をベースに算定しました。

令和5年3月第2週から9月第1週までの直近6か月間の平均買付価格 (5銘柄加重平均) について

は、米国の主要小麦産地での天候が小麦の生育に好条件であったこと、中国等の輸送需要の減少等により海上運賃が下落したこと等により、前期に比べ下落したことから、対前期比で11.1%の引下げとなる、68,240円/トン (税込み) となりました (図3~6)。なお、マークアップと港湾諸経費は年度当初に変更されており、今回 (10月期) は変更していません。

図3 令和5年10月期の政府売渡価格

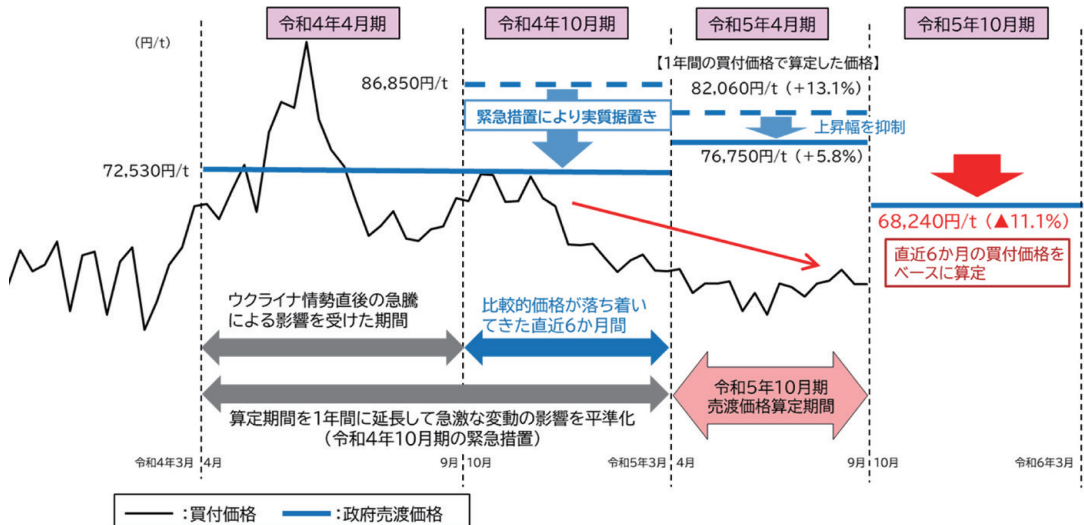
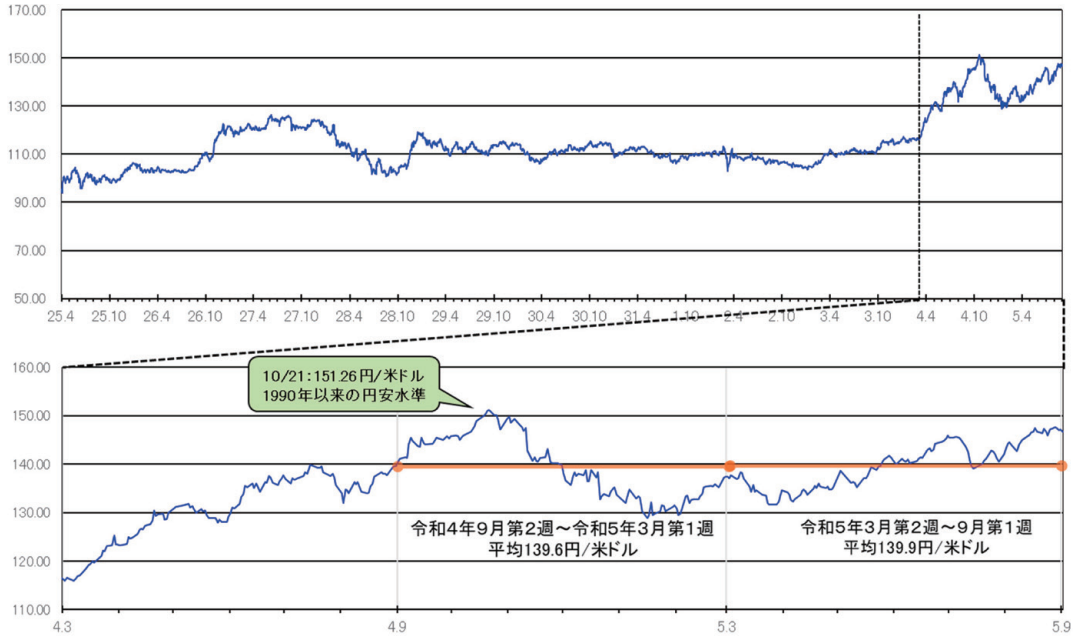


図6 為替の動向



注: 対米ドル 直物為替TTS (Telegraphic Transfer Selling Rate : 対顧客電信売)

4 今回の政府売渡価格の改定が物価・家計に及ぼす影響

次に、今回の政府売渡価格の改定によって、パンや麺等の小麦関連製品の小売価格にどのような影響が生じ得るかについて説明いたします。

パンや麺などの小麦関連製品の小売価格は、小麦粉以外に使用される様々な原材料代金のほか、製品の製造、販売、輸送等の経費など様々な要素から成り立っています。また、政府売渡価格は、政府が製粉企業等に売り渡す原料小麦(粒)の価格ですので、今回の政府売渡価格の改定による小麦関連製品の小売価格への影響を見る際は、小麦関連製品の小売価格に占める小麦粉代金ではなく、原料小麦(粒)代金の変動

を見る必要があります。

このため、まず小麦関連製品の小売価格に占める原料小麦代金の割合について、事業者の協力も得ながら当省で試算した結果、最低1%から、小麦粉でも28%程度となりました。この割合を用いて、今回の政府売渡価格の改定がこれら小麦関連製品の小売価格に与える影響を試算したところ、食パンは0.9% (1斤当たり2円程度) 減、中華そば(外食)は0.1% (1杯当たり1円程度) 減、小麦粉は3.9% (1kgあたり13円程度) 減となりました(表1)。

また、小麦関連製品に占める小麦の価格のみに着目し、当該価格がすべて今回の政府売渡価格の改定を反映していることを前提に試算した結果、今回の改定が消費者物価指数に与える影

表1 小麦製品への影響額（試算）

| | 小売価格に占める原料小麦代金の割合 | 価格改定の影響試算 (小売価格) |
|---------------|-------------------|------------------------------|
| ①食パン | 9% | ▲2.0円/1斤 (▲0.9%) (212円) |
| ②うどん (外食) | 1% | ▲0.9円/1杯 (▲0.1%) (750円) |
| ③中華そば (外食) | 1% | ▲0.7円/1杯 (▲0.1%) (583円) |
| ④小麦粉 (家庭用薄力粉) | 28% | ▲13.0円/1kg (▲3.9%) (337円) |

※1：小売価格は、総務省「小売物価統計調査」(東京都区部、令和5年7月)による。

※2：小麦粉製品ごとの原料小麦代金の割合、原料小麦の価格改定率により試算。

※3：食パン1斤は400gとして試算。

※4：小麦関連製品に占める小麦粉になる前の原料小麦（粒）の価格のみに着目し、当該価格が全て今回の政府売渡価格の改定を反映していることを前提として試算したものであり、実際の販売価格とは異なる。

響は0.012%程度の減少となりました。

なお、これらはいくまで農林水産省が、小麦関連製品に占める小麦粉になる前の原料小麦（粒）の価格のみに着目し、当該価格が全て今回の政府売渡価格の改定を反映していることを前提として試算したものであり、実際の販売価格とは異なるものですので、御留意ください。

5 終わりに

以上、令和5年10月期の輸入小麦の政府売渡価格の改定について御説明いたしました。

農林水産省は、消費者等に対して、輸入小麦

の政府売渡価格の背景等の情報提供を行うとともに、専門の相談窓口を通じ、各種の相談を受け付けています。また、併せて小麦関連製品の小売価格の動向把握に努めています。今後とも、小麦の国際価格の動向を踏まえ、製粉各社とも連携を密にし、需要に応じた小麦の確保に取り組んでまいります。

引き続き、関係者の皆様の御理解と御協力をお願いいたします。

（ 農林水産省 農産局 農産政策部
貿易業務課 麦類需給第一係長 ）

特定技能制度における 飲食料品製造業分野の外国人材の受入れ ～特定技能2号対象分野の追加について～

猪 狩 宗 徳

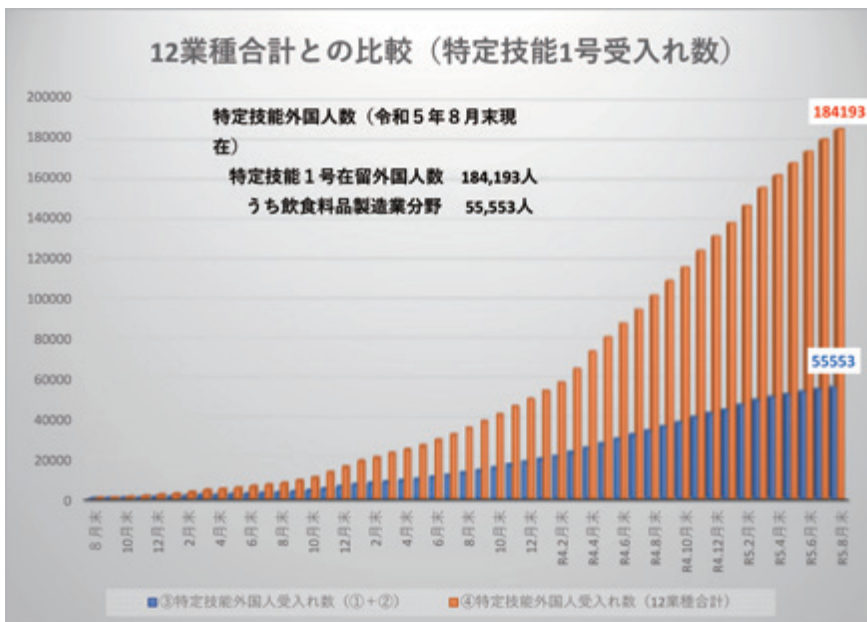
○特定技能制度の概要

「特定技能」制度とは、中小・小規模事業者をはじめとした深刻化する人手不足に対応するため、生産性向上や国内人材の確保のための取組を行ってもなお人材を確保することが困難な状況にある産業上の分野において、一定の専門性・技能を有し即戦力となる外国人を受け入れていくものです。

2019年4月から、人手不足が深刻な特定産業分野^(注1)において「特定技能」での新たな外国人材の受入れが可能となりました。

特定技能制度における特定産業分野は現在12分野となっており、その受入れ人数は、その分野で相当程度の知識や経験を必要とする特定技能1号が184,193人、熟練した技能を要する特定技能2号が17人（建設分野のみ）となっています。農林水産省における対象分野は、農業、漁業、飲食料品製造業、外食業の4分野になりますが、中でも飲食料品製造業の受入れ数は55,553人で、12分野に占める割合は約30%と高く、また技能実習修了者からの特定技能への在留資格変更が約70%を占めています〔いずれも

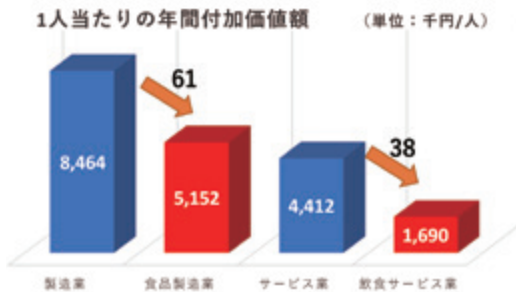
資料1



資料：出入国在留管理庁のデータを基に農林水産省で作成

資料2

食品産業における労働生産性の現状



資料：財務省法人企業統計(令和3年度)を基に農林水産省で作成

2023年8月末現在]。

○食品業界の昨今の人手不足状況

食料品製造業は、傷みやすく均一性の乏しい生鮮品を取り扱うことが多いため、産出額当たりの人手が多くかかり、他産業に比べて労働生産性が低いという特徴があります。

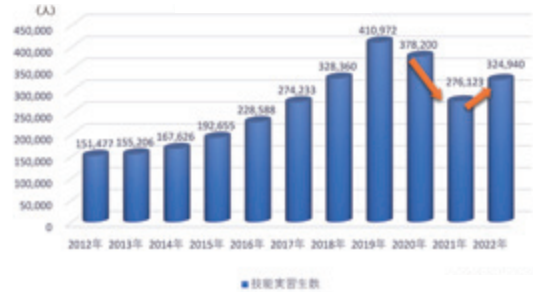
このように食料品製造業では、日本全体で生産年齢人口が減少して労働力確保が課題になる中、労働力不足が特に深刻な状況となっています。そのような状況下での食料品製造業における労働力不足を解消する手段の一つが、外国人労働者の活用です。

国内の在留外国人数は約308万人おり、その中で全産業の外国人労働者は約182万人で、そのうち製造業は約49万人(全産業の約27%)、さらに食料品製造業としては約14.8万人(全産業の約8.0%)[2022年10月末現在]います。

食料品製造業の有効求人倍率^(注2)は特定技能制度発足当時の2019年4-6月期は2.81で、その後コロナ禍で多少の増減はあるものの、2023年4-6月期は2.98と微増な状況で、同時期の全産業の有効求人倍率1.23と比較しても高く、人

資料3

技能実習生数の推移 各年12月末の数値



資料：出入国在留管理庁調べ「在留外国人統計」を基に農林水産省で作成

手不足感は変わっていません。

○技能実習制度について

外国人技能実習制度は、国際貢献のため、開発途上国等の外国人を我が国で一定期間(最長で5年間)に限り受け入れ、OJTを通じて技能を移転する制度であり、コロナ禍の水際対策等の影響で国内の技能実習生は、2021年12月末は27.6万人まで減少したものの、2022年12月末現在では32.5万人まで回復しています。

現在技能実習2号の移行対象職種は88職種161作業あり、食品製造関係では11職種18作業となっています(2023年9月末現在)。このうち医療・福祉給食製造の職種^(注3)を除き、そう菜製造業、非加熱性水産加工食品製造業、パン製造等の10職種については、技能実習2号を良好に修了すれば、1号特定技能外国人に必要なとされる「相当程度の専門的知識・技能や日本語能力を有する」と評価し、1号技能測定試験及び日本語能力試験を免除することで、飲食料品製造業分野の特定技能1号の在留資格を取得することが可能です。

○特定技能制度と技能実習制度の相違点

前述のとおり、技能実習は、あくまで専門的知識や技術の取得を目的とした研修であるため、従事できる作業、関連業務・周辺業務の割合、受入れ人数などに制限があるほか、技能実習中の帰国や転職は認められていませんが、かたや入国する時点では、技能・日本語能力について特別な基準は設定されていません。

一方、特定技能制度は、一定の専門性・技能を持ち即戦力となる外国人材の就労を目的としており、従事できる業種、業務範囲は広く定められているほか、一時帰国や転職も認められています。

○飲食料品製造業分野の対象範囲と業務

飲食料品製造業分野の1号特定技能外国人を雇用できる事業所は、日本標準産業分類^(注4)に掲げる産業のうち主たる業務として、①中分類である食料品製造業、②小分類である清涼飲料製造業、③茶・コーヒー製造業(清涼飲料を除く)、④製氷業、⑤細分類の菓子小売業(製造小売)、⑥パン小売業(製造小売)、⑦豆腐・かまぼこ等加工食品小売業(製造小売に限る)などに従事していただきます。

上記⑤、⑥及び⑦の製造小売は、自ら製造した製品を店舗によりその場で個人又は家庭用消費者に販売する製造と小売が不可分一体の事業形態であることから、当分野の対象としています。

なお、飲食料品製造業分野には、酒類製造業、塩製造業、医薬品製造業、香料製造業、飲食料品卸売業、ペットフード等の飼料製造業、スーパーマーケット等の飲食料品小売業等は含まれません。例えば、飲食料品卸売業者及び飲食料品小売業者のプロセスセンターや外食事業者

のセントラルキッチン等の独立した事業所で飲食料品の製造・加工を行う場合は、当分野の対象としていますが、スーパーマーケットのパックヤードなどは、主要な経済活動が飲食料品の製造・加工ではないため、当分野の対象とはなりません。

また、外国人が従事する業務は、飲食料品製造業全般(酒類を除く飲食料品の製造・加工、安全衛生)であり、特別な食品衛生管理の技能を必要としない業務(梱包された製品の箱詰め、野菜の泥落としなどの軽度な加工作業、製品の運搬・荷役作業)などは対象とならないので注意が必要です。ただし、日本人が通常従事している原料の調達・受入れ、製品の納品、清掃、事務所の管理の作業等関連業務に付随的に従事することは可能です。

加えて、雇用形態は直接雇用のみで派遣は認められていません。

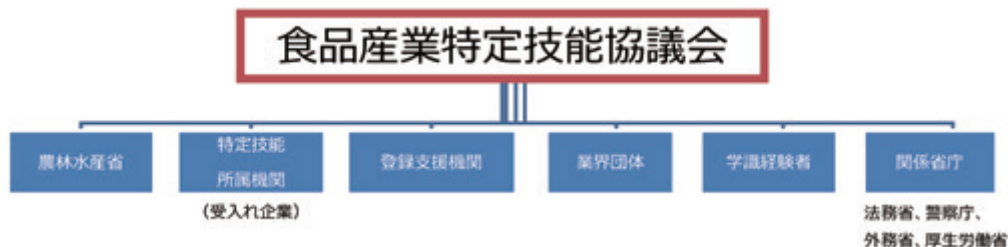
○特定技能外国人の人材の基準

飲食料品製造業分野において特定技能1号の在留資格で受け入れる外国人は、飲食料品製造業特定技能1号技能測定試験のほか、日本語の能力水準を満たす試験^(注5)にも合格する必要があります。一方、飲食料品製造業分野の技能実習2号を良好に修了した者については、上記の技術試験や日本語能力試験のいずれも免除され、特定技能1号の在留資格を取得することが可能です。

○食品産業特定技能協議会の設置と活動内容

飲食料品製造業分野及び外食業分野における制度の適切な運用を図るため、2019年3月29日に食品産業特定技能協議会(以下「協議会」と

資料4



いう。)を設置しました。

協議会においては、構成員の連携の緊密化を図り、各地域の事業者が必要な特定技能外国人を受け入れられるよう、制度や情報の周知、法令遵守の啓発のほか、地域ごとの人手不足の状況を把握し、必要な対応等を行うこととしています。また、大都市圏など特定地域に外国人が過度に集中することを防止する観点から、協議会において「特定技能所属機関による外国人労働者の引き抜き防止に係る申し合わせ」を定め、周知を図っています。

特定技能所属機関（受入れ企業）及び登録支援機関は、特定技能外国人を受け入れた日から4カ月以内に協議会の構成員になり、協議会・農林水産省の活動に対し必要な協力を行うことが求められています。特定技能所属機関等が加入申請を行わない場合、受け入れた特定技能外国人の就労が認められないほか、出入国在留管理庁への在留資格の更新を行う際に、更新申請が承認されないので注意が必要です。

○受入れ上限数

特定技能制度では、2019年4月から2024年3月末までの5年間で、12分野合計で最大34万5,150人の外国人労働者受入れを見込んでいます。2022年8月に、受入れ総数は変えず特定産業分

野ごとに受入れ上限数の見直しを行い、その結果「飲食料品製造業分野」は3万4,000人から8万7,200人に変更しました。コロナ禍で外食を控える動きが進んだ影響で、そう菜や完全調理済み食品類、麺類、冷凍食品など加工食品のいわゆる巣ごもり需要で消費が増加したことや、業界の労働需要が拡大し、外国人材ニーズが高まったことで特定技能外国人の受入れが大幅に増加したことが要因の一つと考えられます。

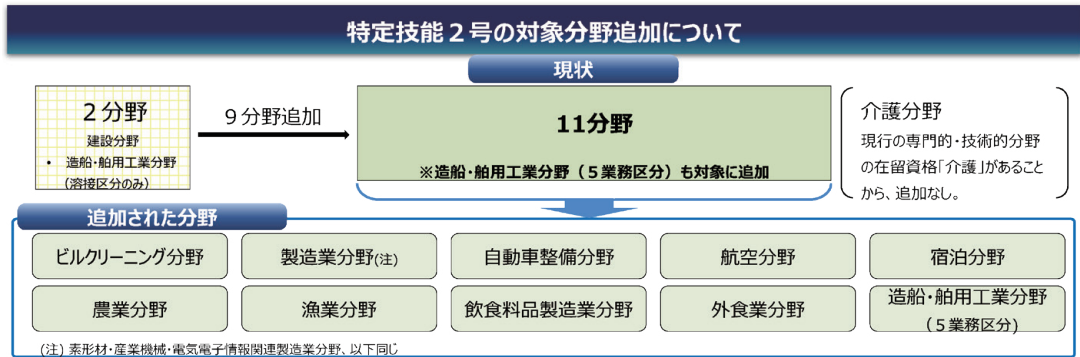
また、特定技能制度の開始後に技能実習2号の対象とされた「非加熱性水産加工食品製造業職種（調理加工品製造作業、生食用食品製造作業）」を修了した者について、同職種での試験免除措置の規定の整備も併せて行われました。

○特定技能2号の追加について

2023年6月9日、閣議決定により、特定技能の在留資格に係る制度の運用に関する方針（分野別運用方針）の変更が行われました。これにより、特定技能2号が介護を除く11分野で対象となりました（介護は現行の専門的・技術的分野の在留資格「介護」があることから、特定技能2号の追加はしていません。）。

建設と造船・船用工業分野は、制度発足当初から特定技能2号がありました。造船・船用工業分野は、これまで「溶接」区分のみが2号の対

資料5



象となっていました。今回、残りの業務区分も2号に追加されました。

11分野で特定技能2号が対象となったことにより、在留期間が通算5年と限定されている特定技能1号の者が、各分野で指定した特定技能2号試験等に合格することで、今後日本で継続して働く機会が増えることが期待されます。

ただし、特定技能2号は管理職相当の立場と

いう位置づけであるため、技能実習1号、2号、3号のように延長線上にあるわけではなく、特定技能1号とは全く別の在留資格と捉えていただいた方が良くもありません。

前述のとおり、特定技能1号が相当程度の知識又は経験を要する業務に従事し、即戦力となる一般労働者という位置づけである一方、特定技能2号は、熟練した技能を要する業務に従事し、

資料6

| 分野別運用方針の改正内容（特定技能2号の業務内容） | | | |
|---------------------------|---|----------|---|
| 分野名 | 業務内容 | 分野名 | 業務内容 |
| ビルクリーニング分野 | 建築物内部の清掃に、複数の作業員を指導しながら従事し、現場を管理する業務及び同業務の計画作成、進行管理その他のマネジメント業務 | 宿泊分野 | 複数の従業員を指導しながら、宿泊施設におけるフロント、企画・広報、接客、レストランサービス等の宿泊サービスの提供に従事する業務 |
| 素形材・産業機械・電気電子情報関連製造業分野 | 機械金属加工区分：複数の技能者を指導しながら、素形材製品や産業機械等の製造工程の作業に従事し、工程を管理（他区分も同等の業務内容） | 農業分野 | 耕種農業区分：耕種農業全般（栽培管理、農産物の集出荷・選別等）及び当該業務に関する管理業務（他区分も同等の業務内容） |
| 造船・船用工業分野（5業務区分） | 塗装区分：複数の作業員を指揮・命令・管理しながら塗装作業（金属塗装作業、噴霧塗装作業）に従事（他区分も同等の業務内容） | 飲食品製造業分野 | 飲食品製造業全般（飲食品（酒類を除く。）の製造・加工及び安全衛生の確保）及び当該業務に関する管理業務 |
| 自動車整備分野 | 他の要員への指導を行いながら従事する自動車の日常点検整備、定期点検整備、特定整備、特定整備に付随する一般的な業務 | 外食業分野 | 外食業全般（飲食物調理、接客、店舗管理）及び店舗経営 |
| 航空分野 | 空港グランドハンドリング：社内資格等を有する指導者やチームリーダーとして、地上走行支援業務、手荷物・貨物取扱業務等に従事し、工程を管理 航空機整備：自らの判断により行う、機体、装備品等の専門的・技術的な整備業務等 | 漁業分野 | 漁業区分：漁業（漁具の製作・補修、水産動植物の探索、漁具・漁労機械の操作、水産動植物の採捕、漁獲物の処理・保蔵、安全衛生の確保等）、操業を指揮監督する者の補佐、作業員の指導及び作業工程の管理。（他区分も同等の業務内容） |

- ・ 自らの判断により高度に専門的・技術的な業務を遂行する事
- ・ 監督者として業務を統括しつつ熟練した技能で業務を遂行する事が求められます。

具体的には、飲食料品製造業分野では、担当部門長、ライン長、班長クラスなどのイメージです。参考ですが、外食業分野では、店长、エリアマネージャー、事業所責任者などが対象のイメージになります。

どの企業でも、これらの管理職相当になれる者は限られていると考えられるため、特定技能2号の在留資格を取得することは容易ではありません。

資料6は、特定技能2号の各分野の業務内容をまとめたものです。飲食料品製造業分野は、酒類を除く飲食料品製造業全般の製造加工及び安全衛生の確保及び当該業務に関する管理業務を行うこととなります。

特定技能2号の在留資格要件は、各分野で指定された対象試験の合格及び実務経験を有することが必要です。

実務経験については、飲食料品製造業分野では、複数の作業員を指導しながら作業に従事し、工程を管理する者として管理等実務経験を2年以上有することを要件としています。管理等実務経験は管理職相当又は管理職をサポートする業務(例えば工場長をサポートするような業務)をイメージしています。

また、資料7は各分野の特定技能2号になるための試験類をまとめたものです。

分野によっては、特定技能2号試験に代わって、既存の技能検定試験でも特定技能2号の受験の対象になるものがあります。しかし、飲食料品製造業分野では、技能検定試験は食品製造業の一部の業種に限定されているため、それぞれの業種で身に着ける知識や実技の公平性を保つため、既存の技能検定試験は活用せず、飲食

資料7

| 分野別運用方針の改正内容 (特定技能2号の技能水準) | |
|---|---|
| ○ 特定技能2号の要件は試験合格及び実務経験を有していること。 | |
| ○ 課される試験は、 分野所管省庁が作成・実施する技能試験 及び 既存の各種試験 | |
| | 試験名 |
| ビルクリーニング分野 | 「ビルクリーニング分野特定技能2号評価試験」又は「技能検定1級」 |
| 素形材・産業機械・電気電子情報関連製造業分野 | 「製造分野特定技能2号評価試験」及び「ビジネス・キャリア検定3級」又は「技能検定1級」 |
| 建設分野※1 | 「建設分野特定技能2号評価試験」、「技能検定1級」又は「技能検定単一等級」 |
| 造船・船用工業分野※1 | 「造船・船用工業分野特定技能2号試験」又は「技能検定1級」 |
| 自動車整備分野 | 「自動車整備分野特定技能評価2号試験」又は「自動車整備士技能検定試験2級」 |
| 航空分野 | 「航空分野特定技能2号評価試験」又は「航空従事者技能証明」 |
| 宿泊分野 | 「宿泊分野特定技能2号評価試験」 |
| 農業分野 | 「2号農業技能測定試験」 |
| 漁業分野 | 「2号漁業技能測定試験」※2 |
| 飲食料品製造業分野 | 「飲食料品製造業特定技能2号技能測定試験」 |
| 外食業分野 | 「外食業特定技能2号技能測定試験」※2 |

※1 建設分野及び造船・船用工業分野(溶接区分)については既に特定技能2号の対象となっているもの。

※2 分野の特性上、一定の日本語能力を有することが業務上必要であることから、技能試験の一環として「日本語能力試験(N3以上)」を課す。


料品製造業2号技能測定試験にて能力を測ることとしています。

1号試験と2号試験の大きな違いは、1号はその分野の知識等があれば合格できる能力試験ですが、2号は、管理者相当の知識や経験を求めるため、選別的な意味合いが強く、合格率も国家資格である技能検定試験1級と同様の3割程度を想定しています。

更に、漁業分野及び外食業分野においては、特定技能2号技能評価試験に加え、日本語能力試験(N3以上)の水準に合格する必要があります。漁業では、他の産業と比較して作業中の事故発生が多く、安全確保のためのとっさの指示への理解力が必要なこと、外食業は接客が多く、食物アレルギー等の情報提供や、顧客の要望を聞き取り対応する能力を求められるため、分野の判断で日本語能力試験の実施を追加しています。

なお、2号試験の具体的な実施時期ですが、来年5月以降、特定1号で最初に入国された外国人労働者が、在留期間上限の5年を超過する時期（農林水産省関係の分野では、2024年6月に飲食料品製造業分野で1人、7月に外食業分野で1人、8月に農業分野で3人、10月に漁業分野で2人）の特定技能1号の5年を満了する者が現れるため、この時期の前に、本年の秋以降、特定技能2号の試験の実施を行う予定です。現在、関係省庁や関係団体内で試験の作成が進んでいる段階であり、試験の実施は各分野にて公表されます。

特定技能2号は、在留資格の条件として、飲食料品製造業分野では2年以上の管理等実務経験が必要とされていますが、特定技能1号での在留期間の残りが2年を切っている外国人労働者もおり、特定技能1号の期間満了まで2年の実務経験を積めない方もいます。その方について

は経過措置を設けています。例えば、閣議決定の日（2023年6月9日）の翌日以降から残りの在留期間が1年6カ月しかない場合は、そこから人事発動のための準備期間としての6カ月を引いた期間（1年間）を実務経験期間として特定技能1号の満了日まで行っていただきます。詳しくは、当省HPにて公表されている分野別の「運用要領」及び「運用要領別冊」を御参照ください。
(<https://www.maff.go.jp/j/shokusan/sanki/soumu/tokuteiginou.html>) 

特定技能2号は、特定技能1号が通算で上限5年という在留期限があるのに対し、在留資格の更新を続ける限り国内で就労することが可能になります。また、要件を満たせば、配偶者と子の帯同が認められます。管理職相当の待遇で技術と知識を身に付け、長く働くことにより規定の条件を満たせば、将来的には永住権を取得する道も開けます。

○技能実習制度及び特定技能制度の今後の在り方について

技能実習制度及び特定技能制度の施行状況を検証し、課題を洗い出した上、外国人材を適正に受け入れる方策を検討することを目的として、2022年12月から有識者会議を開催し、これまで11回実施されています（令和5年10月4日現在）。

2023年5月には、それまで7回にわたり開催された有識者会議での議論を踏まえた中間報告書が、関係閣僚会議の共同議長である法務大臣に提出されました。

主な論点は以下のとおりです。

論点の1つ目として、現行の技能実習制度は人材育成を通じた国際貢献を制度目的とし、労働力の需給調整の手段としてはならないという

資料8

中間報告書（概要）（技能実習制度及び特定技能制度の在り方に関する有識者会議） 令和5年5月11日

検討の視点

我が国の人手不足が深刻化する中、外国人が日本の経済社会の担い手となっている現状を踏まえ、外国人との共生社会の実現が社会のあるべき姿であることを念頭に置き、その人権に配慮しつつ、我が国の産業及び経済並びに地域社会を共に支える一員として外国人の適正な受け入れを図ることにより、日本で働く外国人が能力を最大限に発揮できる多様性に富んだ活力ある社会を実現するとともに、我が国の深刻な人手不足の緩和にも寄与するものとする必要がある。このような観点から、技能実習制度と特定技能制度が直面する様々な課題を解決した上で、国際的にも理解が得られる制度を目指す。

| 検討の基本的な考え方 | | |
|-----------------------------------|--|--|
| 論 点 | 現 状 | 新たな制度 |
| 制度目的と実態を踏まえた制度の在り方 | 人材育成を通じた国際貢献 | <ul style="list-style-type: none"> • 現行の技能実習制度は廃止して人材確保と人材育成（未熟練労働者を一定の専門性や技能を有するレベルまで育成）を目的とする新たな制度の創設（実態に即した制度への抜本的な見直し）を検討 • 特定技能制度は制度の適正化を図り、引き続き活用する方向で検討し、新たな制度との関係性、指導監督体制や支援体制の整備などを引き続き議論 |
| 外国人が成長しつつ、中長期的に活躍できる制度（キャリアパス）の構築 | 職種が特定技能の分野と不一致 | <ul style="list-style-type: none"> • 新たな制度と特定技能制度の対象職種や分野を一致させる方向で検討（主たる技能の育成・評価を行う。技能評価の在り方等は引き続き議論） • 現行の両制度の全ての職種や分野等並びに特定技能2号の対象分野の追加及びその設定の在り方について、必要性等を前提に検討 |
| 受け入れ見込数の設定等の在り方 | 受け入れ見込数の設定のプロセスが不透明 | 業所管省庁における取組状況の確認や受け入れ見込数の設定、対象分野の設定等は、様々な関係者の意見やエビデンスを踏まえつつ判断がされる仕組みとする等の措置を講じることでプロセスの透明化を図る |
| 転籍の在り方（技能実習） | 原則不可 | 人材育成に由来する転籍制限は残しつつも、制度目的に人材確保を位置付けることから、制度趣旨と外国人の保護の観点から、従来より緩和する（転籍制限の在り方は引き続き議論） |
| 管理監督や支援体制の在り方 | <ul style="list-style-type: none"> • 管理団体、登録支援機関、技能実習機構の指導監督や支援の体制面で不十分な面がある • 悪質な送出国が存在 | <ul style="list-style-type: none"> • 監視団体や登録支援機関が担っている機能は重要。他方、人権侵害等を防止・是正できない監視団体や外国人に対する支援を適切に行えない登録支援機関を厳しく適正化・排除する必要 • 監視団体や登録支援機関の要件の厳格化等により、監視・支援能力の向上を図る（機能や要件は優良団体へのインセンティブも含め、引き続き議論） • 外国人技能実習機構の体制を整備した上で管理・支援能力の向上を図る • 悪質な送出国の排除等に向けた実効的な二国間取決めなどの取組を強化 |
| 外国人の日本語能力の向上に向けた取組 | 本人の能力や教育水準の定めなし | 一定水準の日本語能力を確保できるよう就労開始前の日本語能力の担保方策及び来日後において日本語能力が段階的に向上する仕組みを設ける |

資料：出入国在留管理庁作成

基本理念を掲げているにもかかわらず、技能実習生が国内の企業の労働力として貢献しており、制度目的と運用実態の乖離が指摘されていることから、現行の技能実習制度については、人材確保及び人材育成を目的とする新たな制度の創設を検討することとしました。すなわち、技能実習制度が人材育成に加え、事実上、人材確保の点において機能しているという状況を受け入れ、より実態に即した制度に見直そうとしています。また、特定技能制度は引き続き活用することとされています。

2つ目の論点では、現状の技能実習の職種と特定技能の分野が不一致なので、一致させる方向で検討するとされています。これは現在技能

実習にはある職種が特定技能の分野にはない場合、キャリアパスの継続が途絶えてしまうため、それらを合わせていくという検討が一つ、もう一つは、技能実習では、例えば食品製造関係では、11職種に細分化されていますが、医療・福祉給食製造を除く10職種を特定技能の飲食料品製造業分野に合わせていくという検討になります。前半については、特定技能の分野追加を業所管省庁やその団体等が追加の検討をしなければならないですし、後半は、どのように特定技能の飲食料品製造業分野に合わせるかもそうですが、現在の技能実習試験（技能検定試験、技能評価試験）の取扱いをどうするのか、10職種以外の食品製造業はどのような立ち位置にする

のか等解決しなければならない課題が山積されます。

3つ目の論点は受入れ見込数の設定の在り方について、2024年4月以降の特定技能の新たな受入れ見込数の設定についてプロセスの透明化を図ることです。

4つ目は技能実習の転籍の在り方です。現在の制度ではやむを得ない場合を除き原則転籍はできませんが、今後は人権も配慮し、従来より緩和していく方向で検討がなされています。

5つ目は技能実習の管理団体、特定技能の登録支援機関等の在り方についてですが、これらの団体や機関等が適切に機能しているか、機能していないのであれば、厳しく適正化を求め、それができない場合は排除する必要があるというものです。一方で、適正に活動している優良な団体や機関等へは、インセンティブを与えるなどの対応も考えられます。

最後に6つ目の論点として外国人労働者の日本語能力の向上についてです。これは、来日前に最低限の日本語能力を義務付けるかということと、来日後の日本語能力をどのように向上させるかという2つのポイントがあります。

これらの検討の方向性に沿って、具体的な制度設計について、現在も引き続きこの有識者会議は今秋の最終報告書のとりまとめに向けて検討を行っているところです。

○おわりに

現在、どの産業でも人手不足は深刻な問題と

なっており、その一助となる外国人労働者の貢献度及び外国人労働者への期待度は年々増していると思います。

最近では、私たちの周りにもアジア系などを中心とした外国人が普通に街で見かけられるようになってきました。一方で、インターネットなどの普及により、自分に合った国を比較検討できる情報の充実や昨今の円安等の影響により、必ずしも日本が就労の対象国に選ばれるとは限らなくなっています。行政としても前述の外国人労働者の制度見直し等により、日本で働きたい、日本で働いてよかったと思われる国になるよう、これからもより開かれた共生社会をめざして、これらの制度を運用していきたいと考えています。

注1：介護、ビルクリーニング、素形材・産業機械・電気電子情報関連製造業、建設、造船・舶用工業、自動車整備、航空、宿泊、農業、漁業、飲食物品製造業、外食業の12分野。

注2：「有効求人倍率」とは、有効求職者数に対する有効求人数の割合で、倍率が1を上回れば求職者の数よりも人を探している企業数が多く、下回れば求職者の数の方が多いことを示す。

注3：「医療・福祉給食製造」の職種は特定技能の外食業分野への移行は可能。

注4：平成25年総務省告示第405号（統計法第28条の規定に基づき、産業に関する分類を定める件）に定める日本標準産業分類

注5：日本語能力水準

- ・「国際交流基金日本語基礎テスト」又は「日本語能力試験（N4以上）」
- ・そのほか、「日本語教育の参照枠」のA2相当以上の水準と認められるもの

（農林水産省 大臣官房 新事業・食品産業部）
（食品製造課 専門官（雇用・労働））

「物流の2024年問題」と物流革新に向けた「政策パッケージ」について

藏 谷 恵 大

1. はじめに

物流は、国民生活や経済活動等を支える重要な社会インフラであり、経済の成長や豊かな生活の実現等のため、その機能を十全に発揮させていく必要がある。

一方で、物流分野においては、人手不足や労働生産性の低さといった課題に対応するため、働き方改革の推進が求められている。

このような中、2024年4月にはトラックドライバーに「働き方改革を推進するための関係法律の整備に関する法律」(平成30年法律第71号)

が適用され、トラック運送業の時間外労働の上限規制が年間960時間となり、さらに「自動車運転者の労働時間等の改善のための基準(平成元年労働省告示第7号)(改善基準告示)」についても見直され、年間の拘束時間の上限も原則3,300時間となる。

これにより起こりうる輸送能力の不足は全産業で4.0億トン分相当、2019年時点の輸送能力の14.2%とも試算され、とりわけ農産・水産品に関しては、輸送能力不足は32.5%と最も影響が大きいとの試算もある。このことがいわゆる

図1 トラックドライバーの年間拘束時間を3,300時間にする際に不足する輸送能力の試算

(1) 不足する輸送能力(全体)

| | 不足する輸送能力の割合 | 不足する営業用トラックの輸送トン数 |
|-----------|-------------|-------------------|
| 2019年度データ | 14.2% | 4.0億トン |

※拘束時間を3,400時間とした場合、不足する輸送能力は5.6%、不足する営業用輸送トン数は1.6億トンと見込まれる。

(2) 不足する輸送能力(業種別)(2019年度データ)

| 業 界 | 不足する輸送能力の割合 |
|----------------------|-------------|
| 農産・水産品出荷団体 | 32.5% |
| 建設業、建材(製造業) | 10.1% |
| 卸売・小売業、倉庫業 | 9.4% |
| 特積み | 23.6% |
| 元請の運送事業者 | 12.7% |
| 紙・パルプ(製造業) | 12.1% |
| 飲料・食料品(製造業) | 9.4% |
| 自動車、電気・機械・精密、金属(製造業) | 9.2% |
| 化学製品(製造業) | 7.8% |
| 日用品(製造業) | 0.0% |

(3) 不足する輸送能力(地域別)(2019年度データ)

| 地 域 | 不足する輸送能力の割合 |
|------|-------------|
| 北海道 | 11.4% |
| 東 北 | 9.2% |
| 関 東 | 15.6% |
| 北陸信越 | 10.8% |
| 中 部 | 13.7% |
| 近 畿 | 12.1% |
| 中 国 | 20.0% |
| 四 国 | 9.2% |
| 九 州 | 19.1% |

出典：第3回「持続可能な物流の実現に向けた検討会」株式会社NX総合研究所発表資料

「物流の2024年問題」として大きな課題となっている。

2. 物流革新に関する関係閣僚会議

このような状況を受け、令和5年3月31日、我が国の社会経済の変化に迅速に対応し、荷主、事業者、一般消費者が一体となって我が国の物流を支える環境整備について、関係行政機関の緊密な連携の下、政府一体となって総合的な検討を行うため、「我が国の物流の革新に関する関係閣僚会議」が設置された。同日に開催された第1回会合では、荷主・物流事業者間等の商慣行の見直しと物流の標準化やDX・GX等による効率化の推進により、物流の生産性を向上するとともに、荷主企業や消費者の行動変容を促す仕組みの導入を進めるべく、抜本的・総合的な対応が必要との総理指示があり、それを踏まえ、令和5年6月2日開催された第2回会合では、緊急に取り組むべき抜本的・総合的な対策が「物流革新に向けた政策パッケージ」(以下政策パッケージ)として取りまとめられた。

3. 物流革新に向けた政策パッケージ

前述の関係閣僚会議において、荷主企業、物流事業者(運送・倉庫等)、一般消費者が協力して我が国の物流を支えるための環境整備に向けて、

- (1) 商慣行の見直し
- (2) 物流の効率化
- (3) 荷主・消費者の行動変容

についての抜本的・総合的な対策が政策パッケージとして策定された。本政策パッケージでは中長期的に継続して取り組むための枠組みを次期通常国会での法制化も含め整備するとしている。

(1) 商慣行の見直し

物流プロセスにおいては、発荷主企業と着荷主企業との間の取引契約において商品の内容や納品時期等が決定され、それを前提として、荷主(主に発荷主)企業と物流事業者の間で運送

契約が結ばれる。このため、物流事業者だけで貨物輸送の効率化を図ることは困難な場合が多い。また、貨物の輸送先でトラックドライバーが契約にない荷役作業等の附帯作業を指示されることや、長時間の荷下し待ち等を強いられるケースも散見されている。

一方で、物流事業者間の取引関係においては、多重下請関係が存在し、実運送事業者が適正な運賃を収受することが困難となっていることも多い。以上のことから、荷主企業、物流事業者の双方において非効率な商慣行の見直しを行う必要がある。

そのため、政策パッケージにおいては、

- ① 荷主・物流事業者間における物流負荷の軽減
- ② 納品期限、物流コスト込み取引価格等の見直し

等に取り組むこととしている。

① 荷主・物流事業者間における物流負荷の軽減

待機時間、荷役時間の削減等を通じて、トラックドライバーの労働時間を削減するとともに、納品回数の減少等を通じた総輸送需要の抑制や物量の平準化により効率的な物流を実現するため、発荷主企業、物流事業者、着荷主企業が連携・協働して改善を図る必要がある。

このため、それぞれの事業者に対して、物流負荷の軽減に向けた計画作成や実施状況の報告を求めるとともに、取組が不十分な事業者に対して、勧告、命令等を行う規制的措置等の導入等に向けた検討が進められているところである。

この規制的措置の導入を前提として、物流の適正化・生産性向上に向けて荷主企業・物流事業者が取り組むべき事項をまとめた「物流の適正化・生産性向上に向けた荷主事業者・物流事業者の取組に関するガイドライン」(以下ガイドライン)が令和5年6月2日に策定・公表されている。これに則して荷主企業・物流事業者が業界・分野別に「自主行動計画」を作成し、令和5年度中に前倒して改善の取組を実施するよう、

経済産業省、国土交通省とともに各業界へ働きかけを行っているところである。

② 納品期限、物流コスト込み取引価格等の見直し

食品の分野では食品を製造した日から賞味期限までの期間の3分の1の間に納品が求められる商慣行(3分の1ルール)が存在している。現在、そのルールを2分の1へ改善すべく進めているが、その過程で納品期限が混在し、物流及び在庫管理を複雑化させている現状にある。また、特に日販品では受発注後翌日納品を求める短いリードタイムが主流となっており、トラックの夜間運転や倉庫の夜間作業などの原因となっている。こうした3分の1ルールや短いリードタイム等食品物流の商慣行の見直しについて、官民で構成する協議会等の場を通じ、食品事業者に対する働きかけを行っているところである。

(2) 物流の効率化

「物流の2024年問題」による物流の停滞を回避するためには、物流のデジタル・トランスフォーメーション(DX)等による物流の効率化・生産性向上を図るとともに、モーダルシフト(トラックから鉄道・海運への輸送モードの切り替え)等を通じたグリーン・トランスフォーメーション(GX)を進めることが必要であり、また、それらの基礎となる物流の標準化が不可欠である。

そのため、

- ① 即効性のある設備投資の促進
- ② 物流GXの推進
- ③ 物流DXの推進
- ④ 物流標準化の推進
- ⑤ 物流拠点の機能強化や物流ネットワークの形成支援

を推進していくこととしている。

① 即効性のある設備投資の促進

省力化・自動化を推進するため、倉庫等において、バース予約システムなどの導入を進める。また、トラックドライバーの労働時間を削減していくためには、荷主企業においても到着時間

指定やパレット化を推進していくことが重要であることから、荷主企業における自主的な取組みを促すとともに、設備・システム投資を推進する。

② 物流GXの推進

トラックドライバーの担い手確保にも資するモーダルシフトを地域の実情に応じて強力に促進するため、貨物鉄道についての輸送余力等をより広い対象に見える化したシステムの導入、フェリーの積載率についての定期的な調査・荷主企業等への情報提供を行い、利用可能な輸送力について周知を行う。

農林水産省においても、令和4年度に品目、地域別にモーダルシフトの輸送実証の委託調査を実施している。

③ 物流DXの推進

自動運転、ドローン物流、自動配送ロボットや自動倉庫等、物流DXを活用して物流の生産性を向上させる。ドローン物流等の実用化に向け、着実に対応を行う。ドローン物流等のデジタル技術を活用したサービスについて、実証段階から実装への移行を加速化する。

④ 物流標準化の推進

官民物流標準化懇談会パレット標準化推進分科会で定めた標準仕様のパレットの利用拡大を図るため、事業者による導入やそれに対応するための物流拠点の改修等を進めるとともに、紛失・流出防止のためのパレットの動態管理・個体管理の取組みを推進する。

農林水産省においても、令和5年3月に「青果物流通標準化ガイドライン」を策定し、青果物流通における、パレット循環体制(サイズ、材質、運用)、卸売市場内物流改善、コード・情報(伝票)等を定め、標準化を促進しており、産地、品目別のパレット化の実証に関する委託調査も行っている。

⑤ 物流拠点の機能強化や物流ネットワークの形成支援

青果物等の流通について、パレット化、中継輸送等やコールドチェーン化を進めるため、集

出荷施設・卸売市場等の物流施設や保冷库等の機器の整備・機能強化を推進していく。

また、今後は労働時間の上限の適用により、トラックでの長距離輸送による物流を維持することは困難になるため、今後は、産地と消費地との間に中継共同物流拠点を設置し、複数ドライバーの連携で輸送していくことが重要になっていくと考えている。

(3) 荷主・消費者の行動変容

物流負荷の軽減のためには、荷主企業や消費者の意識改革・行動変容が不可欠であるが、「2024年問題」に対する荷主企業、消費者の認知度はまだ不十分であり、単なる広報活動にとどまらない新たな取組みが必要である。

また、経営者層の意識改革により荷主企業における全社的な物流改善への取組みを促進するため、荷主企業の役員クラスに物流管理の責任者を配置することを義務づけるなどの規制的措置等の導入が検討されているところである。

4. 自主行動計画

3(1)①で述べたように、ガイドラインを策定・公表し、業界・分野別の自主行動計画の策定を促している。

効率的な物流を実現するためには、発荷主事業者、物流事業者、着荷主事業者が連携・協同して、現状の改善を図るために取り組みを実施することが重要である。そのため図3のような取組事項を提示し、各事業者がそれに取り組むよう自主行動計画の策定を推進しているところである。

そのような中で、農林水産省では、令和5年6月に政策パッケージ及びガイドラインが公開されて以降、各業界への個別の説明を行ってきたほか、業界団体向けの説明会を複数回開催し、これらの周知に努めている。

また、加工食品分野の物流の適正化・生産性向上については、従来、食品メーカー、卸売会社、スーパーの製配販三層の協調の下に取り組

図2 「物流革新に向けた政策パッケージ」のポイント

令和5年6月2日
我が国の物流の革新に関する関係閣僚会議

「物流革新に向けた政策パッケージ」のポイント

- 物流は国民生活や経済を支える**社会インフラ**であるが、担い手不足、カーボンニュートラルへの対応など様々な課題。さらに、物流産業を魅力ある職場とするため、トラックドライバーの働き方改革に関する法律が2024年4月から適用される一方、物流の停滞が懸念される「**2024年問題**」に直面。
- 何も対策を講じなければ、**2024年度には14%、2030年度には34%の輸送力不足**の可能性。
- **荷主企業、物流事業者（運送・倉庫等）、一般消費者が協力**して我が国の物流を支えるための環境整備に向けて、**(1) 商慣行の見直し、(2) 物流の効率化、(3) 荷主・消費者の行動変容**について、抜本的・総合的な対策を「政策パッケージ」として策定。

▶ 中長期的に継続して取り組むための枠組みを、**次期通常国会での法制化**^(※)も含め確実に整備。

| 1. 具体的な施策 | 2. 施策の効果（2024年度分） | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|--|---|---------------|--|-----------------|---|---------------|---|-------------|-----------|-----------|-----|--------------|-----------|-----------|--------|----------|-----------|---------|-----|------|-----------|-----------|--|--|-----------------|
| <p>(1) 商慣行の見直し</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 荷主・物流事業者間における物流負荷の軽減（荷待ち、荷役時間の削減等）に向けた規制措置等の導入^(※) ② 納品期限（3分の1ルール、短いリードタイム）、物流コスト込み取引価格等の見直し ③ 物流産業における多層下請構造の是正に向けた規制措置等の導入^(※) ④ 荷主・元請の監視の強化、結果の公表、継続的なフォロー及びそのための体制強化（トラックGメン（仮称）） ⑤ 物流の担い手の賃金水準向上等に向けた適正賃金受取・価格転嫁円滑化等の取組み^(※) ⑥ トラックの「標準的な運賃」制度の拡充・徹底 | <table style="width: 100%; border-collapse: collapse; font-size: x-small;"> <thead> <tr> <th style="width: 30%;"></th> <th style="width: 30%; text-align: center;">(施策なし)</th> <th style="width: 30%; text-align: center;">(施策あり)</th> <th style="width: 10%; text-align: center;">(効果)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>・ 荷待ち・荷役の削減</td> <td style="text-align: center;">3時間</td> <td style="text-align: center;">→ 2時間×達成率3割</td> <td style="text-align: center;">: 4.5ポイント</td> </tr> <tr> <td>・ 積載効率の向上</td> <td style="text-align: center;">38%</td> <td style="text-align: center;">→ 50% ×達成率2割</td> <td style="text-align: center;">: 6.3ポイント</td> </tr> <tr> <td>・ モーダルシフト</td> <td style="text-align: center;">3.5億トン</td> <td style="text-align: center;">→ 3.6億トン</td> <td style="text-align: center;">: 0.5ポイント</td> </tr> <tr> <td>・ 再配達削減</td> <td style="text-align: center;">12%</td> <td style="text-align: center;">→ 6%</td> <td style="text-align: center;">: 3.0ポイント</td> </tr> <tr> <td colspan="3" style="text-align: right;">合計</td> <td style="text-align: center;">14.3ポイント</td> </tr> </tbody> </table> <p style="font-size: x-small; margin-top: 5px;">2030年度分についても、2023年内に中長期計画を策定</p> | | (施策なし) | (施策あり) | (効果) | ・ 荷待ち・荷役の削減 | 3時間 | → 2時間×達成率3割 | : 4.5ポイント | ・ 積載効率の向上 | 38% | → 50% ×達成率2割 | : 6.3ポイント | ・ モーダルシフト | 3.5億トン | → 3.6億トン | : 0.5ポイント | ・ 再配達削減 | 12% | → 6% | : 3.0ポイント | 合計 | | | 14.3ポイント |
| | (施策なし) | (施策あり) | (効果) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ・ 荷待ち・荷役の削減 | 3時間 | → 2時間×達成率3割 | : 4.5ポイント | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ・ 積載効率の向上 | 38% | → 50% ×達成率2割 | : 6.3ポイント | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ・ モーダルシフト | 3.5億トン | → 3.6億トン | : 0.5ポイント | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ・ 再配達削減 | 12% | → 6% | : 3.0ポイント | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 合計 | | | 14.3ポイント | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| <p>(2) 物流の効率化</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 即効性のある設備投資の促進（バス予約システム、フォークリフト導入、自動化・機械化等） ② 「物流GX」の推進 （鉄道・内航海運の輸送力増強等によるモーダルシフト、車両・船舶・物流施設・港湾等の脱炭素化等） ③ 「物流DX」の推進 （自動運転、ドローン物流、自動配送ロボット、港湾AIターミナル、サイバーポート、フジカルインターネット等） ④ 「物流標準化」の推進（パレットやコンテナの規格統一化等） ⑤ 道路・港湾等の物流拠点（中継輸送含む）に係る機能強化・土地利用最適化や物流ネットワークの形成支援 ⑥ 高速道路のトラック速度規制（80km/h）の引上げ ⑦ 労働生産性向上に向けた利用しやすい高速道路料金の実現 ⑧ 特殊車両通行制度に関する見直し・利便性向上 ⑨ ダブル連結トラックの導入促進 ⑩ 貨物集配中の車両に係る駐車規制の見直し ⑪ 地域物流等における共同輸配送の促進^(※) ⑫ 軽トラック事業者の適正運営や輸送の安全確保に向けた荷主・元請事業者等を通じた取組強化^(※) ⑬ 女性や若者等の多様な人材の活用・育成 | <p>3. 当面の進め方</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse; font-size: x-small;"> <tr> <td style="width: 20%; background-color: #0056b3; color: white; text-align: center; padding: 5px;">2024年初</td> <td style="padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・ 通常国会での法制化も含めた規制措置の具体化 </td> </tr> <tr> <td style="background-color: #0056b3; color: white; text-align: center; padding: 5px;">2023年末まで</td> <td style="padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・ トラック輸送に係る契約内容の見直しに向けた「標準運送約款」「標準的な運賃」の改正等 ・ 再配達率「半減」に向けた対策 ・ 2024年度に向けた業界・分野別の自主行動計画の作成・公表 ・ 2030年度に向けた政府の中長期計画の策定・公表 </td> </tr> <tr> <td style="background-color: #0056b3; color: white; text-align: center; padding: 5px;">速やかに実施</td> <td style="padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・ 2024年における規制措置の具体化を前提としたガイドラインの作成・公表等 </td> </tr> </table> | 2024年初 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 通常国会での法制化も含めた規制措置の具体化 | 2023年末まで | <ul style="list-style-type: none"> ・ トラック輸送に係る契約内容の見直しに向けた「標準運送約款」「標準的な運賃」の改正等 ・ 再配達率「半減」に向けた対策 ・ 2024年度に向けた業界・分野別の自主行動計画の作成・公表 ・ 2030年度に向けた政府の中長期計画の策定・公表 | 速やかに実施 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 2024年における規制措置の具体化を前提としたガイドラインの作成・公表等 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2024年初 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 通常国会での法制化も含めた規制措置の具体化 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2023年末まで | <ul style="list-style-type: none"> ・ トラック輸送に係る契約内容の見直しに向けた「標準運送約款」「標準的な運賃」の改正等 ・ 再配達率「半減」に向けた対策 ・ 2024年度に向けた業界・分野別の自主行動計画の作成・公表 ・ 2030年度に向けた政府の中長期計画の策定・公表 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 速やかに実施 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 2024年における規制措置の具体化を前提としたガイドラインの作成・公表等 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| <p>(3) 荷主・消費者の行動変容</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 荷主の経営者層の意識改革・行動変容を促す規制措置等の導入^(※) ② 荷主・物流事業者の物流改善を評価・公表する仕組みの創設 ③ 消費者の意識改革・行動変容を促す取組み ④ 再配達削減に向けた取組み（再配達率「半減」）に向けた対策含む ⑤ 物流に係る広報の推進 | <div style="font-size: 2em; color: #0056b3; margin-bottom: 10px;">▼</div> <div style="background-color: #0056b3; color: white; padding: 5px; text-align: center; font-weight: bold;">2024年初に政策パッケージ全体のフォローアップ</div> | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

図3 物流の適正化・生産性向上に向けた荷主事業者・物流事業者の取組に関するガイドライン概要

**物流の適正化・生産性向上に向けた
荷主事業者・物流事業者の取組に関するガイドライン**

| | |
|--|---|
| 1. 発荷主事業者・着荷主事業者に共通する取組事項 | |
| (1) 実施が必要な事項 ・荷待ち時間・荷役作業等に係る時間の把握 ・荷待ち・荷役作業等時間 2時間以内ルール/1時間以内努力目標 ・物流管理統括者の選定 ・物流の改善提案と協力 ・運送契約の書面化 等 | (2) 実施することが推奨される事項 ・予約受付システムの導入 ・パレット等の活用 ・積品の効率化・積品水準の適正化 ・物流システムや資機材(パレット等)の標準化 ・共同輸配送の推進等による積載率の向上 ・荷役作業時の安全対策 等 |
| 2. 発荷主事業者としての取組事項 | |
| (1) 実施が必要な事項 ・出荷に合わせた生産・荷造り等 ・運送を考慮した出荷予定時刻の設定 | (2) 実施することが推奨される事項 ・出荷情報等の事前提供 ・物流コストの可視化 ・発送量の適正化 等 |
| 3. 着荷主事業者としての取組事項 | |
| (1) 実施が必要な事項 ・納品リードタイムの確保 | (2) 実施することが推奨される事項 ・発注の適正化 ・巡回集荷(ミルグラ方式) 等 |
| 4. 物流事業者の取組事項 | |
| (1) 実施が必要な事項 ○共通事項 ・業務時間の把握・分析 ・長時間労働の抑制 ・運送契約の書面化 等 | (2) 実施することが推奨される事項 ○共通事項 ・物流システムや資機材(パレット等)の標準化 ・積品水準向上 ○個別事項(運送モード等に応じた事項) ・荷待ち時間や荷役作業等の実態の把握 ・トラック運送車における多重下請構造の是正 ・「標準的な運賃」の積極的な活用 ○個別事項(運送モード等に応じた事項) ・倉庫内業務の効率化 ・モーダルシフト、モーダルコンビネーションの促進 ・作業負荷軽減等による労働環境の改善 等 |
| 5. 業界特性に応じた独自の取組 業界特性に応じて、代替となる取組や合意した事項を設定して実施する。 | |

まれてきているため、今般の自主行動計画の策定に向けた取組においても、個別最適ではなく、全体最適となるよう、その協調を維持し、協調の環を広げていくことが重要である。このため、加工食品分野の製配販の関係者が集まり、物流の適正化・生産性向上に向けた具体的課題や解決策について議論・検討し、情報共有・発信することを目的として、令和5年7月25日及び9月27日に「加工食品分野の物流の適正化・生産性向上に向けた取組の情報連絡会」を開催したところである。

5. 令和6年度予算概算要求

持続可能な食品流通の実現に向けて、農林水産省では、令和6年度予算概算要求の柱の一つに「物流2024年問題への対応」を位置づけることとした。その中心となる新規事業として、「持続可能な食品流通総合対策事業」を紹介する。

(1) 物流生産性向上推進事業

① 推進事業

関係事業者に対し、本事業を活用した物流改善の提案を行い、関係者による協議会の設置や事業実施に当たっての指導・助言を行うとともに、優良事例の発信を支援する。

② 物流生産性向上実装事業

物流の標準化(パレット、外装、コード等)、デジタル化・データ連携(伝票の電子システム、トラック予約システム、デジタルせり等)、モーダルシフト、ラストワンマイル配送等に必要となるソフト面の実装を支援する。

③ 物流生産性向上設備・機器導入事業

物流の標準化、デジタル化・データ連携等の効果をより発現するため、物流の自動化・省力化・品質管理に必要な設備・機器の導入を支援する。

(2) 中継共同物流拠点施設整備事業

新たな食品流通網の構築に必要な中継共同物流拠点の整備を支援する。

6. 物流革新緊急パッケージ

令和5年10月6日、第3回「我が国の物流の革新に関する関係閣僚会議」が開催され、「物流革新緊急パッケージ」が策定された。2024年が迫る中、賃上げや人材確保など早期に具体的な成果が得られるよう可及的に速やかに各種施策に着手するとともに、2030年度の輸送力不測の解消に向け可能な施策の前倒しを図るべく、必要な予算の確保も含め緊急的に取り組むことと

図4 持続可能な食品流通総合対策事業のイメージ



された。

7. おわりに

「物流の2024年問題」は、目の前の喫緊の課題であると同時に、中長期的な目標達成に向けての通過点、転換点としての意味も有している。

2030年は国連の持続可能な開発目標（SDGs）の目標年次である。また、2040年にはフィジカルインターネットの実現が、2050年にはカーボンニュートラルの実現が、それぞれ目標として掲げられている。

それらの達成、実現には政策パッケージに記載されているような物流の効率化に取り組むことや、モーダルシフト等を通じて物流GXへ取り

組むことが不可欠となると考えられる。

そのため、農林水産省としては、引き続き、産地、卸売市場等の食品流通関係者、経済産業省、国土交通省等の関係省庁と連携し物流効率化への取組を推進していくこととしている。

〈参考文献〉

- NX総合研究所試算（2022年11月11日）
物流の革新に向けた政策パッケージ
物流の適正化・生産性向上に向けた荷主事業者・物流事業者の取組に関するガイドライン

（農林水産省 大臣官房
新事業・食品産業部 食品流通課長）

蕎麦

畑 江 敬 子

“新しき蕎麦打って食わん坊の雨”は、そば好きだったと言われる夏日漱石の句であるが、俳句では新蕎麦は初秋の季語である。

漱石は『坊っちゃん』に“おれは蕎麦が大好きである”と言わせ、天麩羅蕎麦を4杯食べさせている。

ソバは生育期間が短く、春に種を蒔いて夏に収穫する夏ソバと、夏に種を蒔いて秋に収穫する秋ソバがある。新蕎麦というのは秋に収穫されるソバで、当時の人は、香りを賞味し季節感を大切にしたのである。

我が国ではソバは5世紀半ばには栽培されていたという。栽培ソバの起源は雲南地域で、中国から朝鮮半島をを経て日本に伝えられた。古くは粒食、粉食であったが、麺にして食べ始めた最初の記録は1614年の『慈性日記』で、そば切りと呼んでいた(松下幸子、2009)。江戸時代初期のそば切りはつなぎを入れなかったので切れやすく、さっと茹でてから蒸籠で蒸した。現在、もりそばを蒸籠に入れて出すのはその名残である。

蕎麦粉と蕎麦

蕎麦粉の作り方は、玄ソバを殻と実に分け、殻と共に砕けた実をふるいにかけて殻を取り除く。このひき割りを製粉機で粉碎、篩い分けを繰り返し、1番粉、2番粉、3番粉、末粉と順次分けていく。一番内側なのでんぶんが多く白くてさらさらしている1番粉を御膳粉または更科粉という。これから出来た蕎麦が更科蕎麦である。

一方、2番粉、3番粉になるほど、ソバの実の外側に近くなり、甘皮部分が混ざるの

で蕎麦の色は緑色に近くなり香りも強くなる。このような蕎麦を提供した蕎麦屋(雑司ヶ谷鬼子母神の門前や、本郷団子坂)のまわりは藪が多いところから「藪」というらしい。江戸時代には更科や藪の名の付く店が多数できた。

蕎麦粉にはグルテンがないので、蕎麦粉だけでは水とこねても麺にしにくいのが、湯を加えたりして十割蕎麦とする。通常は麺にするために小麦粉、ヤマイモ、卵などをつなぎとして用いるが、小麦粉を加える事が多い。一説によれば江戸初期に朝鮮半島から渡ってきた僧がつなぎに小麦粉を加えることを教えて麺ができたという。二八蕎麦というのは小麦粉2に対して蕎麦粉8ということである。小麦粉の割合が多いと延ばしやすく製麺しやすいので、機械でも麺を作りやすい。二八蕎麦のいわれには $2 \times 8 = 16$ で(落語「ときそば」に出てくるように)16文で売っていたからと言う説もある。

新潟県十日町のへぎ蕎麦はつなぎに海藻であるふのりを用いている。

蕎麦を食べるときに用いる蕎麦つゆは、日本の中でも地域により、味や香り、色に違いがあるようである。

かつて、北海道は新得のソバ畑のそばにある店で食べた蕎麦は東京で食べている蕎麦に比べ、蕎麦つゆは甘みが少ない感じであった。ちなみにこの店の近くは、ちょうどソバの花が満開で、夜になると月の光と見まがうと詩で詠まれるのはこういうところかと思った。“蕎麦はまだ花でもてなす山路かな”は芭蕉の句であるがこんなところか。

また、北海道で食べた蕎麦ずし(そばの

海苔巻)も面白かった。

蕎麦アレルギー

これほど日本人に人気のある蕎麦なのに、アレルギーを発症する食品の一つである。加工食品には特定原材料8品目の表示が食品衛生法で定められており、その中に蕎麦も含まれている。蕎麦は少量でも人によってはアナフラキシーショック(アレルギーの原因物質に触れたり、食べたりすることで、皮膚、消化器、呼吸器などにアレルギー反応が短時間のうちに全身に現れ、血圧の低下や意識障害を起こし、生命に危険な状態なること)を起こすことがあり、蕎麦粉が入っていることを知らずにまんじゅうを食べてショックを起こすこともあるので、蕎麦にアレルギーのある人は注意が必要である。

蕎麦のルチン

ソバは穀類とひとくくりにされるが、粟や稗などがイネ科であるのに対して、タデ科の1年生の植物で、米や小麦を栽培できないような悪条件の土地でも生育する。ソバ粉にはルチンが含まれ、ルチンはポリフェノールの一種で抗酸化性を持つことから血管を強化する、血漿コレステロールを低下させるなどといわれている。

韃靼ソバはこのルチンを多く含むことから、従来、中央アジア、中国西部、ヒマラヤなどの高地で栽培されていたが、日本でも、北海道や長野で栽培されるようになった。

蕎麦に関する民話

蕎麦に関する民話や粉ひき歌が各地に残されているが、遠く離れている地方であっても話の内容は良く似ている。民話の代表的なものは、ソバの茎が赤い理由を言った話である。弘法大師、あるいはお釈迦様だったり、神様だったりするが、川を渡るときにムギやアワなど他の穀類はいやだといったのに、ソバが背負って冷たい川を渡した。そのために足が赤くなったが、恩返し

に暖かい季節に生育する、あるいはおめでたい席で食べられるという。ソバが川の近辺で栽培されることが多かったためであろう。

冷麺

日本でも人気のある韓国冷麺は蕎麦粉を用いて作る。だいぶ前になるが、韓国からの留学生がテクスチャーを検討したことがある。

韓国の伝統的な冷麺は、ソウル市内の専門店では自分の店内で麺を作るので市販しない。そのため聞き取り調査を行った結果、平城式冷麺(蕎麦粉の配合割合が多い)とハン興式冷麺(蕎麦粉の割合が少なくデンプンが多い)があり、一部を除きすべて蕎麦粉を67~33%含み、小麦粉およびまたは、ジャガイモあるいはサツマイモでんぷんから調製されている。

更に、小麦粉の割合の多いものも食べられていることから、現代式冷麺(蕎麦粉35%、小麦粉55%、サツマイモでんぷん10%)も検討に追加した。

冷麺の調製のために、ニーダーと押出成形するための冷麺機を韓国から購入し、加熱して官能評価に供した。

日本市販冷麺を含め、スパゲティ、ひやむぎ、蕎麦なども加えて、22種の麺類について、20名の学生が硬さ、歯切れの良さ、歯ごたえ、弾力性、なめらかさを評価した。その結果を主成分分析し麺類を5グループに分類した。

平城式冷麺は咀嚼性が乏しく、でんぷんの多いハン興式冷麺は咀嚼性に富みのどろしが良いグループであった。韓国の現代式冷麺は平城式冷麺と同じグループであった。韓国の冷麺は少しずつ配合を変えて、現在に至っているものの、韓国人の冷麺に対する好みはそれほど大きく変わっていないようである。日本市販冷麺はこれらとは大きく異なり、はるさめやスパゲティに近かった。

(お茶の水女子大学名誉教授)

小麦粉のある風景

揚げ物に合う調味料は何？

ひらの あさか

かきの季節になりました

急速に西洋化がすすんだ明治時代（1868～1912年）。諸説ありますが、かきフライが登場したのは、明治28（1895）年に創業した東京銀座の西洋料理店（洋食屋）「煉瓦亭」で生まれたといわれています。

基本的な「かきフライ」のつくり方は、まずはふり洗い。万能こし器にかきを入れ、3%の塩水でやさしく洗います。ふり洗いはよごれやぬめり、生臭さを取る役割があります。この後、ペーパータオルなどで水気をふき取る。小麦粉をかき全体にふって、小麦粉、溶き卵、塩、こしょうを合わせたバター液にくぐらせて、パン粉をつけてから中温で揚げ、返しながらかける。油をよく切ってから器に盛りつける。好みでキャベツのせん切り、レモンのくし切り、辛子、タルタルソース、ウスターソースを添える。

ちなみに11月21日はかきフライの日。かきのシーズンの11月と、フ（2）ライ（1）という語呂合わせなのだそう。

「かきの天ぷら」は、どちらかといえば家庭の味というよりは、お店の味かもしれません。ふっくらとしたかきをころもでとじ込めて味わう乙な1品です。ふり洗いしたかきは水気を取

って、小麦粉をまぶす。小麦粉と水を合わせたころもにかきをくぐらせ、油で揚げる。料理屋の肴であれば、多くは天然塩にレモン、あるいはすだちが添えられていたりします。

「かきのガーリックソテー」ふり洗いしたかきは水気を取って、小麦粉をまぶしておく。にんにくは薄切りにし、フライパンを温めてバター、オリーブオイル、にんにくを入れ、香りが立ったらかきを加え、両面を焼き、火が通ったら、しょうゆで味を調える。

「かつ」の東西

「かつ」といって関東圏で思い出すのは「とんかつ」。うちの味は「ひとくちヒレかつ」でした。豚ヒレ肉は塩、こしょうを軽くまぶしてから、薄く小麦粉をまぶし、溶き卵、水、小麦粉を合わせたバター液にくぐらせて、パン粉をまぶし、油できつね色に揚げて、レモンと辛子だけで食べたものでした。下味の塩味だけで十分おいしさが伝わるやわらかなかつです。

そば屋の味「かつ煮」。だし汁に煮きったみりん、ざらめなどを合わせたつゆを煮立て、玉ねぎの薄切り、豚ロースにころもをつけて揚げたとんかつを、食べやすい大きさに切ってさっ

と煮て、とんかつのころもが煮くずれないように注意し、溶き卵をまわし入れる。これをふうふういいながら1杯飲むのが至福のひとつです。

衝撃だったのは関西で食べた「ビフかつ」です。ステーキに使用できるような上質な牛肉に薄くころもをまとわせ、揚げすぎずに肉自体はほぼレアなステーキ。ここにやさしい味のデミグラスソースがかけてありました。

「串かつ」のねぎといえば

「串かつ」といえば、思い出すのが京都の味。40年以上前から変わらずに玉ねぎのくし切りと豚肉を串に刺して、溶き卵、水、小麦粉を合わせたバター液にパン粉をつけて揚げたものです。昔は網つきの油きりのよいバットにのせられていて、どろっとしたソース、辛子がついていて、粗くちぎったキャベツとともに供されていました。同じ形態でチキンかつもあり、具材は鶏もも肉と玉ねぎが串に刺してあるもので、同様にソースなどが添えられています。

対して関東圏で結構多く見かけるのは、豚肉と長ねぎを串に刺したもので、居酒屋などで多く見かけるのは辛子をつけて、ウスターか中濃ソースをかけて食べるというものです。

揚げ物に使う調味料は？

天ぷら、フライに何をかける？といわれたらどうですか。もちろん好みもあり、お店によっても異なりますが、地域によって好まれる調味料が微妙に異なります。

お店で食べる天ぷら（専門店以外）は、最近

天つゆが出てくることはまずなく、ほぼ天然塩にすだちや柑橘類が添えてあるケースが多いです。一方、法事などに出てくる天ぷらは一様にしっかり冷めているのに、天つゆが出てきて、気の利いたところでは、大根おろし、しょうがのすりおろしが添えてあります。しょうゆだけをかけるケースもあります。

ところが地域によっては、天ぷらにウスターソースをかけて食べるという驚きの事実もあるようです。確かに青魚の天ぷらならばウスターもいける気がします。

「ソース」の東西

ブラウンソースの代表格といえば「ウスターソース」「中濃ソース」「とんかつ」「お好みソース」になりますが、料理によっても使い分けができますが、西はウスター、東は中濃と分かれるような気がします。ウスターソースという思い出するのは焼きそばです。これも専用の焼きそばソースがあったりしますが、なかなか消費するのがたいへんです。

少し残ってしまったウスターソースでつくる「鶏レバーのソース煮」。鶏レバーは血抜きをして、ひと口大に切って小麦粉をまぶす。にんにくは薄切りにする。フライパンにごま油を入れて、にんにく、鶏レバーを炒め、ウスターソース、水、酒を加えて、汁気がなくなるまで煮詰める。

(食文家)

参考文献

食は「県民性」では語れない

野瀬泰申 角川新書

業界ニュース

お知らせ

★製粉講習会の開催について

(一財)製粉振興会主催の令和5(第58)事業年度製粉講習会を以下により開催することとし、各製粉企業(工場)及び関係先に12月中旬に文書でご案内の上、聴講申込の受付を開始する予定です。

本年度は、激動する国際情勢の下での諸外国の製粉企業等の対応や動向、及び我が国の今後の小麦政策の方向等について有識者にご講演いただきます。奮っての聴講申込をお待ちしております。

当講習会は①会場参加(定員50名を予定)または②オンライン配信(Zoomウェビナー利用)により聴講いただけます。12月中旬頃各製粉企業(工場)及び関係団体に送付する申込要領に沿って、企業(工場)ごとに希望者を取りまとめの上、オンラインで聴講申込をお願いします。

会場参加については、新型コロナウイルス感染防止の観点から定員を設けており、希望者多数の際は調整をお願いする場合があります。また、参加者には感染防止へのご協力をお願いします。

なお、今後の新型コロナウイルス感染者数の動向等によっては、オンライン配信のみによる開催への変更もあり得ますことを予めご承知おき下さい。

詳細につきましては、後日案内状にてお知らせいたします。

I 会場参加(定員50名を予定)

| 開催日時 | 会場 | 講師・演題 | |
|--|--------------------------------------|--|--|
| | | 午前 | 午後 |
| | | 10:30~12:00 | 12:50~14:20 |
| 令和6年 2月9日(金) 10時:開場 10時25分~ 14時20分 | 製粉会館5階会議室 東京都中央区日本橋兜町 15-6 | 「小麦をめぐる現状と政策の展開方向」 農林水産省農産局農産政策部 貿易業務課 課長 平野 賢一 氏 | 「環境変化への対応を続ける海外の製粉企業」 (一財)製粉振興会 参与 長尾 精一 氏 |

(注) ご来場者の昼食(12:00~12:50)は当会でご用意します。

II オンライン参加

講演をZoomウェビナーを用いてオンラインで同時配信いたしますので、各自のPC等により視聴下さい。参加者には事前に参加のためのURLをメールでご連絡します。また、講演資料は当会の専用ページより各自でダウンロードいただきます(URL、パスワードは1月下旬お知らせ)。講演中、参加者側のカメラ、マイク等は使用せず、ご質問等はチャット機能により受け付けます。

(講師プロフィール)(講演順)

平野賢一氏

農林水産省農産局農産政策部貿易業務課長

1995年農林水産省入省。大臣官房国際部国際地域課国際交渉官、経済産業省貿易経済協力局貿易管理部貿易審査課農水産室長、農林水産省大臣官房広報評価課情報分析室長等を歴任し、2022年6月より現職

長尾精一氏

(一財)製粉振興会参与 農学博士 一級パン製造技能士

1959年日清製粉株式会社入社。本社試験課長、製粉業務部次長、中央研究所穀物科学研究室長、食品研究所長、製粉研究所長、製粉分析センター所長、理事等要職を歴任し、退任後製粉協会理事、製粉研究所長、ICC(国際穀物科学技術協会)日本代表、AACCInternational日本支部長等を経て現職

AACCInternationalからブラバンダー賞、ゲディス記念賞、フェロー賞、日本調理科学会から功労賞、日本穀物科学研究会から功労賞を受賞

小麦粉に関して国内外で共著書、論文、講演など多数

★全国製麺協同組合連合会「国内産小麦使用生中華麺品評会」の開催について

全国製麺協同組合連合会（会長：鳥居憲夫）は、国内産小麦を使用した中華麺の更なる品質向上と、国内産小麦の需要拡大の推進を図ることを目的として昨年に引き続き、第2回目となるラーメン コンペティション 日本 2023-国内産小麦使用生中華麺品評会-」を実施しました。

今回は48社72品（Ⅰ類42品〈温食用〉、Ⅱ類30品〈冷食用〉）の参加となりました。

(1) 審査会

審査員は、関係団体、ラーメン評論家、製麺業者の12名で構成し、審査長に一般財団法人製粉振興会理事長の梶島達也様に就任をいただきました。

① 外観、官能審査

9月5日に江東区総合区民センターにおいて開催し、外観審査は、生の状態、茹で上げ後の状態のものを審査し、官能審査では72品目の食感、風味、用途適性、特色性等について審査を行いました。



審査員からは、前回より出品数は減少となったものの、出品製品の品質は昨年と比べ向上しているとの評価が多く、また、去年は形状等で特色のあるものが多かったが、今回はゴマ、ニラ、ニンニク、シナモン、海藻等を練り込んだ

製品が多かったため、出品者が合わせたスープで食したいとの感想もありました。



審査員には、今年は72品（昨年99品）と前回よりは少なかったものの短時間で72品の試食と厳正な審査を行っていただきました。

② 順位の決定

9月12日に江東区森下文化センターにおいて、9月5日の審査会の結果をまとめ、順位の決定を行いました。

(2) 展示会

出品製品と当会事業の取組を紹介するために、展示会を2回開催しました。なお、来年1月24日、25日にインテックス大阪で開催される「ラーメン産業展 in Kansai」においても展示を行う予定です。

① ラーメン産業展

9月13日、14日に東京ビッグサイトにて開催された「ラーメン産業展 in Japan」に出展し出品製品の紹介をしました。2日間で36,302名の来場者があり、展示ブースが入り口近くとのこともあり、ラーメン飲食店、小売業等の多くの来場者がブースに立ち寄り、足を止めて出品製品と紹介パネルを興味深く、熱心に見る姿が多く見受けられました。

② 第63回全国製麺業者長野大会

10月4日にホテルメトロポリタン長野（長野県長野市）で開催した「第63回全国製麺業者長野大会」に併せて、同会場内で展示を行ない、

当日は来賓および全国の製麺業者約130名の参加者の多くが関心を持って見ていました。



(3) 表彰式

上記の大会において受賞者を公表し、式典において表彰式を執り行いました。

賞は農林水産省大臣官房長、ラーメン文化振興議員連盟会長、製粉協会会長、一般財団法人製粉振興会理事長、協同組合全国製粉協議会会長、全国農業協同組合連合会経営管理委員会会長、一般社団法人全国米麦改良協会会長、中央職業能力開発協会会長、公益社団法人日本食品衛生協会理事長、一般社団法人日本ラーメン協会、ラーメン評論家より交付を賜り、全国製麺協同組合連合会会長賞と併せて受賞者に授与を行いました。



農林水産省大臣官房長賞は、Ⅰ類に成美製麺(石川県)「白夢」、Ⅱ類も同じく成美製麺「もんげー麺」が受賞の栄に輝きました。

今回は、二回目ということもあり、審査会において、審査項目、製品の説明・PR事項等について多くの改善点、課題をいただきました。

また、梶島審査長より今回の出品製品の中に、地域の活性化、地産地消の取組のために、地域の小麦生産者、福祉施設(製粉を担当)、製麺会社が一体となり開発した製品が2品出品されている。この品評会を通じて、会員が行っている社会的に意義のある取組が広く知られる契機となり非常に意義深い開催であったとのコメントをいただきました。

このコメントは、当会にとって新しい気付きをいただきました、一つの商品が出来るまでには、原料から加工において多くの人に関わっており、一つ一つの工程において多くの思いが込められています。その背景を人々に知らせていくことが業界の発展と信頼に繋がっていくものと感じます。

今後、このことを念頭に品評会等の事業に取り組んでまいります。

最後に、本品評会が予定通りに実施できましたのは、農林水産省、ラーメン文化振興議員連盟はじめ各団体、関連企業、賞のご交付を頂きました皆様、審査員及び品評会に出品いただいた事業者の皆様の多大なご協力の賜物と存じます。

この場をお借りして、改めましてお礼を申し上げます。

【全国製麺協同組合連合会・木下】

★2023全日本親子パンフェスタin新潟、成功裏に終了

2023年10月21日（土）に新潟朱鷺メッセにて、パン食普及協議会（会長：盛田淳夫）および全日本パン協同組合連合会（会長：桑野龍一）主催の「2023全日本親子パンフェスタin新潟」が開催されました。オープニングセレモニーでは来賓挨拶で中原新潟市長や稲垣新潟県農林水産副部長が挨拶をされ、代表の子供たちとともにテープカットを行い、スタートしました。

親子パン教室では、3000名を超える応募の中、500組1000名の方が参加し、まずはモニターで「小麦からパンへ」の動画（学校パン給食推進協議会作成）を見ていただいて手洗いから始めました。それからパン作り。特に子供たちはパン職人に成りきりコックコートを着用してあんぱん・動物パンなど思い思いのパンを作られました。その後、焼成後のパンとご対面。受付で緊張と期待で待っていましたが、パンを渡された親子の笑顔は微笑ましいものでした。

親子パン教室のほか、来場者の方々に、大手製パンメーカーや製菓製パン材料の企業・団体の展示やPRも行われました。中でも、日本パン工業会のブースでの巨大ガラポンによる抽選会や、地元丸榮製粉（株）の麦の苗プレゼントは大変盛況でした。また、全国各地の有名パン店や新潟産小麦粉使用の新潟県のパン屋さんがパンを販売し、ほぼほぼ完売でおおよそ1万個のパンをお買い求めいただきました。

最後に、本フェスティバルが約7000名の参加

で成功裏に終了することができたのは、多くの製パン業者に加え、大量の製パン機械、新潟県の製パン製菓学校の生徒さんや業界の技術者のお手伝い、パンを提供して頂いたパン屋さん、集客に協力して頂いた新潟県の教育委員会・給食会等のご協力によるもので、心から感謝申し上げます。また、このようなパンや関連業界一丸となつての開催は、パン業界の情熱・未来を感じました。

（親子パン教室および会場全景）



【全日本パン協同組合連合会・鈴木】

★全国乾麺協同組合連合会（会長：星野洋司）は、WEBプレゼントキャンペーン「ニッポン全国めん遊記一ど〜んと乾めんプレゼント」を実施中

全国乾麺協同組合連合会は、昨年末より定期開催しているWebプレゼントキャンペーンを通して、年間を通じてそうめん・うどん・そば・中華麺などの乾めんの食習慣を訴求し、乾めんの食習慣の一層の定着・促進を図っています。

次のテーマは『12月年越しそば』プレゼントです！

是非、キャンペーンサイトをご覧ください♪ ※ご応募期間は11/1～11/30まで

ニッポン全国めん遊記 cpサイト→ <https://cp.kanmen.com/>



全乾麺 SNS (X・instagram) にて乾めんのアレコレ情報発信中！



12月 年越しそば
—全国編—

◆「ニッポン全国めん遊記一ど〜んと乾めんプレゼント」のこれまでの応募状況◆

| | 月テーマ | プレゼント数 |
|------|-------------------------------|--------|
| 開催中 | 12月 年越しそば —全国編— | 200名様 |
| 第6弾済 | 10月 東のうどん巡り —北海道・東北・関東甲信越・中部— | 200名様 |
| 第5弾済 | 7月 7月7日はそうめんの日 —乾めん編— | 200名様 |
| 第4弾済 | 6月 7月7日はそうめんの日 —手延べ編— | 100名様 |
| 第3弾済 | 4月 春のめん祭り —全国編— | 300名様 |
| 第2弾済 | 2月 西のうどん巡り —関西・中四国・九州編— | 200名様 |
| 第1弾済 | 12月 年越しそば —全国編— | 300名様 |

平均応募者数：
約8,600名
平均PV数：
約5万

◆SNSにて当選者の方々から、続々と喜びの声が届いております◆

- ・CPサイトを見るだけで乾めんが食べなくなった！
- ・まだ食べたことの無い地方の乾めんがこんなに沢山あったことに驚き！
- ・季節感のある企画ですねー、次回も応募します！
- ・心を込めて造っている乾めん企業に感謝！
- ・嬉しい〜当選しました！乾めんのカタログもレシピも入ってた♪
- ・当たりましたー♪初めて食べる乾めん屋さんの素麺だ〜嬉しいっ！
- ・つつつ、もちもちの麺をいただきました！有難う、美味しかったです。

～今後も積極的にSNS等を通じて情報を共有し盛り上げて参ります～

その他の主な年間行事

- ・**ト定祭&にゅうめんの日** 毎年2月5日開催
奈良県桜井市大神（おおみわ）神社における今年のそうめんの卸値を占う神事とともに。三輪素麺の生産・販売組合等関係者によるそうめんの消費拡大及びそうめんを温かく食する「にゅうめんの日」の普及を図る。
- ・**第4回The乾麺グランプリ2023 in Tokyo(製粉振興7月号既報)**
5月20・21日（土・日）に駒沢オリンピック公園で、「第4回The乾麺グランプリ2023 in Tokyo」を4年ぶりに開催
- ・**各地の7月7日「七夕・そうめんの日」イベント(製粉振興7月号既報)**
兵庫県乾麺協同組合・兵庫県手延素麺協同組合・小豆島手延素麺協同組合など各地で「七夕・そうめんの日」に、そうめんを食し味わい親しんでいただくため、そうめんのサンプリングやそうめん流し等を行うイベントを各地で開催
- ・**技能検定**
日本の食文化と伝統技術を受け継ぐために、製麺技能を身に付けます。
手延べ製麺技能士試験 7月24～27日（実技）/8月20日（学科）開催
機械製麺技能士試験 令和6年1月28日（学科）開催予定
- ・**第66回信州そば品評会 審査会（11月9日）、授与式（12月7日）開催予定**
国産農産物の利用促進及び国内農業の振興並びに乾めんの普及宣伝及び消費拡大に資することを目的に実施する。
- ・**令和5年度さぬきの夢グランプリ 審査会（～10月19日）、表彰式（12月15日）開催予定**
製造技術の向上による製めん業の発展と県内産小麦の利用拡大を図る。

【全国乾麺協同組合連合会・日永田】

令和6年産民間流通麦に係る入札結果について（抜粋）

民間流通麦の入札は、原則として毎年播種前に2回実施することとしており、令和6年産麦については、9月13日（水）に第1回を、9月27日（水）に第2回を実施しました。

2回の入札の結果、落札残数量が発生し、売り手から再入札の申し出がありましたので、10月20日（金）に再入札を実施しました。

については、令和6年産民間流通麦に係る全ての入札が終了しましたので、その結果を下記のとおり公表します。

記

- 1 第1回、第2回及び再入札を合わせた入札結果の概要は次のとおりです。

小 麦

25産地別銘柄 248,190トンが上場され、
25産地別銘柄 224,800トンが落札された。

- 2 産地別銘柄の落札決定状況は、別紙のとおりです。

なお、落札残数量については、今後、相対取引される予定です。

令和6年産 民間流通麦の入札における落札決定状況（公表）

（単位：円、トン）

| 産地 | 銘 柄 | 前年産 指標価格 (1) | 税別 | | | 指標価格 前年産対比 (3)÷(2) | 上場数量 (4) | 申込数量 (5) | 落札数量 | 落札 残数量 | 申込倍率 (5)÷(4) |
|-----|-----------|--------------------|-------------|-------------|---------------|--------------------------|-------------|-------------|---------|-----------|-----------------|
| | | | 基準価格 (2) | 指標価格 (3) | 対比 (3)÷(2) | | | | | | |
| 北海道 | 春よ恋 | 86,051 | 91,042 | 81,946 | 90.0% | 95.2% | 13,510 | 5,000 | 5,000 | 8,510 | 0.4 |
| 北海道 | きたほなみ | 63,014 | 66,669 | 65,732 | 98.6% | 104.3% | 135,450 | 174,880 | 134,560 | 890 | 1.3 |
| 北海道 | ゆめちから | 64,084 | 67,801 | 66,892 | 98.7% | 104.4% | 32,340 | 46,580 | 31,050 | 1,290 | 1.4 |
| 北海道 | はるきらり | 73,988 | 78,279 | 64,783 | 82.8% | 87.6% | 2,180 | 1,450 | 1,450 | 730 | 0.7 |
| 岩 手 | ゆきちから | 54,739 | 57,914 | 63,705 | 110.0% | 116.4% | 1,250 | 2,870 | 1,250 | 0 | 2.3 |
| 宮 城 | 夏黄金 | — | 70,063 | 77,069 | 110.0% | — | 600 | 1,200 | 600 | 0 | 2.0 |
| 茨 城 | さとのそら | 64,169 | 67,891 | 65,639 | 96.7% | 102.3% | 3,690 | 3,900 | 3,170 | 520 | 1.1 |
| 群 馬 | つるびかり | 75,100 | 79,456 | 84,673 | 106.6% | 112.7% | 1,250 | 3,620 | 1,250 | 0 | 2.9 |
| 群 馬 | さとのそら | 67,561 | 71,480 | 68,660 | 96.1% | 101.6% | 4,740 | 7,110 | 4,600 | 140 | 1.5 |
| 埼 玉 | あやひかり | 70,216 | 74,289 | 74,290 | 100.0% | 105.8% | 1,790 | 2,400 | 1,790 | 0 | 1.3 |
| 埼 玉 | さとのそら | 65,760 | 69,574 | 71,094 | 102.2% | 108.1% | 4,460 | 6,610 | 4,460 | 0 | 1.5 |
| 岐 阜 | イワイノダイチ | 62,881 | 66,528 | 64,879 | 97.5% | 103.2% | 1,290 | 2,080 | 1,290 | 0 | 1.6 |
| 岐 阜 | さとのそら | 65,378 | 69,170 | 65,073 | 94.1% | 99.5% | 1,330 | 2,090 | 1,330 | 0 | 1.6 |
| 愛 知 | きぬあかり | 72,405 | 76,604 | 69,971 | 91.3% | 96.6% | 6,380 | 3,020 | 3,020 | 3,360 | 0.5 |
| 愛 知 | ゆめあかり | 58,002 | 61,366 | 67,502 | 110.0% | 116.4% | 1,320 | 2,580 | 1,320 | 0 | 2.0 |
| 滋 賀 | ふくさやか | 64,735 | 68,490 | 63,983 | 93.4% | 98.8% | 1,320 | 1,650 | 1,320 | 0 | 1.3 |
| 滋 賀 | びわほなみ | 70,571 | 74,664 | 70,549 | 94.5% | 100.0% | 3,540 | 3,110 | 2,470 | 1,070 | 0.9 |
| 香 川 | さぬきの夢2009 | 60,358 | 63,859 | 57,486 | 90.0% | 95.2% | 2,320 | 750 | 750 | 1,570 | 0.3 |
| 福 岡 | シロガネコムギ | 68,661 | 72,643 | 69,172 | 95.2% | 100.7% | 6,560 | 6,580 | 4,880 | 1,680 | 1.0 |
| 福 岡 | チクゴイズミ | 65,654 | 69,462 | 68,203 | 98.2% | 103.9% | 5,700 | 8,730 | 5,610 | 90 | 1.5 |
| 福 岡 | ミナミカオリ | 65,717 | 69,529 | 62,578 | 90.0% | 95.2% | 2,100 | 1,400 | 1,140 | 960 | 0.7 |
| 佐 賀 | シロガネコムギ | 68,534 | 72,509 | 68,465 | 94.4% | 99.9% | 8,240 | 9,170 | 6,420 | 1,820 | 1.1 |
| 佐 賀 | チクゴイズミ | 64,156 | 67,877 | 68,656 | 101.1% | 107.0% | 3,880 | 6,840 | 3,880 | 0 | 1.8 |
| 佐 賀 | はる風ふわり | 65,710 | 69,521 | 63,109 | 90.8% | 96.0% | 1,390 | 2,750 | 1,390 | 0 | 2.0 |
| 大 分 | チクゴイズミ | 64,387 | 68,121 | 68,097 | 100.0% | 105.8% | 1,560 | 1,220 | 800 | 760 | 0.8 |
| — | — 合 計 — | — | 68,338 | 66,919 | 97.9% | — | 248,190 | 307,590 | 224,800 | 23,390 | 1.2 |

(注)1.小麦の基準価格は、前年産の指標価格に当該年産の第1回入札時点での輸入麦の政府売渡価格の変動率(1.058)を乗じた価格である。

2.基準価格及び指標価格の「合計」欄は、本年産の産地・銘柄毎の基準価格又は指標価格を落札数量で加重平均したものである。

3.価格は、ばら、1等、産地倉庫在姿で、消費税等抜きである。



世界の粉界展望



世界 (1) 国際穀物理事会 (IGC) によると、2023/24年度の小麦生産量は前年度比1,850万t減

の7.85億t。消費量は食用が590万t増の5.55億t、飼料用が450万t増の1.55億tに。貿易量は1,110万t減の1.97億t、主要輸出国の合計期末在庫量は900万t減の5,600万tと予想。

主要輸出国であるオーストラリア、カナダ、イギリス、カザフスタンなどの生産量減によって、総生産量は前年度より減った。食用消費量はこれまでの最大だが、アジアとサハラ以南アフリカでの人口増が主因で、米の価格上昇の影響も大きい。一方、ナイジェリアではインフレの影響で需要が低迷している。主要輸出国の合計期末在庫量は16年来の低さで、特にロシアとEUの減少量が大きい。中国は1.38億tを維持する。トルコの輸入量が前年度の1,300万tから890万tに減る [表1~3]。

(IGC-GMR・548/23)

(2) IGCは2023/24年度の小麦粉貿易量を前年度より10万t多い1,450万tと予測。

ロシアとトルコの輸出が堅調で、南アメリカとサハラ以南アフリカの輸入が回復傾向にある。CISや極東アジアの輸入量が伸びないのは、自国での製粉が増えているためと考えられる [表4]。

(IGC-GMR・548/23)



アメリカ (1) 2023/24年度産小麦の生産量は直近2年度産より多いが、それ以前に比べると少ない。

HRW小麦の作柄があまり良くなく、輸出量がこれまでの最少か。

アメリカ合衆国農務省 (USDA) の10月13日時点での2023/24年度小麦需給予想によると、総生産量は1か月前の予想より少し増えて、前年度比440万t増の4,931万tである。HRW小麦が1,636万t、HRS小麦が1,274万tと前年度より多いが、White小麦は前年度比100万t減の640万tと少ない。輸出量が同161万t減の1,905万tで、中でもHRW小麦の輸出量が395万t(前年度は610万t)に減少する。国内消費量は飼料用が減少するので、減る。期末在庫量は239万t増える。収穫時に採取したサンプルの分析結果速報によると、HRW小麦は平均容積重と平均千粒重が低めで、上位等級の比率が低い。平均たん白量は前年度産より0.4%ほど低いが、過去5年の平均よりは高い。HRS小麦とSW小麦の等級や品質はほぼ前年度並みだという [表5]。

(USDA, World-Grain.com・9/28/23)

(2) 北米製粉協会 (NAMA) が新戦略計画を採用。

10月5日にウェストバージニア州 White Sulphur Springsで開催された年次総会と理事会で、今後3年間の新たな戦略計画が承認された。その基本的な柱は「擁護(支持)」、「関与」、「協力」で、協会としてのまとまった力を活用し、有意義な擁護(支持)、関与、協力によって、製粉業界を前進させ、強化するという。多様な考え方がある業界をまとめて、戦略的な活動を可能にするための指針と考えられる。具体的には、①適切で責任ある解決重視のサービスの提供、②すべての人の視点を大切にする環境で、リーダーにとって有意義なつながりをはぐくむ、③科学に基づく実践的な結果に焦点を当てた強

力な穀物バリューチェーンを提唱する、④製粉業界の豊かな伝統を守り、持続可能な未来のために革新するなどの項目が挙げられている。

(World-Grain.com・10/6/23)

(3) North Dakota Mill & Elevator (州営) の2023年度の利益はこれまでの最高の1,720万ドルに。

前年度比17%増。販売量の増加、HRSやデュラム小麦の品質が良好だったこと、及び従業員の努力が貢献したという。売上高は前年度の4.73億ドルから5.33億ドルに、出荷量は前年度の70.76万tから72.12万tに増えた。出荷量の約84%がバラ出荷である。

(World-Grain.com・9/20/23)



イタリア 製粉工業協会 (ITALMOPA) 主催の「有機小麦粉・セモリナ輸出促進キャンペーン」の成果が出たか。

ITALMOPA(会員会社82社)はEUの協賛を得て、アメリカとカナダで2022年から「ヨーロッパ産の有機小麦粉・セモリナの販売促進活動」を行っている。その成果が出たのか、イタリアの2022年の小麦粉とセモリナの輸出総額は3.37億ユーロになり、キャンペーン実施以前の2021年より9,250万ユーロ多かった。2022年の輸出総額の11%がアメリカとカナダ向けで、200万ユーロが有機製品によるものである。なお、最新のキャンペーンは9月初旬にニューヨークで開催された。

(World-Grain.com・8/24/23)



イラン パンは重要な食品なので、製粉は重要な産業と考えられている。製粉工場が多く、国内産小麦を挽砕して需要に対応している。

パンは低所得層にとって最も重要な食品で、食費の29%を占めており、肉の16%を大きく引き離している。350の製粉工場があり、年間製粉能力は2,400万tである。製粉工場の多くは小麦生産地や小麦輸送中継地点にあるが、港の近くにもある。KFF社が最大の製粉会社で、通常的小麦粉の他に、特殊粉も製造している。小麦の国内消費量は1,350万tで、IGCによる2023年の小麦生産量は1,400万t(前年は1,320万t)と推定され、ほぼ自給自足している。そのうち1,000万tがパンに、200万tがパスタ、ビスケット、及びペストリーに使われ、120万tが種子用である。2022年5月に政府は主要な食品や医薬品の補助金を半分以上削減したので、インフレや需要増の影響も重なり、小麦粉とパンの価格が上昇した。政府はデジタルクーポンによって、パンの一部を補助金付き価格で買えるようにしたが、根本的な解決には至っていない。

(WG・41-10/23)



インド 備蓄小麦の放出量増加を検討中。

政府は、8か月連続で高騰が続いている食料品価格への抑制対策として、製粉業者などの大量需要者向けの放出量を増やすことを検討している。

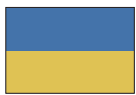
(World-Grain.com・9/26/23)



インドネシア 小麦粉市場は最大手Indofood社のシェアが50%に近く、残りの市場をめぐって製粉会社間の競争が激しい。

アメリカ合衆国小麦連合会 (USWA) 主催の North Asia Marketing Conference (NAMC) (8月27~29日、インドネシアのバリ島で開催) におけるUSWAの Sowers氏の講演によると、小麦粉市場はIndofood社のシェアが50%に近く、残り50%の市場をめぐってCerester、Wilmar、Bungasari、Eastern Pearlなど多くの製粉会社が競っており、価格競争が激しい。小麦粉の用途別消費量はめんが48%、パンが30%、ビスケットが13%、その他が9%である。小麦は全量輸入に依存しているが、輸入先間のシェアの変動が大きい。2022/23年度はオーストラリアから50%、カナダから22%、アメリカから4%だが、ブラジルからの輸入が約10%に増えた。小麦粉加工食品製造会社にとって、小麦粉価格の安さが最も重要な仕入れ上の要因である。そんな中で、日本から輸入した小麦粉の中に国産の5倍くらいの価格で売られているものがあるという。

(USWA-North Asia Marketing Conference, August 27-29, Bali, Indonesia)



ウクライナ 9月1~24日の穀物輸出量は前年同期の51%。翌25日に、Odesa港がロシアの空爆で損傷を受けたので、さらに輸出に影響が出る模様。

9月のこの期間の穀物輸出量は157万tで、前年同期の321万tの約半分と少なかった。翌25日の夜間のミサイルとドローンによる爆撃で、Odesa港のインフラと約1,000tの穀物が入っていた貯蔵設備が破壊された。7月中旬にロシアが黒海沿岸穀物合意から離脱して以来、民間の

6船と150の港や穀物設備が破壊され、これによって、穀物約30万tと輸出能力が約40%失われた。早期の対応が求められている。

(World-Grain.com・9/25, 10/16/23)



エジプト ロシアから小麦約50万tを安値で購入の予定だったが、交渉不成立のため、フランスとブルガリアからの購入に変更。その後、再びロシアから100万t輸入する方向で価格交渉を開始。

Reuters情報によると、9月1日付でロシアから270米ドル/tで約50万t購入できるはずだったが、価格面での交渉が不成立に終わったため、フランスとブルガリアに購入先を変更した。その後、9月27日になって、再びロシアから100万t購入する方向で、価格面の交渉を開始した。USDAによると、ロシアとウクライナの戦争以前は、輸入小麦の60%をロシアから、22%をウクライナから輸入していた。戦争により、両国の小麦も高くなったので、輸入先を拡大して対応し、必要量確保に努めている。

(World-Grain.com・9/6, 21, 27/23)



カナダ 過乾燥の状態が続いたため、2023年産小麦は大幅減産の見込み。

カナダ統計局の9月8日時点の予測によると、生育期に乾燥状態が続いたため、収穫面積が前年比5.6%増加する見込みにもかかわらず、単収が同20.6%減の2.7t/haになると予想されており、生産量は同15.0%減の2,920万tになる見込みである。次回の予測値は12月4日に公表予定。予測されている生産量の内訳はデュラム小麦が406万t(前年の70.1%)、デュラムを除く春小麦が2,200万t(同85.1%)である [表6]。

(Statistics Canada, World-Grain.com・

8/30/23)



韓国 製粉工場は12。小麦粉生産量は長期的に微増傾向だったが、ここ2～3年は横ばい。

USWA主催のNAMCでの大韓製粉Sang-Won Yong氏の講演によると、製粉協会の会員は7社（10工場）である。工場のほとんどが1940～50年代に建設されたもので、所在地はIncheonとSeoul地区、Busanとその周辺、AsanとDangjin地区の港に隣接する場所の3か所に集中している。非会員会社が2社（2工場）あり、いずれの工場も多角化企業の一部門として21世紀になってから建設されたもので、北部のSamyang及びAsanに近いWonjuにある。2022年には260万tの小麦から200万tの小麦粉を生産した。総製粉能力は310万tで、平均稼働率は上昇傾向であり、82%になった。国内産小麦は3万t程度しか生産されないの、製粉用小麦のほぼ全量を輸入している。アメリカとオーストラリアからの輸入量が多く、両国からの輸入量はほぼ同量だが、カナダからの輸入量が増える傾向にある。2022年には、アメリカからの小麦の44.3%がSW小麦で、そのほとんどがたん白質10.5%ものだが、8.5%ものも少量輸入した。32.3%がNSとDNS小麦、23.4%がHRW小麦である。オーストラリアからの小麦はほとんどが韓国向けのASWK小麦だが、APW小麦も少量輸入した。小麦粉の最大の用途はめん、種類が多い。その内訳は即席包装めんが45%、即席カップめんが11%、生・茹でめんが33%、乾めんが11%である。即席めん業界が使用する小麦粉の量は増加傾向にあり、2022年は41.3万tである。パン市場もめんに近い規模であり、菓子も多種類ある〔表7, 8〕。

(USWA-North Asia Marketing Conference, August 27～29, Bali, Indonesia)



スウェーデン 人口が少ないので製粉工場も少ない。

1960年には多くの小型製粉所を含めて250もあった製粉工場数が1980年に100、1990年に20に減り、2018年には11になって、ほぼ安定したと見られる。既存の工場も規模が小さく、11工場のうち、年間能力10万t以上は2工場のみで、2.5～10万tが8工場ある。年間生産量は小麦粉が50万t、ライ麦粉が9万tで、稼働率は約75%である。国産小麦を主に使用し、デュラム小麦及び少量の普通小麦をカナダやカザフスタンから輸入し、配合して使用している。Lantmännen Cerealia、Lilla Harrie、Barilla、Abdon Millsなどが大手である。穀粉の65%を工業規模製パンが、1%をスーパーのベーカリーが、10%を小規模ベーカリーが、1%をビスケット・ラスクメーカーが使用し、13%をでんぷんやミックス製造などの用途に使い、10%を家庭が消費している。

(2022 Edition of the Manual on the European Flour Milling Industry)



タイ 東南アジアの中では小麦粉の品質が良く、価格も秩序がとれた市場。

USWA主催のNAMCでのUSWAのSowers氏の講演によると、小麦粉の品質が東南アジアの中では良い方で、価格面でも秩序がとれた市場だという。原料小麦は輸入に依存するが、輸入先の変動が大きく、近年、オーストラリア小麦の比率が高くなっており、2022/23年度はオーストラリアが51%、アメリカが40%、カナダが9%である。アメリカからはHRS小麦とSW小麦が多く、HRW小麦も少量輸入している。

(USWA-North Asia Marketing Conference, August 27～29, Bali, Indonesia)



チェコ 穀粉消費量が多い。製粉工場は整理が進んだので、稼働率は高い。

工場数は2004年の52から2015年に44に減り、2020年には43になった。年間挽砕能力も2014年の210.9万tから2020年には167.7万tに減った。2020年には小麦粉97.5万t、ライ麦粉9.6万tを生産した。GOODMILLS Česko社、PENAM社、EUROPASTA社、Mlýny J. Voženilek社、Mlýn Kojetin社が大手である。平均稼働率は上昇傾向で、2020/21年度は88%になった。原料は国産100%である。2020年の1人平均消費量は穀粉115.4kg、パン89.5kgで、穀粉の51%を工業規模製パンが、10%をスーパーのベーカリーが、3%を小規模ベーカリーが、18%をビスケット・ラスクメーカーが、8%を家庭が消費した。(2022 Edition of the Manual on the European Flour Milling Industry)



中国 (1) 2024年の小麦買上最低保証価格を1%引上げ。

3等小麦について2,360元(323米ドル)/tに。

(IGC-GMR・548/23)

(2) 2024年の穀物低関税輸入枠は前年並み。

9月21日発表。前年並みの小麦960万t、トウモロコシ720万tに。

(IGC-GMR・548/23)

(3) COFCOがブラジルの港に農産物ターミナル建設を開始。

国有の農産物・食品加工会社(製粉を含む)であるCOFCOが、サントス港にSTS11農産物ターミナルの建設を8月8日に開始した。収容能力は1,400万tまで拡大できる予定である。サントス港はサンパウロの沿岸にあり、ラテンアメ

リカ最大の港で、125か国の600の港とつながっているという。

(WG・41-10/23)



ドイツ (1) 2023年産小麦は再び干ばつの影響で生産量が減少。

前年産は干ばつ影響から回復したが、2023年産は再び干ばつの影響を受けた。全穀物(トウモロコシを除く)の生産量は前年比4.1%減、過去5年平均比2.1%減の見込み。冬小麦は作付面積が前年比2.7%減少し、生産量も同6.0%減って2,076.5万tと予測される。夏小麦は壊滅に近く、作付面積が大幅に減り、生産量も前年のほぼ半分の14.1万tに留まる。デュラム小麦の生産量は前年比10.1%増、過去5年平均比34.1%増の24万tの見込み。ライ麦は前年に比べて作付面積が6.9%増えたが、生産量は0.4%減の311.8万t[表9]。

(MM・160-17/23)

(2) 2023年の認可普通冬小麦品種は14。

既存の認可品種に新品種が追加された。通常栽培用の冬小麦新品種はEグループが1品種、Aが5品種、Bが3品種、Cが1品種である。有機栽培用はBが2品種、Cが1品種で、デュラム冬小麦が1品種認可された[表10]。

(MM・160-10/23)

(3) Brabender社が新型ファリノグラフを発売。

これまで使われてきたFarinograph-TSの後継機種で、名称は「FarinoGraph」。粉の吸水力と生地のリオロジー特性を測定できる。自動化されており、これまでの機種よりも短時間での測定が可能だという。幅広いリオロジー特性の生地の測定に使い、ミキサーも300g用の他、10及び50g用もあるので、少ないサンプル量に

も対応できる。

(World-Grain.com・9/4/23)

(4) Mühlenchemie社がパン用とパスタ用の品質改良剤を発売。

世界的に小麦粉や小麦粉加工品の改良剤を販売している同社は、創業100周年を記念して、主に酵素を活用したパン用6種類、パスタ用2種類の改良剤を発売した。

(World-Grain.com・10/17/23)



トルコ (1) 製粉工場は国内産小麦と輸入小麦を使って小麦粉の国内需要と輸出に対応している

が、工場数が多いので稼働率は低い。

統計はないが、製粉工業協会(TUSAF)によると、81ある県のうち69県に598の製粉工場があり、年間総製粉能力は3,000万tだという。小麦粉生産量は年に約1,500万t(小麦換算)なので、平均稼働率は約50%と推定される。2023年2月6日の大地震では10の中小型製粉工場が大きな被害を受けた。小麦粉の大量輸出国で、輸出量は増加傾向であり、IGCによると2023/24年度は550万t(前年度比64万t増)と予測されている。63年来の低雨量による干ばつと一部の地区では地震が小麦生産に与えた影響が心配されていたが、春の適度な降雨によって生育状況が回復し、IGCの予測による2023/24年度の小麦生産量は2,050万t(前年度比70万t増)である。2023/24年度の小麦消費量は飼料用消費が増えるので、前年度比70万t増の2,110万tと予想される。1人当たり平均の年間パン消費量が150kgと多い国で、政府は輸入及び国内産小麦について価格面での補助を行って、パン価格の安定を図る努力をしている。しかし、最近の人件費と電気代の上昇によって、パンの価格は2021年末時点の約2.5倍になった。国内の農家を保護す

るため、5月から輸入小麦には130%の関税が課せられており、2023/24年度の小麦輸入量は890万t(前年度は干ばつと5月までの関税免除で1,300万t)に減る見込みである。輸入小麦の約70%は製粉されて、パン、パスタなどに加工される。小麦粉の70%が小規模ベーカリーで消費され、15%がパスタ、ビスケット、ラスク、菓子などのメーカーで使われ、10%が家庭で消費される。パスタ工場は24あり、年間製造能力は約200万tである。ブルグア、ビスケット、クッキー、クラッカーなどを製造する工場も140以上ある。

(World-Grain.com・9/6/23)

(2) Alapala社が研修・イノベーションセンターを開設。

「Alapala Academy and Training Center」という名称で、国際製粉技術者協会などの協力を得て、9月4日に業務を開始した。

(World-Grain.com・9/18/23)



ナイジェリア 環境悪化を背景に、小麦消費量が減少か。

USDAのGlobal Agricultural Information Network報告は、2023/24年度の小麦輸入量は前年度と同量の480万tのまま(IGCの予測では前年度より30万t増えて500万t)だが、小麦消費量は前年度より25万t少ない450万tと予測した。通貨ナイラの弱さによる輸入コストの上昇、消費者の購買意欲を支えてきた国の燃料費補助の終了、他の安い食品への移行による小麦粉加工食品の消費需要低迷などが背景にある。

(World-Grain.com・10/5/23)



パキスタン 2023/24年度は小麦の増産が予想されるが、消費量はそれを上回るので、在庫が減少。

USDA情報によると、小麦生産量はこれまでで最高の2,800万t(IGCも同じ)と予想されるが、世界第5位の人口を擁し、最近の増加率が年約2%なので、消費量もこれまでで最高の2,950万tになると予想される。その結果、期末在庫は2019/20年度以来の低レベルの303万tになる。

(World-Grain.com・10/2/23)



ブラジル パン価格安定のために2023/24年産小麦に補助金。

10月18日、政府発表。4億リアル(7,900万米ドル)を支給。

(IGC-GMR・548/23)



ベトナム カナダ産穀物の輸入制限を解除。

政府は9月29日付で、輸入穀物の検疫有害物質リストからヨーロッパ産アザミ(Cirsium avense)を除外した。ヨーロッパ産アザミはカナダ、アメリカ、ヨーロッパなどの北半球の国々に自生する被子植物である。同国は2018年にヨーロッパ産アザミが混入されている危険がある国からの小麦に対して、検疫による輸入制限を導入した。その結果、2021年のカナダ産小麦の輸入量は、輸入制限を設ける以前の20万t以上から2万t強に大幅に減ったという経緯がある。

(World-Grain.com・8/28/23)



モロッコ 小麦輸入をフランスとカナダに依存。

IGCによると、国産小麦の生産量は2021/22年度が750万t、2022/23年度は270万t(推定)、2023/24年度は400万t(予測)であり、年による変動が大きいので、輸入への依存度が高い。USDA情報によると、2022/23年度の小麦全輸入量(620万t)のうち500万tはEU(主にフランス)から、120万tはカナダからである。2023/24年度(7~6月)に入ってから7~9月に250万t輸入する予定である。政府が示している小麦の標準輸入価格は263米ドル/tだが、国際市場での価格高騰対策として、6月に輸入した普通小麦250万tに対しては補助金を支給した。さらに、9月末までに普通小麦2船(合計約10万t)が到着の予定だが、輸入業者は外貨不足による支払難に直面しているという。

(World-Grain.com・9/27, 10/3/23)



ロシア (1) 中国との国境に新しい穀物ターミナルを建設する。

9月11日に両国間で合意。名称は「Nizhneleninskoye-Tongjiang」で、場所はロシア極東のウラジオストックと中国東北部の黒竜江省が接する地点。最大貯蔵能力800万t、穀物専用コンテナ22,000台によって60万tの穀物をロシアから中国へ輸送できるという。

(World-Grain.com・9/12/23)

(2) 中国への長期間に及ぶ大量の農産物輸出を契約。

Reuters情報によると、EPTという輸出会社が、7,000万tの穀物、豆類、及び油糧種子を中国に輸出するという12年間契約(延長の可能性もある)を締結した。

(World-Grain.com・10/18/23)

[表1] 世界及び主要小麦輸出国の小麦需給

(百万t)

| 国名 ()内は穀物年度 | 期初 在庫 | 生産 | 輸入 b) | 供給計 | 消費 | | | | 輸出 b) | 期末 在庫 |
|------------------|----------|-------|----------|---------|-------|------|-------|-------|----------|----------|
| | | | | | 食用 | 工業用 | 飼料用 | 計 a) | | |
| アルゼンチン (12月/11月) | | | | | | | | | | |
| 2021/22 | 1.7 | 22.1 | 0.0 | 23.9 | 4.9 | 0.1 | 0.3 | 5.8 | 16.8 | 1.2 |
| 2022/23 推定 | 1.2 | 12.6 | 0.0 | 13.8 | 5.1 | 0.1 | 0.3 | 6.0 | 4.5 | 3.3 |
| 2023/24 予測 | 3.3 | 15.6 | 0.0 | 18.9 | 5.1 | 0.1 | 0.3 | 6.1 | 10.9 | 1.9 |
| オーストラリア (10月/9月) | | | | | | | | | | |
| 2021/22 | 2.5 | 36.2 | 0.2 | 39.0 | 2.5 | 0.5 | 5.0 | 8.8 | 27.6 | 2.6 |
| 2022/23 推定 | 2.6 | 39.7 | 0.2 | 42.5 | 2.5 | 0.5 | 4.1 | 7.8 | 31.5 | 3.2 |
| 2023/24 予測 | 3.2 | 24.4 | 0.3 | 27.8 | 2.5 | 0.5 | 3.9 | 7.6 | 18.0 | 2.2 |
| カナダ (8月/7月) | | | | | | | | | | |
| 2021/22 | 5.5 | 22.4 | 0.7 | 28.6 | 2.8 | 0.7 | 5.3 | 9.7 | 15.3 | 3.7 |
| 2022/23 推定 | 3.7 | 34.3 | 0.6 | 38.6 | 3.0 | 0.7 | 4.4 | 9.2 | 25.8 | 3.6 |
| 2023/24 予測 | 3.6 | 29.8 | 0.7 | 34.1 | 2.9 | 0.7 | 3.8 | 8.4 | 22.7 | 3.0 |
| EU (7月/6月) | | | | | | | | | | |
| 2021/22 | 11.1 | 137.5 | 5.7 | 154.3 | 47.7 | 10.0 | 41.4 | 105.7 | 32.3 | 16.3 |
| 2022/23 推定 | 16.3 | 133.8 | 12.8 | 162.8 | 47.5 | 9.8 | 45.0 | 108.8 | 35.0 | 19.0 |
| 2023/24 予測 | 19.0 | 132.4 | 7.7 | 159.1 | 47.8 | 10.2 | 44.7 | 109.2 | 36.1 | 13.8 |
| カザフスタン (7月/6月) | | | | | | | | | | |
| 2021/22 | 1.1 | 11.8 | 2.0 | 14.9 | 2.4 | 0.0 | 1.2 | 5.8 | 8.5 | 0.7 |
| 2022/23 推定 | 0.7 | 16.4 | 1.9 | 19.0 | 2.5 | 0.0 | 1.5 | 6.5 | 9.9 | 2.7 |
| 2023/24 予測 | 2.7 | 12.5 | 1.1 | 16.3 | 2.5 | 0.0 | 1.3 | 5.7 | 9.0 | 1.6 |
| ロシア (7月/6月) | | | | | | | | | | |
| 2021/22 | 12.2 | 75.0 | 0.2 | 87.4 | 14.1 | 1.6 | 18.5 | 42.8 | 33.1 | 11.4 |
| 2022/23 推定 | 11.4 | 95.4 | 0.1 | 106.9 | 14.1 | 1.7 | 19.0 | 43.8 | 48.2 | 15.0 |
| 2023/24 予測 | 15.0 | 89.0 | 0.1 | 104.1 | 14.1 | 1.7 | 19.0 | 43.6 | 49.1 | 11.4 |
| ウクライナ (7月/6月) | | | | | | | | | | |
| 2021/22 | 1.5 | 33.0 | 0.1 | 34.7 | 4.9 | 0.1 | 2.6 | 9.8 | 18.9 | 5.9 |
| 2022/23 推定 | 5.9 | 26.3 | 0.1 | 32.3 | 4.3 | 0.1 | 2.6 | 12.7 | 17.1 | 2.5 |
| 2023/24 予測 | 2.5 | 27.4 | 0.1 | 30.0 | 4.2 | 0.1 | 3.0 | 13.1 | 12.5 | 4.4 |
| アメリカ (6月/5月) | | | | | | | | | | |
| 2021/22 | 23.0 | 44.8 | 3.0 | 70.8 | 26.2 | 0.4 | 1.6 | 29.8 | 22.0 | 19.0 |
| 2022/23 推定 | 19.0 | 44.9 | 3.4 | 67.3 | 26.2 | 0.4 | 2.4 | 30.5 | 20.9 | 15.8 |
| 2023/24 予測 | 15.8 | 49.3 | 3.6 | 68.7 | 26.2 | 0.4 | 3.2 | 31.4 | 19.6 | 17.7 |
| 主要輸出国 計 c) | | | | | | | | | | |
| 2021/22 | 58.6 | 383.0 | 11.8 | 453.4 | 105.5 | 13.4 | 75.9 | 218.1 | 174.5 | 60.7 |
| 2022/23 推定 | 60.7 | 403.4 | 19.1 | 483.2 | 105.2 | 13.3 | 79.3 | 225.2 | 192.9 | 65.0 |
| 2023/24 予測 | 65.0 | 380.5 | 13.6 | 459.1 | 105.4 | 13.7 | 79.2 | 225.1 | 177.9 | 56.0 |
| 中国 (7月/6月) | | | | | | | | | | |
| 2021/22 | 128.3 | 136.9 | 9.9 | 275.1 | 95.5 | 7.0 | 27.5 | 141.1 | 1.1 | 132.9 |
| 2022/23 推定 | 132.9 | 137.7 | 13.6 | 284.2 | 97.5 | 6.7 | 27.0 | 142.8 | 1.1 | 140.3 |
| 2023/24 予測 | 140.3 | 136.5 | 11.7 | 288.5 | 98.5 | 7.5 | 32.0 | 149.5 | 1.2 | 137.9 |
| インド (4月/3月) | | | | | | | | | | |
| 2021/22 | 27.3 | 109.6 | 0.0 | 136.9 | 95.2 | 0.2 | 7.0 | 109.9 | 8.0 | 19.0 |
| 2022/23 推定 | 19.0 | 107.7 | 0.3 | 127.0 | 94.6 | 0.2 | 6.5 | 108.6 | 5.4 | 13.0 |
| 2023/24 予測 | 13.0 | 108.0 | 0.1 | 121.1 | 94.9 | 0.2 | 6.0 | 108.4 | 1.0 | 11.7 |
| 世界計 | | | | | | | | | | |
| 2021/22 | 276.7 | 780.2 | 197.6 | 1,056.9 | 546.5 | 24.2 | 147.9 | 783.9 | 197.6 | 273.1 |
| 2022/23 推定 | 273.1 | 803.4 | 207.7 | 1,076.5 | 548.6 | 23.9 | 150.3 | 795.0 | 207.7 | 281.5 |
| 2023/24 予測 | 281.5 | 784.9 | 196.6 | 1,066.4 | 554.5 | 25.3 | 154.8 | 803.8 | 196.6 | 262.6 |
| 世界計 (中国を除く) | | | | | | | | | | |
| 2021/22 | 148.4 | 643.3 | 187.7 | 792.7 | 450.9 | 17.2 | 120.4 | 642.7 | 196.5 | 140.1 |
| 2022/23 推定 | 140.1 | 665.7 | 194.1 | 807.0 | 451.1 | 17.2 | 123.3 | 652.3 | 206.6 | 141.1 |
| 2023/24 予測 | 141.1 | 648.4 | 184.9 | 790.7 | 456.0 | 17.8 | 122.8 | 654.3 | 195.5 | 124.7 |

a) 種子用および廃棄分を含む、b) 製粉製品の推定輸出入量を含む、c) IGC 7月/6月データ (2023年10月19日現在) (IGC)

[表2] 世界の小麦生産量

(百万t)

| 地区・国名 | | 20/21 | 21/22 | 22/23 (推定) | 23/24 (予測) | |
|-------|-----------|---------|-------|------------|------------|-------|
| ヨーロッパ | EU | ブルガリア | 4.7 | 7.1 | 6.2 | 6.5 |
| | | チェコ | 4.9 | 4.9 | 5.1 | 5.1 |
| | | デンマーク | 4.1 | 4.1 | 4.3 | 4.0 |
| | | フランス | 30.4 | 37.0 | 35.0 | 36.4 |
| | | ドイツ | 21.9 | 21.5 | 22.6 | 21.1 |
| | | ハンガリー | 5.1 | 5.2 | 5.2 | 5.6 |
| | | ギリシャ | 1.1 | 1.0 | 0.9 | 0.9 |
| | | イタリア | 6.5 | 7.1 | 6.4 | 6.8 |
| | | ポーランド | 12.6 | 12.0 | 13.3 | 12.7 |
| | | ルーマニア | 6.7 | 10.4 | 8.6 | 10.2 |
| | | スロバキア | 2.1 | 2.0 | 1.9 | 2.4 |
| | | スペイン | 7.8 | 8.2 | 6.0 | 3.7 |
| | | スウェーデン | 3.2 | 3.0 | 3.2 | 3.0 |
| | その他 | 14.8 | 14.1 | 15.3 | 14.1 | |
| | 計 | 125.7 | 137.5 | 133.8 | 132.4 | |
| | セルビア | 2.9 | 3.4 | 3.1 | 3.6 | |
| | イギリス | 9.7 | 14.0 | 15.5 | 14.1 | |
| | その他 | 1.7 | 1.7 | 1.7 | 1.7 | |
| | 計 | 139.9 | 156.7 | 154.1 | 151.8 | |
| CIS | カザフスタン | 14.3 | 11.8 | 16.4 | 12.5 | |
| | ロシア | 85.4 | 75.0 | 95.4 | 89.0 | |
| | ウクライナ | 25.4 | 33.0 | 26.3 | 27.4 | |
| | その他 | 14.6 | 14.2 | 14.2 | 15.4 | |
| | 計 | 139.6 | 134.0 | 152.3 | 144.3 | |
| 北中米 | カナダ | 35.4 | 22.4 | 34.3 | 29.8 | |
| | メキシコ | 3.0 | 3.3 | 3.6 | 3.4 | |
| | アメリカ | 49.8 | 44.8 | 44.9 | 49.3 | |
| | その他 | — | — | T | T | |
| | 計 | 88.2 | 70.5 | 82.8 | 82.5 | |
| 南米 | アルゼンチン | 17.6 | 22.1 | 12.6 | 15.6 | |
| | ブラジル | 6.2 | 7.7 | 10.6 | 10.5 | |
| | チリ | 1.4 | 1.1 | 1.3 | 1.3 | |
| | ウルグアイ | 0.9 | 1.0 | 1.2 | 1.2 | |
| | その他 | 1.7 | 1.7 | 1.8 | 1.8 | |
| | 計 | 27.8 | 33.6 | 27.4 | 30.4 | |
| 近東アジア | イラン | 14.5 | 11.5 | 13.2 | 14.0 | |
| | イラク | 5.4 | 3.5 | 3.0 | 4.2 | |
| | サウジアラビア | 0.6 | 0.5 | 0.6 | 0.6 | |
| | シリア | 2.8 | 2.0 | 2.1 | 2.4 | |
| | トルコ | 19.5 | 17.7 | 19.8 | 20.5 | |
| | その他 | 0.4 | 0.4 | 0.4 | 0.4 | |
| | 計 | 43.2 | 35.5 | 39.1 | 42.1 | |
| 極東アジア | ア太平 ア洋 | 中国 | 134.3 | 136.9 | 137.7 | 136.5 |
| | | その他 | 1.6 | 1.9 | 1.6 | 1.8 |
| | | 計 | 135.9 | 138.9 | 139.3 | 138.3 |
| | 南アジア | アフガニスタン | 5.0 | 4.5 | 4.5 | 4.7 |
| | | インド | 107.9 | 109.6 | 107.7 | 108.0 |
| | | パキスタン | 25.2 | 27.5 | 26.4 | 28.0 |
| | | その他 | 3.3 | 3.2 | 3.3 | 3.3 |
| | 計 | 141.4 | 144.8 | 141.9 | 144.0 | |
| | 計 | 277.3 | 283.6 | 281.2 | 282.3 | |
| アフリカ | 北アフリカ | アルジェリア | 3.1 | 2.4 | 3.0 | 2.6 |
| | | エジプト | 8.9 | 9.0 | 9.8 | 9.9 |
| | | リビア | 0.1 | 0.1 | 0.1 | 0.1 |
| | | モロッコ | 2.9 | 7.5 | 2.7 | 4.0 |
| | | チュニジア | 1.0 | 1.2 | 1.2 | 0.6 |
| | | 計 | 16.1 | 20.3 | 16.9 | 17.2 |
| | 以南 | エチオピア | 5.5 | 5.5 | 5.8 | 5.5 |
| | | 南アフリカ | 2.1 | 2.3 | 2.1 | 2.1 |
| | | その他 | 1.7 | 1.6 | 1.6 | 1.8 |
| | | 計 | 9.3 | 9.4 | 9.5 | 9.4 |
| | 計 | 25.3 | 29.6 | 26.4 | 26.7 | |
| オセアニア | オーストラリア | 31.9 | 36.2 | 39.7 | 24.4 | |
| | 計 | 32.4 | 36.7 | 40.1 | 24.8 | |
| | 世界計 | 773.7 | 780.2 | 803.4 | 784.9 | |

Tは5万t以下 (2023年10月19日現在)

(IGC)

[表3] 世界の小麦貿易量

(百万t)

| 輸 入 国 | | 20/21 | 21/22 | 22/23 (推定) | 23/24 (予測) | |
|-------|----------|---------|-------|------------|------------|------|
| ヨーロッパ | アルバニア | 0.2 | 0.2 | 0.2 | 0.3 | |
| | EU | 6.1 | 5.2 | 12.4 | 7.3 | |
| | ノルウェー | 0.3 | 0.3 | 0.3 | 0.3 | |
| | スイス | 0.4 | 0.8 | 0.6 | 0.6 | |
| | その他 | 2.8 | 2.5 | 1.9 | 2.2 | |
| | 計 | 9.9 | 9.0 | 15.4 | 10.7 | |
| CIS | アゼルバイジャン | 1.4 | 1.2 | 1.5 | 1.5 | |
| | ジョージア | 0.7 | 0.4 | 0.4 | 0.5 | |
| | ロシア | 0.2 | 0.1 | 0.1 | 0.1 | |
| | タジキスタン | 1.4 | 1.0 | 1.1 | 1.5 | |
| | ウズベキスタン | 3.7 | 3.3 | 4.3 | 3.5 | |
| | その他 | 1.4 | 3.6 | 3.9 | 2.6 | |
| | 計 | 8.8 | 9.7 | 11.2 | 9.6 | |
| 北中米 | キューバ | 0.6 | 0.6 | 0.4 | 0.6 | |
| | メキシコ | 4.7 | 5.3 | 5.2 | 5.2 | |
| | アメリカ | 1.9 | 2.1 | 2.5 | 2.8 | |
| | その他 | 3.5 | 3.6 | 3.6 | 3.8 | |
| | 計 | 10.8 | 11.6 | 11.7 | 12.4 | |
| 南 米 | ボリビア | 0.5 | 0.3 | 0.2 | 0.4 | |
| | ブラジル | 6.3 | 6.9 | 4.8 | 5.1 | |
| | チ リ | 1.5 | 1.3 | 1.2 | 1.3 | |
| | コロンビア | 1.9 | 2.0 | 2.1 | 2.1 | |
| | エクアドル | 1.4 | 1.2 | 1.4 | 1.3 | |
| | ペルー | 2.3 | 2.1 | 2.0 | 2.1 | |
| | ベネズエラ | 0.8 | 1.0 | 0.9 | 1.0 | |
| | その他 | 0.1 | 0.1 | 0.1 | 0.1 | |
| | 計 | 14.8 | 14.9 | 12.8 | 13.3 | |
| 近東アジア | イラン | 2.0 | 6.9 | 3.5 | 4.0 | |
| | イラク | 2.0 | 2.0 | 3.7 | 3.0 | |
| | イスラエル | 1.6 | 2.0 | 1.9 | 1.7 | |
| | ヨルダン | 1.2 | 1.0 | 1.2 | 1.2 | |
| | クウェート | 0.4 | 0.4 | 0.5 | 0.6 | |
| | レバノン | 1.2 | 0.9 | 0.8 | 0.9 | |
| | サウジアラビア | 2.9 | 3.3 | 4.8 | 3.6 | |
| | シリア | 0.4 | 0.5 | 0.5 | 0.7 | |
| | トルコ | 8.6 | 10.7 | 13.0 | 8.9 | |
| | UAE | 1.3 | 1.7 | 1.8 | 1.7 | |
| | イエメン | 4.1 | 3.5 | 3.9 | 3.8 | |
| | その他 | 1.1 | 1.4 | 1.6 | 1.4 | |
| | 計 | 26.7 | 34.3 | 37.2 | 31.3 | |
| 極東アジア | 太平洋アジア | 中 国 | 10.8 | 9.7 | 13.4 | 11.5 |
| | | インドネシア | 10.6 | 10.5 | 9.5 | 10.5 |
| | | 日 本 | 5.1 | 5.2 | 5.4 | 5.1 |
| | | 北朝鮮 | T | T | 0.1 | 0.1 |
| | | 韓 国 | 3.8 | 5.1 | 4.6 | 4.9 |
| | | マレーシア | 1.7 | 1.8 | 1.7 | 1.7 |
| | | フィリピン | 6.0 | 6.7 | 5.7 | 6.1 |
| | | シンガポール | 0.4 | 0.4 | 0.4 | 0.4 |
| | | 台 湾 | 1.4 | 1.4 | 1.3 | 1.4 |
| | | タ イ | 3.1 | 2.3 | 3.2 | 2.3 |
| | ベトナム | 3.9 | 4.5 | 4.3 | 4.3 | |
| | その他 | 1.0 | 0.8 | 0.8 | 0.8 | |
| | | 計 | 47.8 | 48.5 | 50.4 | 49.1 |
| | 南アジア | バンララデシュ | 7.1 | 6.4 | 4.6 | 5.6 |
| | | インド | T | T | 0.3 | T |
| | | パキスタン | 3.6 | 2.5 | 3.1 | 2.3 |
| | | スリランカ | 1.5 | 1.1 | 1.0 | 1.3 |
| | | その他 | 3.8 | 3.8 | 4.0 | 3.7 |
| | | 計 | 16.0 | 13.9 | 13.0 | 12.9 |
| | 計 | 63.8 | 62.3 | 63.3 | 62.0 | |

| 輸 入 国 | | | 20/21 | 21/22 | 22/23 (推定) | 23/24 (予測) |
|-----------------------|-----------------------|----------|-------|-------|------------|------------|
| ア フ リ カ | 北 ア フ リ カ | アルジェリア | 7.7 | 8.4 | 7.9 | 8.6 |
| | | エジプト | 12.2 | 12.0 | 12.9 | 11.7 |
| | | リビア | 1.4 | 1.2 | 1.7 | 1.5 |
| | | モロッコ | 5.1 | 4.8 | 5.7 | 6.5 |
| | | チュニジア | 1.8 | 1.8 | 1.9 | 2.6 |
| | | 計 | 28.2 | 28.1 | 30.1 | 30.9 |
| | サ ハ ラ 以 南 | コートジボワール | 0.7 | 0.8 | 0.7 | 0.7 |
| | | エチオピア | 1.2 | 1.7 | 1.1 | 1.2 |
| | | ケニア | 2.0 | 2.1 | 2.4 | 2.4 |
| | | ナイジェリア | 6.6 | 6.2 | 4.7 | 5.0 |
| | | 南アフリカ | 1.9 | 1.8 | 2.2 | 1.9 |
| | | スーダン | 2.1 | 2.6 | 2.0 | 2.3 |
| | | その他 | 11.4 | 11.4 | 11.6 | 11.8 |
| | | 計 | 25.9 | 26.6 | 24.6 | 25.4 |
| | 計 | 54.0 | 54.8 | 54.7 | 56.2 | |
| オ セ ア ニ ア | ニュージーランド | 0.5 | 0.6 | 0.7 | 0.6 | |
| | その他 | 0.8 | 0.7 | 0.6 | 0.7 | |
| | 計 | 1.2 | 1.2 | 1.3 | 1.2 | |
| 世 界 計 | | | 190.6 | 197.6 | 207.7 | 196.6 |

| 輸 出 国 | | 20/21 | 21/22 (推定) | 22/23 (予測) | 23/24 (予想) |
|---------|--|-------|------------|------------|------------|
| アルゼンチン | | 10.1 | 18.7 | 4.9 | 11.0 |
| オーストラリア | | 19.7 | 26.1 | 32.3 | 17.8 |
| カナダ | | 27.5 | 15.0 | 25.4 | 22.7 |
| EU | | 28.1 | 30.3 | 33.1 | 34.3 |
| カザフスタン | | 8.1 | 8.4 | 9.8 | 9.0 |
| ロシア | | 38.2 | 33.0 | 48.1 | 49.0 |
| ウクライナ | | 16.8 | 18.9 | 17.1 | 12.5 |
| アメリカ | | 26.5 | 21.3 | 20.2 | 19.5 |
| ブラジル | | 0.9 | 3.1 | 2.7 | 2.8 |
| 中 国 | | 0.1 | 0.2 | 0.2 | 0.3 |
| インド | | 3.5 | 10.5 | 1.6 | 2.0 |
| パキスタン | | 0.5 | 0.5 | 0.6 | 0.5 |
| メキシコ | | 0.6 | 0.7 | 0.7 | 1.1 |
| トルコ | | 4.7 | 4.7 | 5.0 | 7.2 |
| その他 | | 5.2 | 6.3 | 5.9 | 7.0 |
| 世 界 計 | | 190.6 | 197.6 | 207.7 | 196.6 |

年度は7月～6月、Tは5万t以下、数値が[表1]の輸出入値より若干低い場合が多いが、本表では製粉製品を含まないためと考えられるので、そのまま記載した。(2023年10月19日現在)

(IGC)

[表4] 世界の小麦粉貿易量 (デュラム・セモリナを除く)

(小麦換算、千t)

| 地域・国名 | | 20/21 | 21/22 | 22/23 (推定) | 23/24 (予測) | |
|-------------|-------------|---------|--------|------------|------------|-------|
| 輸 入 国 | ヨーロッパ | EU | 239 | 314 | 431 | 400 |
| | | その他 | 381 | 436 | 379 | 390 |
| | | 計 | 620 | 750 | 810 | 790 |
| | CIS | タジキスタン | 118 | 95 | 88 | 150 |
| | | ウズベキスタン | 507 | 592 | 707 | 400 |
| | | その他 | 305 | 423 | 626 | 500 |
| | | 計 | 930 | 1,110 | 1,420 | 1,050 |
| | 北・中 アメリカ | カナダ | 75 | 81 | 71 | 80 |
| | | メキシコ | 264 | 216 | 134 | 200 |
| | | アメリカ | 370 | 398 | 347 | 380 |
| | | その他 | 210 | 224 | 167 | 200 |
| | | 計 | 920 | 920 | 720 | 860 |
| | 南アメリカ | ボリビア | 447 | 291 | 150 | 300 |
| | | ブラジル | 355 | 436 | 356 | 400 |
| | | ベネズエラ | 252 | 307 | 294 | 310 |
| | | その他 | 66 | 66 | 80 | 90 |
| | | 計 | 1,120 | 1,100 | 880 | 1,100 |
| | 近東アジア | イラク | 1,873 | 1,888 | 2,064 | 1,700 |
| | | イスラエル | 83 | 65 | 54 | 60 |
| | | シリア | 366 | 513 | 468 | 700 |
| イエメン | | 658 | 398 | 530 | 650 | |
| その他 | | 430 | 697 | 383 | 390 | |
| | 計 | 3,410 | 3,560 | 3,500 | 3,500 | |
| 極東アジア | アフガニスタン | 2,243 | 2,302 | 2,400 | 2,350 | |
| | 中国 | 132 | 88 | 190 | 160 | |
| | 香港 | 210 | 218 | 220 | 220 | |
| | インドネシア | 71 | 72 | 60 | 65 | |
| | マレーシア | 153 | 117 | 120 | 120 | |
| | シンガポール | 175 | 185 | 180 | 185 | |
| | タイ | 168 | 179 | 150 | 150 | |
| | その他 | 268 | 471 | 830 | 780 | |
| | 計 | 3,420 | 3,630 | 4,150 | 4,030 | |
| アフリカ | 北アフリカ | 40 | 70 | 60 | 60 | |
| | アンゴラ | 205 | 218 | 80 | 80 | |
| | ベナン | 170 | 109 | 60 | 80 | |
| | ブルキナファソ | 167 | 41 | 40 | 45 | |
| | エリトリア | 140 | 135 | 130 | 140 | |
| | ガーナ | 106 | 96 | 90 | 90 | |
| | マダガスカル | 118 | 84 | 100 | 100 | |
| | ソマリア | 359 | 427 | 365 | 370 | |
| | シエラレオネ | 84 | 77 | 61 | 80 | |
| | トーゴ | 48 | 8 | 10 | 10 | |
| | その他 | 913 | 1,275 | 874 | 1,035 | |
| | 計 | 2,310 | 2,470 | 1,810 | 2,030 | |
| | 計 | 2,350 | 2,540 | 1,870 | 2,090 | |
| オセアニア | 140 | 180 | 130 | 150 | | |
| その他・不詳 | 890 | 1,010 | 920 | 930 | | |
| | 世界計 | 13,800 | 14,800 | 14,400 | 14,500 | |
| 輸 出 国 | アルゼンチン | 804 | 741 | 519 | 540 | |
| | カナダ | 240 | 246 | 293 | 250 | |
| | EU | 603 | 608 | 552 | 550 | |
| | カザフスタン | 2,336 | 2,310 | 2,758 | 2,500 | |
| | ロシア | 285 | 516 | 1,110 | 700 | |
| | ウクライナ | 178 | 100 | 209 | 150 | |
| | アメリカ | 346 | 307 | 237 | 240 | |
| | 中国 | 107 | 170 | 206 | 220 | |
| | エジプト | 615 | 702 | 354 | 490 | |
| | インド | 425 | 1,106 | 233 | 200 | |
| | イラン | 250 | 349 | 200 | 200 | |
| | 日本 | 241 | 239 | 230 | 230 | |
| | パキスタン | 130 | 103 | 200 | 200 | |
| | スリランカ | 96 | 119 | 65 | 70 | |
| | トルコ | 4,534 | 4,417 | 4,856 | 5,500 | |
| アラブ首長国連邦 | 93 | 200 | 50 | 50 | | |
| その他 | 2,516 | 2,567 | 2,329 | 2,410 | | |

(2023年10月19日現在) 輸入小麦で挽いた粉 (小麦換算) も含む。

(IGC)

[表5] アメリカ小麦の銘柄別需給

(百万t)

| 銘柄 | | HRW | | HRS | | SRW | | White | | Durum | | 小麦計 | | |
|------|------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 年度 | | 22/23 | 23/24 | 22/23 | 23/24 | 22/23 | 23/24 | 22/23 | 23/24 | 22/23 | 23/24 | 22/23 | 23/24 | |
| 供給 | 期初在庫 | 10.23 | 6.37 | 3.97 | 4.30 | 2.69 | 2.45 | 1.47 | 1.96 | 0.65 | 0.76 | 19.00 | 15.84 | |
| | 生産 | 14.45 | 16.36 | 12.14 | 12.74 | 9.14 | 12.22 | 7.40 | 6.40 | 1.74 | 1.61 | 44.91 | 49.31 | |
| | 計* | 24.79 | 23.27 | 17.64 | 18.67 | 11.95 | 14.81 | 9.06 | 8.49 | 3.78 | 3.59 | 67.22 | 68.83 | |
| 需要 | 国内消費 | 食用 | 10.18 | 10.18 | 7.24 | 7.08 | 4.44 | 4.63 | 2.31 | 2.31 | 2.31 | 2.31 | 26.51 | 26.51 |
| | | 飼料用、他 | 1.39 | 0.82 | -0.19 | 0.27 | 1.77 | 2.18 | -0.54 | - | 0.01 | - | 3.27 | 2.45 |
| | 計 | 12.33 | 11.73 | 7.51 | 7.84 | 6.59 | 7.13 | 1.91 | 2.48 | 2.39 | 2.37 | 31.54 | 30.73 | |
| | 輸出 | 6.10 | 3.95 | 5.82 | 6.12 | 2.91 | 3.95 | 5.17 | 4.35 | 0.63 | 0.68 | 20.66 | 19.05 | |
| | 計 | 18.45 | 15.68 | 13.34 | 13.96 | 9.50 | 11.08 | 7.10 | 6.83 | 3.02 | 3.05 | 51.38 | 50.59 | |
| 期末在庫 | | 6.37 | 7.59 | 4.30 | 4.71 | 2.45 | 3.73 | 1.96 | 1.66 | 0.76 | 0.54 | 15.84 | 18.23 | |

(2023年10月13日現在) * 輸入を含む

(USDA)

[表6] カナダ小麦の作付、収穫面積、収量、生産量

| | 小麦の種類 | 2020年 | 2021年 | 2022年 | 2023年 |
|---------------|--------------|--------|--------|--------|--------|
| 作付面積 (千ha) | デュラム小麦を除く春小麦 | 7,255 | 6,484 | 7,299 | 7,881 |
| | デュラム小麦 | 2,302 | 2,321 | 2,431 | 2,442 |
| | 小麦 計 | 10,194 | 9,492 | 10,274 | 10,936 |
| 収穫面積 (千ha) | デュラム小麦を除く春小麦 | 7,175 | 6,376 | 7,222 | 7,718 |
| | デュラム小麦 | 2,295 | 2,231 | 2,399 | 2,363 |
| | 小麦 計 | 10,018 | 9,199 | 10,082 | 10,650 |
| 収量 (t/ha) | デュラム小麦を除く春小麦 | 3.6 | 2.5 | 3.6 | 2.9 |
| | デュラム小麦 | 2.9 | 1.4 | 2.4 | 1.7 |
| | 小麦 計 | 3.5 | 2.4 | 3.4 | 2.7 |
| 生産量 (千t) | デュラム小麦を除く春小麦 | 26,092 | 16,162 | 25,844 | 21,997 |
| | デュラム小麦 | 6,571 | 3,032 | 5,790 | 4,059 |
| | 小麦 計 | 35,437 | 22,422 | 34,335 | 29,195 |

(2023年9月8日現在)

(Statistics Canada)

[表7] 韓国の製粉工場

| 会社名 | 創業年 | 工場所在地 | 工場数 |
|---------------------|------|---------|-----|
| Daehan Flour Mills | 1952 | Incheon | 1 |
| | | Busan | 1 |
| CJ Cheiljedang | 1945 | Seoul | 1 |
| | | Yangsan | 1 |
| SajoDongaone | 1953 | Dangjin | 1 |
| | | Busan | 1 |
| Samyang Corp. | 1956 | Asan | 1 |
| Daesun Flour Mills | 1958 | Asan | 1 |
| Samhwa Flour Mills | 1957 | Incheon | 1 |
| Hantop | 1959 | Busan | 1 |
| SPC | 2008 | Gongju | 1 |
| Samyang Flour Mills | 2017 | Wonju | 1 |

(注) SPCとSamyang Flour Millsは製粉協会 (KOFMIA) に非加盟。
加盟会社と非加盟会社の能力比は86：14。

[表8] 韓国の国別小麦輸入量

(千t)

| | 2018 | 2019 | 2020 | 2021 | 2022 |
|---------|-------|-------|-------|-------|-------|
| アメリカ | 1,130 | 1,139 | 1,340 | 1,224 | 1,146 |
| カナダ | 177 | 208 | 187 | 218 | 249 |
| オーストラリア | 1,017 | 1,055 | 969 | 1,057 | 1,180 |
| 計 | 2,324 | 2,402 | 2,496 | 2,499 | 2,575 |

(USWA-2023 North Asia Marketing Conference)

[表9] ドイツ産麦類の作付面積、生産量

| | 作付面積 | | | | | 生産量 | | | | |
|---------------|-----------------------|-------|--------------|-------|-------|-----------------------|--------|--------------|-------|-------|
| | 2017~ 2022 (平均) | 2022 | 2023 (暫定) | 対 比 | | 2016~ 2021 (平均) | 2021 | 2022 (暫定) | 対 比 | |
| | | | | 17~22 | 22 | | | | 16~21 | 21 |
| | (千ha) | | | (%) | | (千t) | | | (%) | |
| 冬小麦(デュラムを除く) | 2,933 | 2,888 | 2,811 | -4.1 | -2.7 | 21,894 | 22,090 | 20,765 | -5.2 | -6.0 |
| 夏小麦(デュラムを除く) | 52 | 52 | 31 | -41.2 | -41.3 | 265 | 279 | 141 | -46.6 | -49.4 |
| デュラム小麦 | 34 | 41 | 42 | 24.4 | 3.5 | 179 | 218 | 240 | 34.1 | 10.1 |
| 小麦 計 | 3,019 | 2,981 | 2,884 | -4.5 | -3.3 | 22,338 | 22,587 | 21,146 | -5.3 | -6.4 |
| ライ麦 | 592 | 588 | 629 | 6.2 | 6.9 | 3,025 | 3,132 | 3,118 | 3.1 | -0.4 |
| 大麦 | 1,621 | 1,583 | 1,609 | -0.8 | 1.6 | 10,736 | 11,207 | 11,290 | 5.2 | 0.7 |
| エン麦 | 148 | 160 | 141 | -4.6 | -11.7 | 653 | 755 | 530 | -18.7 | -29.7 |
| ライ小麦 | 350 | 324 | 331 | -5.5 | 2.0 | 2,054 | 1,930 | 1,913 | -6.8 | -0.9 |
| 全穀物(除くトウモロコシ) | 5,739 | 5,645 | 5,601 | -2.4 | -0.8 | 38,839 | 39,641 | 38,023 | -2.1 | -4.1 |

(2023年9月現在)

(MM)

[表10] ドイツ小麦2023年認可品種

| 普通冬小麦 | | | | | | デュラム冬小麦 |
|-----------|--|---------------------------------------|------------|---------------------|------------|-------------|
| 通常栽培用 | | | 有機栽培用 | | | Wintersonne |
| 品質グループ | | | | | | |
| E (特選) | A (高品質) | B (パン用) | C (その他) | B (パン用) | C (その他) | |
| Exsal | Adrenalin LG Optimist RGT Dakapo RGT Kreation WPB Newton | KWS Mintum RGT Kreuzer SU Tammo | SU Shamal | Brocken Watzmann | RGT Dello | |

(MM)

製粉工場における玄麦および小麦粉の月別需給動向（令和5年度）

（単位：千トン、前年比％）

| 年 月 | 玄 麦 | | | | 小 麦 | | | | 粉 | | | |
|--------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|------|-------|
| | 買入数量 | 対前年比 | 加工量 | 対前年比 | 月末在庫 | 対前年比 | 生産量 | 対前年比 | 販売量 | 対前年比 | 月末在庫 | 対前年比 |
| 平成27年度 | 5,838 | 94.0 | 5,959 | 100.5 | 1,242 | 91.2 | 4,702 | 100.4 | 4,698 | 100.5 | 314 | 101.4 |
| 平成28年度 | 5,947 | 101.9 | 5,943 | 99.7 | 1,246 | 100.3 | 4,683 | 99.6 | 4,682 | 99.7 | 315 | 100.3 |
| 平成29年度 | 6,157 | 103.5 | 5,950 | 100.1 | 1,452 | 116.5 | 4,703 | 100.4 | 4,711 | 100.6 | 307 | 97.4 |
| 平成30年度 | 5,773 | 93.8 | 5,864 | 98.5 | 1,361 | 93.7 | 4,672 | 99.3 | 4,672 | 99.2 | 307 | 100.1 |
| 令和元年度 | 5,732 | 99.3 | 5,840 | 99.6 | 1,253 | 92.1 | 4,623 | 99.0 | 4,626 | 99.0 | 304 | 99.1 |
| 令和2年度 | 5,745 | 100.2 | 5,681 | 97.3 | 1,317 | 105.1 | 4,482 | 96.6 | 4,491 | 97.1 | 294 | 96.9 |
| 令和3年度 | 5,760 | 100.3 | 5,656 | 99.6 | 1,422 | 107.9 | 4,461 | 99.5 | 4,473 | 99.6 | 283 | 96.2 |
| 令和4年度 | 5,723 | 99.4 | 5,639 | 99.7 | 1,506 | 105.9 | 4,437 | 99.5 | 4,447 | 99.4 | 273 | 96.4 |
| 4 | 582 | 122.5 | 514 | 100.8 | 1,490 | 116.2 | 407 | 100.4 | 405 | 100.8 | 285 | 95.6 |
| 5 | 239 | 67.7 | 459 | 102.3 | 1,269 | 107.0 | 358 | 101.5 | 362 | 104.0 | 281 | 92.9 |
| 6 | 510 | 108.0 | 493 | 106.7 | 1,287 | 107.6 | 385 | 106.4 | 398 | 104.6 | 269 | 94.5 |
| 7 | 375 | 103.7 | 450 | 97.2 | 1,212 | 110.6 | 350 | 96.3 | 341 | 93.1 | 277 | 98.5 |
| 8 | 451 | 90.7 | 441 | 99.0 | 1,221 | 106.5 | 345 | 98.5 | 347 | 100.5 | 275 | 96.1 |
| 9 | 747 | 89.0 | 452 | 97.6 | 1,516 | 99.6 | 352 | 96.6 | 362 | 98.8 | 266 | 93.3 |
| 10 | 528 | 106.2 | 481 | 99.0 | 1,563 | 101.9 | 377 | 99.0 | 370 | 97.5 | 273 | 95.4 |
| 11 | 386 | 103.8 | 501 | 99.2 | 1,449 | 103.4 | 393 | 98.8 | 386 | 97.1 | 281 | 97.7 |
| 12 | 366 | 101.8 | 508 | 95.4 | 1,307 | 106.4 | 400 | 95.3 | 399 | 93.2 | 281 | 101.1 |
| 5.1 | 360 | 141.5 | 420 | 98.3 | 1,247 | 118.1 | 335 | 99.4 | 335 | 102.9 | 282 | 97.0 |
| 2 | 409 | 84.0 | 425 | 102.1 | 1,231 | 109.2 | 339 | 102.4 | 343 | 103.1 | 277 | 96.2 |
| 3 | 769 | 97.2 | 494 | 99.6 | 1,506 | 105.9 | 394 | 99.7 | 399 | 99.5 | 273 | 96.4 |
| 5.4 | 539 | 92.6 | 501 | 97.4 | 1,544 | 103.7 | 397 | 97.5 | 385 | 94.9 | 285 | 100.2 |
| 5 | 228 | 95.4 | 455 | 99.2 | 1,317 | 103.7 | 363 | 101.3 | 366 | 101.1 | 283 | 100.4 |
| 6 | 498 | 97.7 | 483 | 98.1 | 1,332 | 103.5 | 380 | 98.7 | 390 | 98.0 | 273 | 101.5 |
| 7 | 388 | 103.4 | 443 | 98.5 | 1,276 | 105.3 | 348 | 99.5 | 351 | 102.8 | 270 | 97.4 |
| 8 | 421 | 93.4 | 452 | 102.4 | 1,245 | 102.0 | 353 | 102.5 | 352 | 101.5 | 271 | 98.6 |
| 9 | 623 | 83.4 | 463 | 102.6 | 1,405 | 92.6 | 365 | 103.6 | 363 | 100.4 | 273 | 102.8 |
| 10 | | | | | | | | | | | | |
| 11 | | | | | | | | | | | | |
| 12 | | | | | | | | | | | | |
| 6.1 | | | | | | | | | | | | |
| 2 | | | | | | | | | | | | |
| 3 | | | | | | | | | | | | |
| 年度計 | | | | | | | | | | | | |

(注) 1. 玄麦の買入・加工数量にはSBSでの買受分(19年度から)、大臣証明制度による輸出入見返り分、納付金輸入分、民間流通麦及びその他国内産麦を含み、小麦粉の生産・販売量は、輸出入を除いた数量である。
 2. 「製粉・精麦工場需給実績報告」(農産局農産政策部貿易業務課)による。
 3. 四捨五入の関係で内訳と計が一致しないことがある。

小麦加工食品の輸入の推移 (8月分)

(単位：トン、金額：千円)

| 区分 年月 | レート | 小麦粉、小麦(ひき割)、ミール、ペレット) | | | 小麦グルテン | | | 小麦粉調製品 | | | ケーキミックス | | | マカロニ、スパゲッティ | | |
|---------------|-----|-----------------------|---------|---------|--------|-------|-----------|--------|-------|------------|---------|--------|---------|-------------|--------|------------|
| | | 数量 | 前増減率 | 金額 | 数量 | 前増減率 | 金額 | 数量 | 前増減率 | 金額 | 数量 | 前増減率 | 金額 | 数量 | 前増減率 | 金額 |
| 2014 | 121 | 2,723 | -9.6 | 336,882 | 19,737 | -1.2 | 4,328,283 | 98,354 | -2.1 | 20,218,231 | 5,522 | 11.0 | 891,181 | 133,016 | 0.3 | 17,626,850 |
| 2015 | 109 | 2,868 | 5.3 | 355,303 | 19,796 | 0.3 | 4,453,663 | 94,387 | -4.0 | 20,573,487 | 4,945 | -10.4 | 910,759 | 131,986 | -0.8 | 19,404,373 |
| 2016 | 112 | 3,139 | 9.4 | 333,219 | 20,501 | 3.6 | 4,289,793 | 91,397 | -3.2 | 17,891,375 | 4,441 | -10.2 | 627,601 | 145,021 | 9.9 | 18,579,602 |
| 2017 | 111 | 3,498 | 11.4 | 370,885 | 22,127 | 7.9 | 4,830,021 | 91,882 | 0.5 | 19,882,665 | 4,713 | 6.1 | 657,557 | 149,689 | 3.2 | 18,469,306 |
| 2018 | 109 | 3,511 | 0.4 | 393,620 | 23,505 | 6.2 | 5,350,600 | 83,406 | -9.2 | 18,418,566 | 5,187 | 10.1 | 649,193 | 138,493 | -7.5 | 16,614,109 |
| 2019 | 109 | 3,913 | 11.4 | 404,981 | 19,877 | -15.4 | 4,362,535 | 82,155 | -1.5 | 17,705,776 | 4,889 | -5.7 | 621,303 | 146,189 | 5.6 | 16,398,783 |
| 2020 | 107 | 3,615 | -7.6 | 377,018 | 20,690 | 4.1 | 4,389,315 | 83,954 | 2.2 | 17,546,675 | 4,353 | -11.0 | 644,378 | 180,956 | 23.8 | 20,149,826 |
| 2021 | 109 | 3,394 | -6.1 | 406,041 | 22,268 | 7.6 | 5,050,531 | 79,546 | -5.3 | 18,851,992 | 4,136 | -5.0 | 672,259 | 141,016 | -22.1 | 17,452,834 |
| 2022 | 131 | 4,179 | 23.1 | 617,178 | 22,277 | 0.0 | 6,997,577 | 77,040 | -3.1 | 23,951,702 | 4,023 | -2.7 | 913,956 | 152,440 | 8.1 | 25,654,037 |
| 2023年1月 | 132 | 117 | -58.8 | 25,481 | 2,438 | 8.3 | 718,124 | 6,580 | 0.4 | 1,838,198 | 121 | -55.7 | 25,296 | 8,154 | -20.7 | 1,678,697 |
| 2 | 130 | 278 | 36.9 | 42,321 | 1,942 | 28.4 | 643,225 | 4,798 | -21.3 | 1,401,225 | 108 | -17.3 | 27,016 | 9,722 | -17.4 | 1,768,163 |
| 3 | 135 | 392 | 18.8 | 58,025 | 2,330 | 25.6 | 949,457 | 6,153 | -9.3 | 2,224,384 | 75 | -83.0 | 17,956 | 9,832 | -8.7 | 1,998,595 |
| 4 | 132 | 377 | -27.8 | 64,234 | 2,233 | -27.1 | 1,045,597 | 5,506 | -21.2 | 2,016,396 | 259 | -60.7 | 43,195 | 13,450 | 7.5 | 2,702,969 |
| 5 | 135 | 469 | 85.4 | 70,835 | 1,904 | -14.5 | 956,368 | 5,008 | -25.8 | 1,690,581 | 323 | 50.2 | 52,234 | 13,803 | 22.2 | 2,743,657 |
| 6 | 139 | 425 | 16.4 | 66,630 | 1,403 | -10.8 | 653,705 | 5,793 | -13.8 | 2,257,870 | 161 | -62.4 | 32,040 | 11,594 | -26.5 | 2,197,762 |
| 7 | 142 | 271 | -40.6 | 47,979 | 1,574 | 49.8 | 880,670 | 6,394 | -6.5 | 2,232,619 | 352 | 55.9 | 73,678 | 14,736 | -101.2 | 2,834,305 |
| 8 | 142 | 388 | -25.7 | 66,595 | 1,399 | -42.4 | 736,342 | 5,754 | -7.4 | 2,213,280 | 173 | -11.6 | 41,213 | 13,185 | -31.0 | 2,600,254 |
| 9 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 10 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 11 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 12 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2023年1月～12月累計 | | 2,717 | -7.4 | 442,100 | 15,223 | -4.6 | 6,583,488 | 45,986 | -13.2 | 15,874,553 | 1,571 | -44.2 | 312,628 | 94,476 | -10.9 | 18,524,402 |
| 米 | 国 | 51 | -28.2 | 18,555 | 4,000 | 13.6 | 1,113,220 | 41 | -58.8 | 1,139,220 | 41 | | 22,916 | 8,411 | -40.9 | 2,427,265 |
| 英 | 国 | 9 | 50.0 | 3,678 | 83 | -34.4 | 56,523 | | | 56,523 | | | | | | |
| 中 | 国 | 14 | 1,300.0 | 1,782 | 275 | 47.6 | 78,628 | 3,057 | -20.1 | 1,030,384 | 0 | -100.0 | 0 | 3 | -26.0 | 699 |
| 仏 | 国 | 287 | -27.0 | 50,693 | 1,375 | 1.5 | 400,640 | 7,054 | -27.6 | 5,064,529 | | | | | | |
| 香 | 港 | | | | | | | | | | | | | | | |
| イ | ン | | | | | | | | | | | | | | | |
| ト | ン | 4 | 33.3 | 726 | 6 | | | 6 | | 25,131 | | | 38,994 | | -6.3 | 6,152,013 |
| ス | ウ | 1 | | 273 | | | | 15,994 | -8.0 | 2,087,894 | 308 | 5.0 | 55,561 | | | |
| 蘭 | 国 | | | | | | | 177 | -8.9 | 120,234 | | | | | | |
| タ | イ | 39 | 39.3 | 9,997 | 2,942 | -2.4 | 1,296,056 | 265 | -29.2 | 188,251 | 1 | -33.5 | 769 | 1 | | 968 |
| 独 | 国 | 10 | 400.0 | 1,703 | 483 | -65.8 | 359,208 | 6 | -99.2 | 5,750 | 0 | | | 6 | | 2,113 |
| カ | ナ | | | | | | | 582 | -2.6 | 300,284 | 0 | | | | | |
| チ | ン | 0 | -100.0 | 0 | | | | 42 | 357.8 | 13,417 | 0 | -100.0 | 0 | 40 | 538.6 | 8,422 |
| ベ | ン | | | | | | | | | | | | | | | |
| ラ | ス | | | | | | | 1,023 | -0.6 | 824,063 | | | | | | |
| オ | ランダ | 36 | -34.5 | 7,645 | 8,671 | 3.7 | 4,022,673 | 9,304 | -10.4 | 2,710,663 | 1,215 | -49.2 | 228,661 | 7 | -76.9 | 2,940 |
| ン | グ | 7 | 133.3 | 1,294 | | | | 695 | -2.5 | 271,563 | 0 | | | 0 | -100.0 | 0 |
| ガ | ボ | 2 | -66.7 | 796 | | | | 1,752 | -31.4 | 1,083,856 | 0 | -100.0 | 0 | 1 | | 318 |
| ポ | ー | | | | | | | 765 | 22.1 | 338,182 | | | | | | 260 |
| ー | ラ | | | | | | | 183 | -15.6 | 110,738 | 5 | 26.3 | 2,663 | 8 | -58.7 | 4,497 |
| ン | ン | | | | | | | | | | | | | | | |
| ド | ド | | | | | | | 480 | 18.6 | 325,156 | | | | 12 | 9.4 | 3,229 |
| マ | レー | | | | | | | 37 | -28.8 | 21,926 | 2 | 505.0 | 2,058 | 4 | | 1,139 |
| レ | イ | | | | | | | | | | | | | | | |
| イ | ン | 1,596 | -19.4 | 265,346 | | | | 448 | 48.9 | 161,554 | 0 | -100.0 | 0 | 2,885 | -14.4 | 426,410 |
| ス | ベ | 661 | 71.2 | 79,612 | 1,478 | 25.6 | 426,283 | 448 | 48.9 | 161,554 | 0 | -100.0 | 0 | 2,885 | -14.4 | 426,410 |
| 伊 | 国 | | | | | | | | | | | | | | | |
| そ | の | | | | | | | | | | | | | | | |

(次頁につづく)

小麦加工食品の輸入の推移 (9月分)

(単位：トン、金額：千円)

| 区分 年月 | レート | 小麦粉、小麦(ひき割)、ミール、ペレット) | | | 小麦グルテン | | | 小麦粉調製品 | | | ケーキミックス | | | マカロニ、スパゲッティ | | |
|---------------|-----|-----------------------|---------|---------|---------|-------|-----------|---------|-------|------------|---------|--------|-----------|-------------|--------|------------|
| | | 数量 | 前増減率 | 金額 | 数量 | 前増減率 | 金額 | 数量 | 前増減率 | 金額 | 数量 | 前増減率 | 金額 | 数量 | 前増減率 | 金額 |
| 2014 | 121 | 2,723 | -9.6 | 336,882 | 19,737 | -1.2 | 4,328,283 | 98,354 | -2.1 | 20,218,231 | 5,522 | 11.0 | 891,181 | 133,016 | 0.3 | 17,626,850 |
| 2015 | 109 | 2,868 | 5.3 | 355,303 | 19,796 | 0.3 | 4,453,663 | 94,387 | -4.0 | 20,573,487 | 4,945 | -10.4 | 910,759 | 131,986 | -0.8 | 19,404,373 |
| 2016 | 112 | 3,139 | 9.4 | 333,219 | 20,501 | 3.6 | 4,289,793 | 91,397 | -3.2 | 17,891,375 | 4,441 | -10.2 | 627,601 | 145,021 | 9.9 | 18,579,602 |
| 2017 | 111 | 3,498 | 11.4 | 370,885 | 22,127 | 7.9 | 4,830,021 | 91,882 | 0.5 | 19,882,665 | 4,713 | 6.1 | 657,557 | 149,689 | 3.2 | 18,469,306 |
| 2018 | 109 | 3,511 | 0.4 | 393,620 | 23,505 | 6.2 | 5,350,600 | 83,400 | -9.2 | 18,418,566 | 5,187 | 10.1 | 649,193 | 138,493 | -7.5 | 16,614,109 |
| 2019 | 109 | 3,913 | 11.4 | 404,981 | 19,877 | -15.4 | 4,362,535 | 82,155 | -1.5 | 17,705,776 | 4,889 | -5.7 | 621,303 | 146,189 | 5.6 | 16,398,783 |
| 2020 | 107 | 3,615 | -7.6 | 377,018 | 20,690 | 4.1 | 4,389,315 | 83,954 | 2.3 | 17,546,675 | 4,353 | -11.0 | 644,378 | 180,956 | 23.8 | 20,149,826 |
| 2021 | 109 | 3,394 | -6.1 | 406,041 | 22,268 | 7.6 | 5,050,531 | 79,546 | -5.3 | 18,851,992 | 4,136 | -5.0 | 672,259 | 141,016 | -22.1 | 17,452,834 |
| 2022 | 131 | 4,179 | 23.1 | 617,178 | 22,277 | 0.0 | 6,997,577 | 77,040 | -3.1 | 23,951,702 | 4,023 | -2.7 | 913,956 | 152,440 | 8.1 | 25,654,037 |
| 2023年1月 | 132 | 117 | -58.8 | 25,481 | 2,438 | 8.3 | 718,124 | 6,580 | 0.4 | 1,838,198 | 121 | -55.7 | 25,296 | 8,154 | -20.7 | 1,678,697 |
| 2 | 130 | 278 | 36.9 | 42,321 | 1,942 | 28.4 | 643,225 | 4,798 | -21.3 | 1,401,225 | 108 | -71.3 | 27,016 | 9,722 | -17.4 | 1,768,163 |
| 3 | 135 | 392 | 18.8 | 58,025 | 2,330 | 25.6 | 949,457 | 6,153 | -9.3 | 2,224,384 | 75 | -83.0 | 17,956 | 9,832 | -8.7 | 1,998,595 |
| 4 | 132 | 377 | -27.8 | 64,234 | 2,233 | -27.1 | 1,045,597 | 5,506 | -21.2 | 2,016,396 | 259 | -60.7 | 43,195 | 13,450 | 7.5 | 2,702,969 |
| 5 | 135 | 469 | 85.4 | 70,835 | 1,904 | -14.5 | 956,368 | 5,008 | -25.8 | 1,690,581 | 323 | 50.2 | 52,234 | 13,800 | 22.2 | 2,743,657 |
| 6 | 139 | 425 | 16.4 | 66,630 | 1,403 | -10.8 | 653,705 | 5,793 | -13.8 | 2,257,870 | 161 | -62.4 | 32,040 | 11,594 | -26.5 | 2,197,762 |
| 7 | 142 | 271 | -40.6 | 47,979 | 1,574 | 49.8 | 880,670 | 6,394 | -6.5 | 2,232,619 | 352 | 55.9 | 73,678 | 14,736 | -101.2 | 2,834,305 |
| 8 | 142 | 388 | -25.7 | 66,595 | 1,399 | -42.4 | 736,342 | 5,754 | -7.4 | 2,213,280 | 173 | -11.6 | 41,213 | 13,185 | -31.0 | 2,600,254 |
| 9 | 146 | 448 | 40.4 | 80,159 | 2,321 | 55.9 | 1,183,593 | 5,590 | -8.5 | 2,041,815 | 204 | -31.2 | 46,245 | 15,139 | 11.9 | 2,941,194 |
| 10 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 11 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 12 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2023年1月～12月累計 | | 3,165 | -2.7 | 522,259 | 17,544 | 0.5 | 7,767,081 | 51,576 | -12.7 | 17,916,368 | 1,776 | -42.9 | 358,873 | 109,615 | 8.4 | 21,465,596 |
| 米 | 国 | 51 | -28.2 | 18,555 | 4,402 | 10.4 | 1,232,453 | 54 | -50.0 | 29,819 | 9,649 | -39.6 | 2,774,852 | | | |
| 英 | 国 | 9 | 28.6 | 3,678 | 102 | -19.7 | 70,885 | 102 | -19.7 | 2,050,004 | 1 | -26.4 | 1,103 | 6 | -80.3 | 968 |
| 中 | 国 | 14 | 1,300.0 | 1,782 | 372 | 80.3 | 103,998 | 3,454 | -22.2 | 1,171,034 | 0 | -100.0 | 0 | 6 | 14.3 | 1,446 |
| 仏 | 国 | 305 | -28.7 | 54,222 | 1,585 | 4.3 | 501,473 | 8,046 | -24.7 | 5,770,656 | 0 | -100.0 | 0 | | | |
| 香 | 港 | | | | | | | | | | | | | | | |
| イ | ン | ド | | | | | | | | | | | | | | |
| ト | ン | レ | 4 | 33.3 | 726 | | | 6 | | 25,131 | | | | 2 | 73.7 | 698 |
| ス | リ | ラ | 1 | 0.0 | 273 | | | 17,808 | -8.1 | 2,345,069 | 346 | 13.0 | 62,356 | 44,903 | -3.3 | 7,061,204 |
| 蘭 | | | | | | | | 178 | -16.3 | 121,412 | | | | | | |
| タ | イ | | | | | | | 288 | -38.9 | 205,004 | 1 | -26.4 | 1,103 | 6 | -80.3 | 968 |
| 独 | 国 | 40 | 42.9 | 10,423 | 3,302 | -1.3 | 1,472,698 | 288 | -38.9 | 205,004 | 1 | -26.4 | 1,103 | 6 | -80.3 | 2,113 |
| 独 | 国 | 10 | 400.0 | 1,703 | 566 | -61.9 | 430,841 | 6 | -99.2 | 5,750 | | | | | | |
| デ | ン | マ | 0 | -100.0 | 0 | | | 647 | 9.0 | 333,754 | 0 | -100.0 | 0 | 48 | 190.3 | 10,601 |
| ブ | ラ | ジ | | | | | | 42 | 357.8 | 13,417 | | | | | | |
| ス | | | | | | | | 1,073 | -9.0 | 867,969 | | | | | | |
| オ | ラ | ダ | 37 | -32.7 | 7,980 | 0 | -100.0 | 10,370 | -10.5 | 3,010,426 | 1,367 | -48.7 | 260,136 | 17 | -41.1 | 7,953 |
| ン | ガ | ポ | 7 | 133.3 | 1,294 | | | 863 | 3.0 | 339,571 | | | | | | |
| シ | ン | ガ | 2 | -66.7 | 796 | | | 2,115 | -26.2 | 1,306,365 | 0 | -100.0 | 0 | 1 | | 553 |
| オ | ス | ト | | | | | | 865 | 26.8 | 390,388 | | | | | | 260 |
| ベ | ト | ナ | | | | | | 222 | -10.5 | 134,824 | | | | | | |
| ニ | ュ | ー | | | | | | 1 | -10.9 | 1,113 | | | | | | |
| ユ | ー | ラ | | | | | | 506 | 22.0 | 345,260 | 6 | 24.7 | 3,075 | 8 | -58.7 | 4,497 |
| マ | レ | ー | | | | | | 37 | -40.8 | 21,926 | | | | | | 3,229 |
| レ | イ | リ | | | | | | 512 | 51.9 | 182,443 | | | | | | 1,139 |
| イ | ン | ギ | | | | | | 506 | 22.0 | 345,260 | | | | | | 4 |
| ン | ベ | イ | 1,988 | -10.0 | 337,623 | | | 37 | -40.8 | 21,926 | 2 | -3.1 | 2,384 | 12 | 9.4 | 1,139 |
| ス | | | 697 | 58.8 | 83,204 | 1,560 | 16.0 | 462,396 | 512 | 51.9 | 182,443 | 0 | -100.0 | 0 | -2.6 | 11,075,460 |
| 伊 | の | | | | | | | | | | | | | | | 520,623 |
| そ | の | 他 | | | | | | | | | | | | | | |

(次頁につづく)

(単位：トン、金額：千円)

(9月分)

| 年月 | 区分 | うどんおよびそうめん | | | その他のめん類 | | | 食パン、乾パン類 | | | ビスケット | | | ふすま | | |
|---------------|-----|------------|---------|---------|---------|--------|------------|----------|-------|-----------|--------|---------|------------|---------|--------|-----------|
| | | 数量 | 前年増減率 | 金額 | 数量 | 前年増減率 | 金額 | 数量 | 前年増減率 | 金額 | 数量 | 前年増減率 | 金額 | 数量 | 前年増減率 | 金額 |
| 2014 | 121 | 379 | 49.9 | 141,348 | 22,055 | -3.7 | 7,253,791 | 7,987 | -17.1 | 2,613,321 | 16,655 | -7.4 | 8,747,826 | 100,799 | -11.2 | 2,657,890 |
| 2015 | 109 | 499 | 31.8 | 207,350 | 21,525 | -2.4 | 7,754,875 | 7,240 | -9.4 | 2,593,509 | 13,899 | -16.5 | 7,862,084 | 72,887 | -27.7 | 1,987,766 |
| 2016 | 112 | 266 | -46.8 | 101,288 | 20,606 | -4.3 | 6,593,003 | 6,119 | -15.0 | 1,998,614 | 18,739 | 34.8 | 8,363,430 | 66,468 | -8.8 | 1,481,114 |
| 2017 | 111 | 272 | 2.4 | 110,939 | 22,243 | 7.9 | 7,207,768 | 5,323 | -13.0 | 1,904,311 | 24,296 | 29.6 | 10,631,548 | 66,017 | -0.7 | 1,550,343 |
| 2018 | 109 | 97 | -64.4 | 41,101 | 22,843 | 2.7 | 7,580,983 | 5,451 | 2.4 | 2,028,010 | 24,853 | 2.3 | 10,682,848 | 67,863 | 2.8 | 1,651,729 |
| 2019 | 109 | 87 | -10.3 | 34,792 | 23,350 | 2.2 | 7,526,310 | 8,040 | 47.5 | 2,695,097 | 25,075 | 0.9 | 10,558,445 | 77,415 | 14.1 | 1,989,882 |
| 2020 | 107 | 21 | -75.4 | 8,521 | 26,232 | 12.3 | 8,424,816 | 7,316 | -9.0 | 2,498,582 | 27,828 | 11.0 | 11,013,909 | 94,350 | 21.9 | 2,359,812 |
| 2021 | 109 | 31 | 43.9 | 12,833 | 27,085 | 3.3 | 9,110,758 | 8,076 | 10.4 | 3,183,462 | 29,844 | 7.2 | 13,508,062 | 85,998 | -8.9 | 2,815,010 |
| 2022 | 131 | 31 | 1.0 | 12,184 | 27,743 | 5.3 | 11,160,104 | 8,503 | 10.4 | 4,098,217 | 32,015 | 7.3 | 18,327,209 | 100,381 | 16.7 | 4,729,422 |
| 2023年1月 | 132 | 3 | 803.6 | 1,568 | 2,091 | -12.8 | 846,062 | 396 | -34.9 | 196,023 | 2,352 | -6.6 | 1,393,753 | 11,578 | -0.2 | 553,302 |
| 2 | 130 | 0 | 0.0 | 0 | 1,740 | -4.5 | 694,163 | 379 | -26.1 | 193,608 | 2,037 | -16.7 | 1,092,984 | 9,114 | 187.1 | 428,772 |
| 3 | 135 | 21 | 3,068.8 | 4,399 | 2,635 | 17.8 | 1,116,419 | 599 | -25.1 | 332,524 | 2,465 | -8.6 | 1,345,198 | 13,950 | 113.1 | 693,044 |
| 4 | 132 | 0 | -100.0 | 0 | 2,482 | -3.8 | 1,026,687 | 655 | -26.4 | 339,405 | 2,191 | 20.2 | 1,238,992 | 7,514 | 136.1 | 352,284 |
| 5 | 135 | 1 | 0.0 | 766 | 2,589 | -5.4 | 1,088,799 | 418 | -51.1 | 224,838 | 2,066 | -24.5 | 1,188,133 | 14,053 | 77.7 | 682,173 |
| 6 | 139 | 0 | -898.0 | 229 | 2,429 | 0.9 | 1,021,098 | 689 | -26.2 | 362,518 | 1,995 | -18.5 | 1,221,643 | 7,141 | -34.7 | 357,870 |
| 7 | 142 | 0 | 0.0 | 0 | 2,306 | -4.8 | 980,723 | 666 | -12.1 | 363,086 | 2,283 | -15.6 | 1,491,705 | 13,229 | 0.0 | 667,379 |
| 8 | 142 | 0 | 0.0 | 0 | 2,269 | -4.4 | 935,376 | 572 | -39.1 | 313,984 | 2,801 | -3.8 | 1,781,685 | 6,788 | -54.4 | 337,827 |
| 9 | 146 | 16 | 0.0 | 2,961 | 2,233 | 6.5 | 1,017,333 | 582 | -15.4 | 314,788 | 2,299 | -26.6 | 1,547,432 | 1,369 | -88.4 | 76,209 |
| 2023年1月～12月累計 | | 41 | 114.2 | 9,923 | 20,773 | -1.4 | 8,726,660 | 4,956 | -29.0 | 2,640,774 | 20,488 | -15.8 | 12,301,525 | 84,736 | 20.9 | 4,148,860 |
| 米 | 国 | | | | 146 | -41.7 | 58,036 | 1,180 | -26.5 | 572,589 | 470 | -52.1 | 876,442 | | | |
| 英 | 国 | | | | | | | 20 | -71.6 | 8,789 | 763 | -3.0 | 991,809 | | | |
| 中 | 国 | 38 | 151.0 | 7,808 | 12,789 | 3.8 | 5,446,073 | 710 | 0.8 | 291,107 | 5,697 | -6.0 | 2,404,005 | 3 | -99.4 | 574 |
| 仏 | 国 | | | | | | 361 | 1,358 | -46.7 | 789,397 | 405 | -7.6 | 590,722 | | | |
| 香 | 港 | | | | | | | | | | 8 | 8.2 | 32,720 | | | |
| イ | ン | | | | 0 | -100.0 | 0 | 3 | | 667 | 4,052 | -35.9 | 1,744,140 | 19,844 | 13.4 | 954,834 |
| ト | ン | | | | | | | | | 259 | 125 | -24.6 | 54,195 | | | |
| ス | ラ | | | | 10 | 1.4 | 3,795 | 32,202 | 38.1 | 32,202 | 77 | 38.1 | 32,202 | 61,907 | 25.3 | 3,024,733 |
| タ | イ | 1 | -66.2 | 766 | 4,099 | -5.5 | 1,664,068 | 152 | 38.4 | 111,093 | 591 | -19.9 | 370,307 | 1,017 | -39.1 | 56,469 |
| 独 | 国 | | | | 515 | -10.3 | 319,456 | 43 | 9.3 | 55,080 | 632 | 5.3 | 212,625 | | | |
| カ | ナ | | | | 9 | 20.4 | 4,442 | 339 | 7.6 | 172,583 | 174 | -7.3 | 128,374 | | | |
| ク | ラ | | | | 9 | | | 1,429 | -24.0 | 21,429 | 209 | -30.8 | 186,658 | | | |
| ア | ラ | | | | 9 | -38.2 | 1,946 | 13 | -29.1 | 6,855 | 115 | -36.8 | 129,809 | 0 | -100.0 | 0 |
| ス | ラ | | | | | | | 3 | -67.0 | 1,846 | 27 | -45.2 | 12,341 | | | |
| オ | ス | | | | | | | 3 | 6.5 | 2,564 | 14 | -4.5 | 51,815 | | | |
| シ | ン | | | | 17 | -43.1 | 6,678 | 274 | 39.4 | 240,214 | 274 | 39.4 | 240,214 | 220 | | 9,024 |
| ン | ス | | | | 1 | | 311 | 633 | 1.2 | 764,644 | 633 | 1.2 | 764,644 | | | |
| オ | ス | | | | 283 | -26.9 | 144,366 | 122 | 20.2 | 43,353 | 34 | -38.8 | 29,033 | | | |
| シ | ン | 1 | 11.1 | 553 | 928 | -23.4 | 396,371 | 214 | -4.2 | 90,821 | 196 | 14.4 | 238,304 | 47 | 75.8 | 2,182 |
| 台 | 湾 | | | | | | | | | | 1,125 | -12.3 | 539,530 | 1,698 | | 101,044 |
| ベ | トナム | | | | | | | | | | 195 | 1,787.7 | 246,280 | | | |
| マ | レー | | | | 170 | 85.0 | 53,283 | 131 | -18.8 | 62,217 | 1,329 | -13.8 | 645,185 | | | |
| フィ | リ | | | | 92 | 129.2 | 24,367 | 4 | 446.0 | 3,257 | 79 | 38.1 | 43,686 | | | |
| ペ | ル | | | | 114 | -8.3 | 46,812 | 19 | 71.4 | 7,381 | 841 | -12.1 | 622,101 | | | |
| アル | ゼン | | | | 0 | -100.0 | 0 | 141 | -34.1 | 90,882 | 469 | 13.4 | 181,546 | | | |
| ス | イス | 1 | 148.9 | 796 | 1,573 | 12.7 | 546,240 | 50 | -26.2 | 37,452 | 1,364 | 0.5 | 690,113 | | | |
| 伊 | 国 | | | | 18 | 31.3 | 10,053 | 328 | -46.0 | 218,372 | 587 | -24.3 | 322,725 | | | |
| そ | の | | | | | | | | | | | | | | | |

(注) 財務省貿易統計(全国分)品別国別表>輸入>月次)による。(2020年3月より年月表記を財務省貿易統計データに準じて西暦記載)

小麦加工食品の輸出の推移(2023年8・9月分)

(単位：トン、金額：千円)

| 年 月 | 区 分 | 小麦粉、小麦(ひき割、ミール、ペレット) | | | 小麦粉調製品(ケーキ、ミックスを含む) | | | マカロニおよびスパゲッティ | | | うどんおよびそうめん | | |
|-------------|--------|----------------------|-------|------------|---------------------|-------|-----------|---------------|-------|---------|------------|-------|-----------|
| | | 数量 | 前年増減率 | 金額 | 数量 | 前年増減率 | 金額 | 数量 | 前年増減率 | 金額 | 数量 | 前年増減率 | 金額 |
| 2015 | 121 | 157,938 | -5.0 | 7,855,434 | 2,374 | 4.4 | 1,063,480 | 563 | -3.2 | 140,319 | 12,791 | 16.4 | 3,806,919 |
| 2016 | 109 | 158,861 | 0.6 | 6,860,588 | 2,551 | 7.5 | 1,073,376 | 549 | -0.6 | 131,138 | 13,504 | 5.6 | 4,077,925 |
| 2017 | 112 | 167,600 | 5.5 | 7,233,288 | 2,562 | 0.4 | 1,198,531 | 532 | -3.2 | 131,089 | 13,759 | 1.9 | 4,218,943 |
| 2018 | 111 | 163,640 | -2.4 | 7,427,758 | 2,592 | 1.2 | 1,291,073 | 535 | 0.6 | 136,263 | 14,064 | 2.2 | 4,266,026 |
| 2019 | 109 | 168,326 | 2.9 | 8,270,910 | 2,884 | 11.3 | 1,323,207 | 533 | -0.4 | 154,401 | 13,731 | -2.4 | 4,363,678 |
| 2020 | 107 | 167,373 | -0.6 | 8,337,883 | 2,555 | -11.4 | 1,142,142 | 574 | 7.8 | 164,995 | 12,830 | -6.6 | 4,452,036 |
| 2021 | 109 | 174,690 | 4.4 | 10,047,728 | 3,506 | 37.2 | 1,459,281 | 692 | 20.5 | 180,325 | 12,270 | -4.4 | 4,109,451 |
| 2022 | 131 | 165,282 | -5.4 | 12,884,683 | 3,283 | -6.4 | 1,393,951 | 697 | 0.8 | 210,426 | 11,990 | -2.3 | 4,196,139 |
| 2023年1月 | 132 | 11,227 | 0.1 | 817,139 | 193 | -28.8 | 78,318 | 19 | -56.2 | 6,442 | 775 | 16.9 | 271,206 |
| 2 | 130 | 13,643 | -5.8 | 1,026,080 | 228 | -0.9 | 100,935 | 28 | -72.5 | 11,366 | 887 | 13.7 | 327,941 |
| 3 | 135 | 12,537 | -17.5 | 981,305 | 233 | -23.1 | 102,507 | 39 | -43.9 | 13,908 | 982 | -18.6 | 353,677 |
| 4 | 132 | 13,989 | 10.6 | 1,056,967 | 335 | 19.8 | 148,366 | 47 | -47.1 | 17,953 | 1,182 | -6.8 | 428,786 |
| 5 | 135 | 13,728 | 1.9 | 1,073,869 | 174 | -28.6 | 76,728 | 38 | -17.9 | 11,747 | 861 | -13.6 | 312,952 |
| 6 | 139 | 15,349 | 4.9 | 1,303,999 | 301 | -16.4 | 123,358 | 23 | -51.1 | 8,978 | 969 | -13.6 | 359,602 |
| 7 | 142 | 12,988 | -7.7 | 1,120,713 | 226 | -31.9 | 111,768 | 54 | 3.3 | 30,479 | 1,115 | -7.6 | 422,248 |
| 8 | 142 | 13,806 | 23.6 | 1,109,112 | 225 | 22.3 | 108,588 | 65 | 0.9 | 21,086 | 857 | 7.5 | 335,004 |
| 9 | 146 | 14,175 | 8.5 | 1,165,688 | 259 | -20.1 | 113,509 | 33 | -15.2 | 12,950 | 1,154 | 14.3 | 452,790 |
| 2023年1~12月計 | | 121,442 | 1.2 | 9,654,872 | 2,174 | -14.0 | 964,077 | 346 | -37.3 | 134,909 | 8,783 | -3.0 | 3,264,206 |

| 年 月 | 区 分 | ビスケット(スイート) | | | その他のペーカリー製品等 | | | インスタントラーメン | | |
|-------------|--------|-------------|-------|-----------|--------------|-------|------------|------------|-------|------------|
| | | 数量 | 前年増減率 | 金額 | 数量 | 前年増減率 | 金額 | 数量 | 前年増減率 | 金額 |
| 2015 | 121 | 1,249 | 45.0 | 1,701,696 | 25,462 | 20.0 | 28,390,941 | 7,892 | 11.5 | 4,276,613 |
| 2016 | 109 | 1,293 | 3.5 | 1,603,932 | 26,529 | 4.2 | 30,448,086 | 8,701 | 10.3 | 5,144,905 |
| 2017 | 112 | 778 | -39.8 | 1,079,211 | 25,557 | -3.7 | 29,838,397 | 9,235 | 6.1 | 5,837,269 |
| 2018 | 111 | 894 | 14.8 | 1,267,973 | 26,413 | 3.4 | 31,079,009 | 9,884 | 7.0 | 6,258,420 |
| 2019 | 107 | 876 | -1.9 | 1,049,931 | 25,805 | -2.3 | 30,576,732 | 9,078 | -8.1 | 6,002,485 |
| 2020 | 107 | 881 | 0.5 | 1,068,887 | 26,096 | 1.1 | 30,774,145 | 12,106 | 33.4 | 8,556,592 |
| 2021 | 109 | 1,051 | 19.3 | 1,568,196 | 31,896 | 22.2 | 39,935,339 | 12,041 | -0.5 | 9,262,722 |
| 2022 | 131 | 890 | -15.4 | 1,626,058 | 35,032 | 9.8 | 46,668,588 | 12,699 | 5.5 | 10,047,706 |
| 2023年1月 | 132 | 50 | -9.4 | 153,984 | 1,559 | -10.1 | 2,145,061 | 699 | 5.6 | 560,642 |
| 2 | 130 | 68 | 2.9 | 120,062 | 2,372 | -3.9 | 3,172,905 | 933 | 4.0 | 827,440 |
| 3 | 135 | 61 | -2.1 | 109,944 | 2,750 | -5.4 | 3,631,186 | 1,051 | -27.6 | 920,354 |
| 4 | 132 | 67 | -10.3 | 103,263 | 2,766 | -0.5 | 3,604,469 | 1,111 | -25.8 | 929,407 |
| 5 | 135 | 68 | -12.4 | 106,260 | 2,362 | -8.7 | 3,037,173 | 993 | -10.8 | 866,426 |
| 6 | 139 | 57 | -23.2 | 86,135 | 2,883 | -7.5 | 3,702,017 | 1,078 | -1.9 | 891,294 |
| 7 | 142 | 52 | 31.8 | 73,482 | 2,665 | -8.1 | 3,518,351 | 970 | 0.1 | 842,272 |
| 8 | 142 | 59 | 9.8 | 110,950 | 2,488 | -8.1 | 3,437,487 | 849 | -9.7 | 712,120 |
| 9 | 146 | 87 | 34.8 | 145,937 | 2,969 | -2.6 | 4,218,159 | 908 | 0.1 | 832,539 |
| 2023年1~12月計 | | 571 | -6.0 | 1,010,017 | 22,815 | -5.9 | 30,466,808 | 8,591 | -9.9 | 7,382,494 |

(注) ①財務省貿易統計(全国分>品別国別表>輸出>月次)による(2020年3月号より年月表記を財務省貿易統計データに準じて西暦記載)。

②その他のペーカリー製品等は、スイートビスケットおよび米菓を除く焼菓子類並びにライスペーパー等をいう。

国際価格の推移 (2023年10月・11月分)

(単位：トン当たりドル、()内はブッシェル当たりドル)

| 品名 | 年 | | 月 | | | | | | | | | | |
|------------------------------|---------------|---------------|---------------|---------------|---------------|---------------|---------------|---------------|---------------|---------------|---------------|---------------|--|
| | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | |
| 小麦 | (5.33) 196 | (5.33) 196 | (5.09) 187 | (4.91) 180 | (5.02) 184 | (4.89) 180 | (5.84) 215 | (5.01) 184 | (4.86) 178 | (5.03) 185 | (4.96) 182 | (4.94) 182 | |
| (シカゴ・SRW小麦No.2, 期近もの) | (4.69) 172 | (4.64) 171 | (4.77) 175 | (4.60) 169 | (4.75) 174 | (4.78) 175 | (4.22) 155 | (4.22) 155 | (3.77) 138 | (4.21) 155 | (3.99) 147 | (4.09) 150 | |
| | (4.26) 156 | (4.55) 167 | (4.12) 151 | (4.30) 158 | (4.23) 156 | (4.54) 167 | (4.95) 182 | (4.30) 158 | (4.21) 155 | (4.40) 161 | (4.28) 157 | (4.18) 153 | |
| | (4.17) 153 | (4.62) 170 | (4.79) 176 | (4.73) 174 | (4.94) 181 | (5.00) 184 | (4.82) 177 | (5.32) 196 | (4.80) 176 | (5.25) 193 | (5.08) 187 | (5.28) 194 | |
| | (5.11) 188 | (5.04) 185 | (4.48) 164 | (4.60) 169 | (4.49) 165 | (5.39) 198 | (5.08) 187 | (4.69) 172 | (4.89) 180 | (5.07) 186 | (5.17) 185 | (5.39) 198 | |
| | (5.73) 211 | (5.43) 199 | (5.12) 188 | (5.40) 199 | (5.02) 185 | (5.05) 186 | (5.51) 202 | (5.00) 184 | (5.38) 198 | (6.18) 227 | (5.98) 220 | (6.00) 220 | |
| | (6.75) 248 | (6.58) 242 | (6.45) 237 | (6.54) 240 | (6.84) 270 | (6.61) 243 | (6.72) 247 | (7.61) 280 | (7.13) 262 | (7.34) 270 | (8.27) 304 | (7.56) 278 | |
| | (7.42) 273 | (7.80) 287 | (11.5) 424 | (11.0) 403 | (12.5) 459 | (10.5) 386 | (7.81) 287 | (8.00) 294 | (8.44) 310 | (8.62) 317 | (8.28) 304 | (7.58) 279 | |
| | (7.44) 273 | (7.69) 282 | (7.02) 258 | (6.83) 251 | (6.61) 243 | (6.62) 243 | (6.54) 240 | (5.99) 220 | (6.04) 222 | (5.77) 212 | (5.72) 210 | | |
| とうもろこし | (3.80) 150 | (3.87) 152 | (3.74) 147 | (3.76) 148 | (3.61) 142 | (3.48) 137 | (4.24) 167 | (3.63) 143 | (3.79) 149 | (3.76) 148 | (3.58) 141 | (3.77) 149 | |
| (シカゴ、イエロー・ コーンNo.2, 期近もの) | (3.58) 141 | (3.63) 143 | (3.69) 145 | (3.79) 149 | (3.94) 155 | (4.29) 169 | (3.62) 142 | (3.27) 129 | (3.22) 127 | (3.54) 139 | (3.42) 135 | (3.57) 141 | |
| | (3.59) 141 | (3.79) 149 | (3.54) 139 | (3.71) 146 | (3.68) 145 | (3.80) 150 | (3.65) 144 | (3.55) 140 | (3.39) 133 | (3.53) 139 | (3.38) 133 | (3.48) 137 | |
| | (3.48) 137 | (3.68) 145 | (3.87) 152 | (3.86) 152 | (4.02) 158 | (3.61) 142 | (3.30) 130 | (3.62) 142 | (3.37) 133 | (3.78) 149 | (3.67) 144 | (3.77) 148 | |
| | (3.71) 146 | (3.75) 148 | (3.62) 142 | (3.63) 143 | (3.70) 146 | (4.53) 178 | (4.41) 174 | (3.61) 142 | (3.74) 147 | (3.93) 155 | (3.78) 146 | (3.66) 144 | |
| | (3.88) 153 | (3.78) 149 | (3.70) 146 | (3.19) 126 | (3.17) 125 | (3.29) 130 | (3.26) 128 | (3.24) 128 | (3.66) 144 | (4.03) 159 | (4.16) 164 | (4.24) 167 | |
| | (5.31) 209 | (5.52) 217 | (5.49) 216 | (5.90) 232 | (7.27) 267 | (6.67) 263 | (5.64) 222 | (5.64) 222 | (5.33) 210 | (5.25) 207 | (5.76) 227 | (5.85) 231 | |
| | (5.96) 235 | (6.37) 251 | (7.57) 298 | (7.90) 311 | (8.09) 319 | (7.73) 305 | (6.06) 239 | (6.26) 247 | (6.76) 266 | (6.90) 272 | (6.66) 262 | (6.53) 257 | |
| | (6.75) 266 | (6.75) 266 | (6.25) 246 | (6.66) 262 | (5.92) 233 | (6.23) 245 | (4.99) 197 | (4.64) 183 | (4.76) 187 | (4.89) 193 | (4.78) 188 | | |

(注) シカゴ相場による月央の終値である(2023年10月分は10月16日、2023年11月分は11月14日)。

輸入食糧小麦の入札結果（港湾諸経費を除く）の概要

（単位：トン、円／トン）

| 入札月および積月 | | 令和5年3月第2・3回入札分 (5・7月積み／6・8月到着) | | | 令和5年4月入札分 (6・8月積み／7・9月到着) | | | 令和5年5月入札分 (7・9月積み／8・10月到着) | | | 令和5年6月入札分 (8・10月積み／9・11月到着) | | |
|----------|-----|-----------------------------------|-----------------------|---------------------------------|------------------------------|-----------------------|---------------------------------|-------------------------------|-----------------------|---------------------------------|--------------------------------|-----------------------|---------------------------------|
| 産地国 | 銘柄 | 数量 | 落札価格 (加重平均) ※税別 | [参考値] ※左の税 込み価格 (税率8%) | 数量 | 落札価格 (加重平均) ※税別 | [参考値] ※左の税 込み価格 (税率8%) | 数量 | 落札価格 (加重平均) ※税別 | [参考値] ※左の税 込み価格 (税率8%) | 数量 | 落札価格 (加重平均) ※税別 | [参考値] ※左の税 込み価格 (税率8%) |
| アメリカ | WW | 0 | — | — | 5,387 | 46,286 | 49,989 | 4,815 | 45,277 | 48,899 | 6,882 | 47,300 | 51,084 |
| | SH | 61,970 | 53,887 | 58,198 | 28,380 | 55,102 | 59,510 | 21,055 | 55,109 | 59,518 | 10,770 | 54,100 | 58,428 |
| | DNS | 10,540 | 55,164 | 59,577 | 51,290 | 53,743 | 58,042 | 16,344 | 53,241 | 57,500 | 14,454 | 55,200 | 59,616 |
| | 小計 | 72,510 | 54,073 | 58,399 | 85,057 | 53,724 | 58,022 | 42,214 | 53,264 | 57,525 | 32,106 | 53,138 | 57,389 |
| カナダ | 1CW | 54,030 | 49,648 | 53,620 | 85,940 | 49,284 | 53,227 | 126,147 | 49,486 | 53,445 | 81,137 | 50,570 | 54,616 |
| | 小計 | 54,030 | 49,648 | 53,620 | 85,940 | 49,284 | 53,227 | 126,147 | 49,486 | 53,445 | 81,137 | 50,570 | 54,616 |
| オーストラリア | ASW | 27,548 | 47,761 | 51,582 | 52,660 | 49,606 | 53,574 | 71,168 | 43,157 | 46,610 | 66,208 | 44,688 | 48,263 |
| | 小計 | 27,548 | 47,761 | 51,582 | 52,660 | 49,606 | 53,574 | 71,168 | 43,157 | 46,610 | 66,208 | 44,688 | 48,263 |
| | 計 | 154,088 | 51,393 | 55,504 | 223,657 | 51,048 | 55,132 | 239,529 | 48,271 | 52,133 | 179,451 | 48,859 | 52,768 |

| 入札月および積月 | | 令和5年7月入札分 (9・11月積み／10・12月到着) | | | 令和5年8月、9月第1回入札分 (10・11月積み／11・12月到着) | | | 令和5年9月第2・3回入札分 (11・12月積み／12・1月到着) | | | 令和5年10月入札分 (12・1月積み／1・2月到着) | | |
|----------|-----|---------------------------------|-----------------------|---------------------------------|--|-----------------------|---------------------------------|--------------------------------------|-----------------------|---------------------------------|--------------------------------|-----------------------|---------------------------------|
| 産地国 | 銘柄 | 数量 | 落札価格 (加重平均) ※税別 | [参考値] ※左の税 込み価格 (税率8%) | 数量 | 落札価格 (加重平均) ※税別 | [参考値] ※左の税 込み価格 (税率8%) | 数量 | 落札価格 (加重平均) ※税別 | [参考値] ※左の税 込み価格 (税率8%) | 数量 | 落札価格 (加重平均) ※税別 | [参考値] ※左の税 込み価格 (税率8%) |
| アメリカ | WW | 52,158 | 44,263 | 47,804 | 69,117 | 45,803 | 49,467 | 20,465 | 49,607 | 53,576 | 38,292 | 48,942 | 52,857 |
| | SH | 20,210 | 50,449 | 54,485 | 20,890 | 51,990 | 56,149 | 3,380 | 52,099 | 56,267 | 8,825 | 51,005 | 55,085 |
| | DNS | 64,754 | 53,371 | 57,641 | 53,523 | 54,302 | 58,646 | 23,070 | 55,399 | 59,831 | 20,898 | — | — |
| | 小計 | 137,122 | 49,476 | 53,434 | 143,530 | 49,873 | 53,863 | 46,915 | 52,635 | 56,846 | 68,015 | — | — |
| カナダ | 1CW | 153,668 | 52,406 | 56,598 | 226,070 | 52,572 | 56,778 | 104,232 | 53,859 | 58,168 | 136,429 | 52,822 | 57,048 |
| | 小計 | 153,668 | 52,406 | 56,598 | 226,070 | 52,572 | 56,778 | 104,232 | 53,859 | 58,168 | 136,429 | 52,822 | 57,048 |
| オーストラリア | ASW | 55,063 | 45,602 | 49,250 | — | — | — | 57,283 | 53,827 | 58,133 | 67,303 | 50,334 | 54,361 |
| | 小計 | 55,063 | 45,602 | 49,250 | — | — | — | 57,283 | 53,827 | 58,133 | 67,303 | 50,334 | 54,361 |
| | 計 | 345,853 | 50,161 | 54,174 | 369,600 | 51,524 | 55,646 | 208,430 | 53,575 | 57,861 | 271,747 | — | — |

(注1)：上表の詳細は、農林水産省ホームページ「農産物」>「米・小麦」>「定例販売情報」>「輸入米取引関連資料」>「小麦」>「一般麦を探索して輸入小麦に該当する箇所をご覧ください。」
 (注2)：アメリカ産DNSについては、落札者が1者のため、別途「公共調達適正化について」(平成18年8月25日付け財計第2017号)に基づき契約に関する情報が公表されるまでの間、落札価格を非公表とする。
 (資料)：農林水産省農産局農産政策部貿易業務課

製粉振興 令和5(2023)年(No.622~627)目次

| 月別 | 巻頭言(題名) | 解説、レポート、随想、ソフト&ハード | 執筆者 |
|----|----------------------|--|---|
| | | 題名 | |
| 1 | | <p>農林水産省における食品の安全性向上の取組について</p> <p>国内産小麦の民間流通の取引概要 (令和5年産の入札を中心に)</p> <p>健康増進に活かす時間栄養学</p> <p>製粉と小麦粉のお国ぶり：その後 —その3— ドイツ</p> <p>小麦粉のある風景 「そば」よもやまばなし4</p> | <p>漆山哲生</p> <p>内川靖</p> <p>篠田粧子</p> <p>長尾精一</p> <p>ひらのあさか</p> |
| 3 | 「輸入小麦の政府売渡価格の改定について」 | <p>食品の原材料価格等の上昇を踏まえた適切な価格転嫁のための政府の取組</p> <p>食物繊維の機能性、二次加工上の課題及びその対策 —「第二回日清製粉国際穀物科学シンポジウム」から</p> <p>Cereals & Grains 22に参加して</p> <p>イモのはなし —その2</p> <p>小麦粉のある風景 おでん大好き</p> | <p>細川仁</p> <p>西辻泰之</p> <p>青野志郎</p> <p>畑江敬子</p> <p>ひらのあさか</p> |
| 5 | 輸入小麦の政府売渡価格改定についての課題 | <p>「USDA(米国農務省)2032年農業見通し」の概要 (小麦について)</p> <p>令和5年度「麦の需給に関する見通し」について</p> <p>令和5年4月期の輸入小麦の政府売渡価格の改定について</p> <p>改めて食料と農業を考える：激変した国際情勢のもとで</p> <p>製粉と小麦粉のお国ぶり：その後 —その4— アルゼンチン</p> <p>小麦粉のある風景 お隣りのアジア小麦粉料理</p> | <p>上林篤幸</p> <p>齋藤雄</p> <p>大塚将史</p> <p>生源寺真一</p> <p>長尾精一</p> <p>ひらのあさか</p> |

| 月別 | 巻頭言(題名) | 解説、レポート、随想、ソフト&ハード | 執筆者 |
|----|---------------------------|--|--|
| | | 題名 | |
| 7 | 食料安全保障について考える | <p>食料・農業・農村基本法の検証・見直しについて</p> <p>食品ロス削減及びリサイクル促進に関する農林水産省の取組みについて</p> <p>最近の外食・中食産業の動向(コロナ禍の外食・中食)</p> <p>イモのはなし ―その3</p> <p>小麦粉のある風景 ケーキのいい話</p> | <p>加藤 史 彬</p> <p>森 幸 子</p> <p>堀田 宗 徳</p> <p>畑江 敬 子</p> <p>ひらの あさか</p> |
| 9 | 今般の輸入小麦の政府売渡価格の改定と製粉業界の対応 | <p>令和4年産国内産小麦の品質評価について</p> <p>光学式選別機とこれからの精選工程</p> <p>食育推進の取組について</p> <p>製粉と小麦粉のお国ぶり：その後 ―その5― ナイジェリア</p> <p>小麦粉のある風景 グッド・モーニング！</p> | <p>明石 肇</p> <p>金子 亘</p> <p>田中 早苗</p> <p>長尾 精一</p> <p>ひらの あさか</p> |
| 11 | 2023年を振り返って | <p>令和5年10月期の輸入小麦の政府売渡価格の改定について</p> <p>特定技能制度における飲食料品製造業分野の外国人材の受入れ～特定技能2号対象分野の追加について～</p> <p>「物流の2024年問題」と物流革新に向けた「政策パッケージ」について</p> <p>蕎麦</p> <p>小麦粉のある風景 揚げ物に合う調味料は何？</p> | <p>大塚 将 史</p> <p>猪狩 宗 徳</p> <p>藏谷 恵 大</p> <p>畑江 敬 子</p> <p>ひらの あさか</p> |

—「ソフト＆ハード」(読者の欄)への投稿のお願い—

読者の皆様、弊会の機関誌「製粉振興」の内容を、より親しみのもてるものにするために、次のような内容の投稿をお待ちしていますので、記事をお寄せ下さい。

また、この本誌の内容の充実を図っていきたいと考えていますので、ご意見等がございましたらお寄せ下さい。

- ・テーマは、小麦や小麦粉製品についての随想、紹介等と考えていますが、小麦と関係のない趣味などの話でも結構です
- ・投稿者名は実名でも筆名でも結構です
- ・長さは1,200字程度(1頁)とします ・掲載分には薄謝を進呈します



★編集後記

●先週まで夏日だったのに今週はもう北から初雪の便りが届く、そんな天候に振り回されて体調を崩したりしていらっしゃるかもしれませんでしょうか。これも地球温暖化の影響?新しい日常?と諦め気味のこの頃ですが、諦めてしまう訳にはいかない課題もあります。

本号では、少子高齢化と人口減少に突入した我が国が直面する大きな壁＝労働力不足問題に対応した特定技能制度による外国人材受入れと、いわゆる物流の2024年問題について農林水産省担当官よりご寄稿頂きました。一食品産業分野に止まらない困難な課題ですが、関係者の知恵を結集して取り組むことで、この課題を必ず乗り越えていけると信じたいものです。

新型コロナウイルス感染症が下火になってきたら、ロシアによるウクライナ侵攻、そして、今度はイスラエル・パレスチナの紛争激化と心落ち着かない世界情勢の中、今年も暮れようとしています。本年も小誌をご愛読有り難うございました。 編集人

●お店に立ち寄ると、商品が値上がりしていたり、手にとるとなんとなく小さく感じたり。2023年は、食品価格の高騰や物価高がニュースで話題となりました。海外では、ウクライナ紛争の影響か、燃油価格の高騰、肥料、飼料価格高騰など、農畜産業や食品製造業にあっては厳しい年であったのかとも思われます。現実には、平時と常時のバランスの上になりたつものなのかと思うと、日常生活の中で、普通に生活できることは、とてもありがたいことと感じます。

新しい2024年には、今号でご執筆いただいた物流問題や農基法改正に向けた食料安保や食品産業の持続的発展に向けたご議論もなされていくのかと。各種制度や生産製造、そして物流、サービスと係る労働力の確保に加え新たな技術革新が益々芽生え、より良き年になればと思う所存です。もうすぐ師走、まずは今年お世話になりましたすべての方に感謝したいと思います。 編集者八

●今回の解説記事は、まさに日本が直面している問題を執筆いただきました。まだ議論途中のものに関しては、中間報告的な内容での掲載となっております。今後もアンテナを張って旬のものをお伝えするようにしますので、ご期待ください。



昨年(2022)のXmasディスプレイです。今年もがんばってディスプレイしますので、是非見に来てください。皆さまも素敵なクリスマスを! 編集者S

製粉振興 11月号 (No.627)

発行／令和5年11月20日

編集発行人／佐藤 秀夫

発行所／一般財団法人 製粉振興会

〒103-0026 東京都中央区日本橋兜町15番6号
製粉会館2階

Tel.(03) 3666-2712 (代表)

Fax.(03) 3667-1883

<https://www.seifun.or.jp>

E-mail:info@seifun.or.jp



禁無断転載

本誌において、個人名による掲載文のうちの意見にわたる部分は、
筆者の個人見解である。

